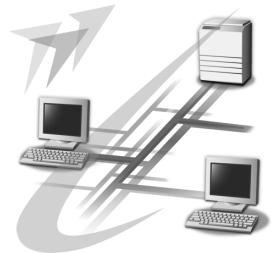




使用説明書 (ネットワークガイド)



-
- 1** プリントサーバーの準備
 - 2** 機器の監視
 - 3** Windowsの補足情報
 - 4** Mac OSで使う
 - 5** UNIXで使う
 - 6** 付録
 - 7** 仕様

ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『本機のご利用にあたって』『安全上のご注意』をお読みください。



はじめに

- ・このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
- ・この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載しております。ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。

使用説明書の分冊構成

お使いになる目的に応じて、必要な使用説明書をお読みください。

★重要

- ・本機の使用説明書は、紙マニュアルと電子マニュアル（PDF形式）が用意されています。
- ・電子マニュアルは、付属のCD-ROMに収録されています。
- ・提供される形態は使用説明書により異なります。詳しくは、「マニュアル一覧表」を参照してください。
- ・PDF形式の使用説明書を表示するには、Adobe Acrobat Reader/Adobe Readerが必要です。

◆本機のご利用にあたって

「安全上のご注意」について記載しています。本機のご利用前に必ずお読みください。また、本機で使用できる機能の概要、機械を使うための準備、操作部の説明、文字入力方法、付属CDのインストール方法などについても説明しています。

◆初期設定編

本機を使うための各機能の初期設定方法、アドレス帳の登録方法、機器の接続方法について説明しています。

◆こんなときには

困ったときの対処方法や、消耗品の交換などについて説明しています。

◆セキュリティ編

管理者向けの説明書です。本機を不正な使用やデータの改ざんといった脅威から守るために、各管理者の設定方法、ユーザー認証の設定方法などについて説明しています。セキュリティ強化機能や認証の設定を行う前に必ずお読みください。

◆コピー機能／ドキュメントボックス機能編

コピーを使うための設定、機能と操作方法、原稿の設定方法について説明しています。また、ドキュメントボックスの使用方法についても説明しています。

◆プリンター機能編

プリンターを使うための設定、機能と操作方法について説明しています。

◆スキャナー機能編

スキャナーを使うための設定、機能と操作方法について説明しています。

◆ネットワークガイド（本書）

ネットワーク環境で使う方法、付属のソフトウェアを使う方法について説明しています。

◆RP-G2編

RP-DL/2エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

◆RTIFF編

RTIFFエミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

◆その他の使用説明書

- ・クイックガイド
- ・PostScript3編

マニュアル一覧表

分冊名	紙マニュアル	電子マニュアル (PDF 形式)
本機のご利用にあたって	あり	なし
初期設定編	なし	あり
こんなときには	あり	なし
セキュリティ編	あり	なし
コピー機能 / ドキュメントボックス機能編	なし	あり
プリンター機能編	なし	あり
スキャナー機能編	なし	あり
ネットワークガイド	なし	あり
RP-GL/2 編	なし	あり
RTIFF 編	なし	あり
PostScript 3 編	なし	あり
クイックガイド	あり	なし

目次

使用説明書の分冊構成	1
マニュアル一覧表	2
この本の読みかた	7
マークについて	7
おもなオプションと略称	8
初期設定項目一覧	9
初期設定項目概要	9
初期設定項目一覧	12

1. プリントサーバーの準備

Windows ネットワークプリンターを設定する	19
Network Monitor for Client 経由で印刷通知をする	20
プリントサーバーの設定をする	20
クライアントの設定をする	21
NetWare を使用する	22
プリントサーバーを使用する (NetWare 3.xJ)	23
プリントサーバーを使用する (NetWare 4.xJ、NetWare 5/5.1J、NetWare 6/6.5J)	25
プリントサーバーを使用する (NetWare 5/5.1J のピュア IP 環境)	26
プリントサーバーを使用する (NetWare 6/6.5J のピュア IP 環境)	29
リモートプリンタとして使用する (NetWare 3.xJ)	32
リモートプリンタとして使用する (NetWare 4.xJ、5/5.1J)	35
リモートプリンタとして使用する (NetWare 6/6.5J)	38

2. 機器の監視

Web ブラウザを使う	41
トップページを表示する	43
ユーザー認証が設定されているとき	44
Web Image Monitor からのログインのしかた	44
Web Image Monitor からのログアウトのしかた	44
メニュー構成とモード	45
管理者モードでアクセスする	47
Web ブラウザでの設定項目一覧	48
Web ブラウザでの設定	48
Web Image Monitor のヘルプについて	51
ヘルプのダウンロード	52
ヘルプへのアドレス (URL) リンク	53
Network Monitor for Admin を使う	54
Network Monitor for Admin のインストール	55
ネットワークインターフェースボードの設定を変更する	56
機器側操作部のメニューをロックする	57
用紙種類を設定する	59
ユーザー情報を管理する	60
ユーザー情報管理ツールを起動する	60
印刷枚数を表示する	61
印刷枚数の情報を保存する	61
印刷枚数の情報をリセットする	62
利用制限を設定する	64
ユーザーごとに利用可能な機能を設定する	65

省エネモードを設定する	67
パスワードを設定する	68
機器の状態を表示する	69
本体名とコメントを変更する	70
スプール印刷ジョブの一覧を確認する	71
アドレス情報を管理する	72
Network Monitor for Client を使う	73
監視する機器を設定する	73
機器の状態を表示する	74
Network Monitor for Client で IPP を使用する場合	75
機器の状態をメールで通知する	76
「自動メール通知」の設定	78
「要求時メール通知」の設定	79
メールの認証について	80
要求時メールの送信	81
telnet を使う	83
操作の流れ	83
access	84
authfree	85
autonet	86
bonjour (rendezvous)	86
devicename	88
dhcp	88
diprint	89
dns	90
domainname	91
help	91
hostname	92
ifconfig	92
info	93
ipp	94
ipv6	94
lpr	95
netware	95
passwd	96
pathmtu	97
pmlog	97
route	97
set	99
show	101
slp	101
smb	101
snmp	102
sntp	105
spoolsw	105
ssdp	106
ssh	106
status	107
syslog	107
upnp	107
web	108
wiconfig	109
wins	113
SNMP	114

ネットワーク経由で確認できる情報	115
機器の状態	115
機器情報	120
取得情報の内容	121
プリントジョブ情報	121
プリントログ情報	122
ネットワークインターフェースボードの情報	123
メッセージ一覧	129
システムログ情報	129

3. Windows の補足情報

Windows からのファイル直接印刷	137
セットアップ	137
IP アドレスの代わりにホスト名を使用する	138
DNS を使用している場合	138
DHCP を使用してプリンターの IPv4 アドレスを設定している場合	138
その他の場合	138
印刷方法	140
lpr	141
rcp	141
ftp	142

4. Mac OS で使う

EtherTalk への切り替え	143
Mac OS	143
Mac OS X	145
本機の設定	146
プリンター名の変更	147
ゾーンの変更	148
USB インターフェースを使う	149
Mac OS	149
Mac OS X	151
Rendezvous を使う	152
Bonjour を使う	153

5. UNIX で使う

セットアップ (UNIX)	155
LPD の設定方法	155
BSD ベースの LPD システム	155
Solaris の LP システム	157
オプション指定	159
エミュレーションとプログラム	160
給紙トレイ	161
用紙サイズ	161
用紙種類	162
排紙トレイ	162
印刷部数	162
ソート部数	163
解像度	163
オプション指定の変更方法	164
本機の状態表示	165
表示する場合	165
ファイルにコピーする場合	165

6. 付録

Windows ターミナルサービス /MetaFrame を使用する場合	167
動作環境	167
制限	168
DHCP を使用する	169
AutoNet 機能を使用する	169
WINS サーバーを使用する場合	170
Web ブラウザを使用する方法	170
telnet を使用する方法	171
ダイナミック DNS 機能を使用する	172
更新処理について	172
動作対象の DNS サーバー	173
動作対象の DHCP サーバー	173
ダイナミック DNS 機能の設定方法	173
使用上の注意	174
ネットワークに ISDN 回線を接続している場合	174
ネットワーク管理上の対応方法	174
NetWare 環境で印刷する場合	175
フォームフィードの設定	175
バナーページの設定	175
本機のリセット後に印刷するとき	175
拡張無線 LAN ボード (オプション) を取り付けているとき	176

7. 仕様

ネットワーク仕様	177
対応インターフェース/フォーマット/プロトコル	177
搭載アプリケーション	178

索引	179
----------	-----

この本の読みかた

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

△警告

※安全上のご注意についての説明です。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。『本機のご利用にあたって』「安全上のご注意」にまとめて記載していますので、必ずお読みください。

△注意

※安全上のご注意についての説明です。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。『本機のご利用にあたって』「安全上のご注意」にまとめて記載していますので、必ずお読みください。

★重要

機能をご利用になるときに留意していただきたい項目を記載しています。紙づまり、原稿破損、データ消失などの原因になる項目も記載していますので、必ずお読みください。

↓補足

機能についての補足事項、操作を誤ったときの対処方法などを記載しています。

○参照

説明、手順の中で、ほかの記載を参照していただきたい項目の参照先を示しています。各タイトルの一番最後に記載しています。

[]

キーとボタンの名称を示します。

『』

本書以外の分冊名称を示します。

おもなオプションと略称

おもなオプションの名称と、本文中で使用している略称を示します。

商品名	略称
ロール給紙ユニット 1段 WG2/WG3	1段ロールユニット ^{*1}
ロール給紙ユニット 2段 WG2/WG3	2段ロールユニット ^{*1}
カセット CT6500	カット紙トレイ
拡張 1284 ボード タイプ B	拡張 1284 ボード ^{*2}
拡張無線 LAN ボード タイプ J	拡張無線 LAN ボード ^{*2}
GigaBit イーサネットボードタイプ 6	イーサネットボード ^{*2}
PS3 カード WG2/WG3	PS3 カード (PostScript 3、PDF Direct)

^{*1} 同時に装着することはできません。

^{*2} 同時に装着することはできません。

補足

- ・その他のオプションについては、『本機のご利用にあたって』「おもなオプションと略称」を参照してください。

参照

- ・『本機のご利用にあたって』「おもなオプションと略称」

初期設定項目一覧

ここでは、ネットワーク設定項目の一覧および概要を説明します。

詳しい設定方法については『初期設定編』「ネットワークの設定」を参照してください。

初期設定項目概要

◆ インターフェース設定

初期設定の項目名	概要
本体 IPv4 アドレス	ネットワーク上における本機のIP アドレスとサブネットマスクの設定方法を選択します。
IPv4 ゲートウェイアドレス	別のネットワークのパソコン、または機器とのやり取りを行うとき、ゲートウェイとなるホストやルーターのアドレスです（機器とのやり取りとは、印刷や情報の取得などです）
本体 IPv6 アドレス	ネットワーク上における本機の IPv6 アドレスを設定します。
IPv6 ゲートウェイアドレス	ネットワーク上における本機の IPv6 ゲートウェイアドレスを表示します。
IPv6 ステートレスアドレス自動設定	IPv6 ステートレスアドレス自動設定の有効 / 無効を設定します。
DNS 設定	DNS サーバーの運用について設定します。
DDNS 設定	ダイナミック DNS について設定します。
ドメイン名	ドメイン名を設定します。
WINS 設定	WINS サーバーの運用について設定します。
有効プロトコル	ネットワーク上で使用するプロトコルを選択します。
NCP 配信時プロトコル	NCP 配信に使用するプロトコルを設定します。
NW フレームタイプ	NetWare のフレームタイプを選択します。
SMB コンピュータ名	SMB コンピュータ名を設定します。
SMB ワークグループ	SMB ワークグループを設定します。
イーサネット速度	イーサネットの通信速度を選択します。ご使用の環境に合わせた速度を選択してください。通常は「自動選択」を選択してください。
ネットワークインターフェース 選択	拡張無線 LAN ボード（オプション）を装着したときに、無線 LAN (IEEE 802.11b) でネットワーク接続するかイーサネット経由でネットワーク接続するかを選択します。

初期設定の項目名	概要
Ping コマンド実行	ping コマンドで、IP アドレスを使用してネットワーク接続を確認します。
SNMPv3 通信許可設定	SNMP v3 の暗号化通信を設定します。
SSL/TLS 通信許可設定	SSL/TLS の暗号化通信を設定します。
ホスト名	ホスト名を設定します。
本体名	本体名を設定します。
通信モード	無線 LAN の通信モードを設定します。
SSID 設定	インフラストラクチャーモードと 802.11 アドホックモードのときに無線 LAN のネットワークを識別する SSID を設定します。
チャンネル	アドホックモードと 802.11 アドホックモードを選択したときに使用するチャンネルを設定します。
セキュリティ方式選択	無線 LAN の暗号化を設定します。
電波状態	インフラストラクチャーモードのときに接続したアクセスポイントとの電波状態を表示します。
通信速度	無線 LAN の通信速度を設定します。
設定値初期化	無線 LAN の設定を工場出荷時の設定に戻します。

 **補足**

- ・詳しくは、『初期設定編』「インターフェース設定」を参照してください。

 **参照**

- ・『初期設定編』「インターフェース設定」

◆ ファイル転送設定

初期設定の項目名	概要
SMTP サーバー	SMTP サーバー名を設定します。
SMTP 認証	SMTP 認証(PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5) を設定します。
POP before SMTP	POP 認証(POP before SMTP) を設定します。
管理者メールアドレス	スキャナー文書のメール送信機能で、送信者を入力しない場合の送信者アドレスになります。
送信初期ユーザー名・パスワード	スキャナーで読み取った画像データを、Windows の共有フォルダ、FTP サーバー、または NetWare サーバーに直接送信する場合、ユーザー名とパスワードを設定します。
送信メール本文登録／変更／消去	スキャナーで読み取った画像を添付したメールの本文を設定します。
送信者名自動指定	メール送信時に使用する送信者を指定するかしないかを設定します。
スキャナー再送信間隔時間	スキャナーで読み取ったデータを配信サーバーまたはメールサーバーへ送信できなかったとき、再度配信するまでの時間の間隔を設定します。
スキャナー再送信回数	スキャナーで読み取ったデータを配信サーバーまたはメールサーバーへ再度配信するとき、最大何回まで再配信するかを設定します。

◀ 補足

- セキュリティの設定によっては、設定できない項目もあります。
- 詳しくは、『初期設定編』「ファイル転送設定」を参照してください。

◀ 参照

- 『初期設定編』「ファイル転送設定」

初期設定項目一覧

◆ プリンター

イーサネット

- ・インターフェース設定／ネットワーク
 本体 IPv4 アドレス
 IPv4 アドレス
 IPv4 ゲートウェイアドレス
 本体 IPv6 アドレス自動設定
 IPv6 ゲートウェイアドレス
 IPv6 ステートレスアドレス自動設定
 DNS 設定
 DDNS 設定
 ドメイン名
 WINS 設定
 有効プロトコル
 NCP 配信時プロトコル
 NW フレームタイプ
 SMB コンピューター名
 SMB ワークグループ
 イーサネット速度
 ネットワークインターフェース選択
 Ping コマンド実行
 SNMP v3 通信許可設定
 SSL/TLS 通信許可設定
 ホスト名
 本体名

IEEE 802.11b (無線 LAN)

- ・インターフェース設定／ネットワーク
 - 本体 IPv4 アドレス
 - IPv4 アドレス
 - 本体 IPv6 アドレス
 - IPv6 ゲートウェイアドレス
 - IPv6 ステートレスアドレス自動設定
 - DNS 設定
 - DDNS 設定
 - ドメイン名
 - WINS 設定
 - 有効プロトコル
 - NCP 配信時プロトコル
 - NW フレームタイプ
 - SMB コンピューター名
 - SMB ワークグループ
 - イーサネット速度
 - ネットワークインターフェース選択
 - SNMP v3 通信許可設定
 - SSL/TLS 通信許可設定
 - ホスト名
 - 本体名
- ・インターフェース設定／IEEE 802.11b
 - 通信モード
 - SSID 設定
 - チャンネル
 - WEP (暗号化) 設定
 - 電波状態
 - 通信速度
 - 設定初期化

◆ メール送信 (IPv6 環境ではご使用になれません)

イーサネット

- ・インターフェース設定／ネットワーク

本体 IPv4 アドレス

IPv4 ゲートウェイアドレス

DNS 設定

DDNS 設定

ドメイン名

WINS 設定

有効プロトコル

イーサネット速度

ネットワークインターフェース選択

SNMP v3 通信許可設定

SSL/TLS 通信許可設定

ホスト名

- ・ファイル転送設定

SMTP サーバー

SMTP 認証

POP before SMTP

受信プロトコル

POP3/IMAP4 設定

管理者メールアドレス

メール通信ポート設定

送信メール本文登録／変更／消去

スキャナー再送信間隔時間

スキャナー再送信回数

IEEE 802.11b (無線 LAN)

- ・インターフェース設定／ネットワーク

本体 IPv4 アドレス

IPv4 ゲートウェイアドレス

DNS 設定

DDNS 設定

ドメイン名

WINS 設定

有効プロトコル

イーサネット速度

ネットワークインターフェース選択

SNMP v3 通信許可設定

SSL/TLS 通信許可設定

ホスト名

- ・インターフェース設定／IEEE 802.11b

通信モード

SSID 設定

チャンネル

セキュリティ方式選択

通信速度

-
- ・ファイル転送設定
 - SMTP サーバー
 - SMTP 認証
 - POP before SMTP
 - 受信プロトコル
 - POP3/IMAP4 設定
 - 管理者メールアドレス
 - メール通信ポート設定
 - 送信メール本文登録／変更／消去
 - スキヤナー再送信間隔時間
 - スキヤナー再送信回数
 - ◆ ファイル送信 (IPv6 環境ではご使用になれません)
 - イーサネット
 - ・インターフェース設定／ネットワーク
 - 本体 IPv4 アドレス
 - IPv4 ゲートウェイアドレス
 - DNS 設定
 - DDNS 設定
 - ドメイン名
 - WINS 設定
 - 有効プロトコル
 - イーサネット速度
 - ネットワークインターフェース選択
 - SNMP v3 通信許可設定
 - SSL/TLS 通信許可設定
 - ホスト名
 - ・ファイル転送設定
 - 送信初期ユーザー名・パスワード
 - スキヤナー再送信間隔時間
 - スキヤナー再送信回数
 - IEEE 802.11b (無線 LAN)
 - ・インターフェース設定／ネットワーク
 - 本体 IPv4 アドレス
 - IPv4 ゲートウェイアドレス
 - DNS 設定
 - DDNS 設定
 - ドメイン名
 - WINS 設定
 - 有効プロトコル
 - イーサネット速度
 - ネットワークインターフェース選択
 - SNMP v3 通信許可設定
 - SSL/TLS 通信許可設定
 - ホスト名

-
- ・インターフェース設定／IEEE 802.11b
 - 通信モード
 - SSID 設定
 - チャンネル
 - セキュリティ方式選択
 - 通信速度
 - ・ファイル転送設定
 - 送信初期ユーザー名・パスワード
 - スキャナー再送信間隔時間
 - スキャナー再送信回数

◆ ネットワーク TWAIN スキャナー（IPv6 環境ではご使用になれません）

イーサネット

- ・インターフェース設定／ネットワーク
 - 本体 IPv4 アドレス
 - IPv4 ゲートウェイアドレス
 - DNS 設定
 - DDNS 設定
 - ドメイン名
 - WINS 設定
 - 有効プロトコル
 - ネットワークインターフェース選択
 - イーサネット速度
 - SNMP v3 通信許可設定
 - SSL/TLS 通信許可設定
 - ホスト名

IEEE 802.11b (無線 LAN)

- ・インターフェース設定／ネットワーク
 - 本体 IPv4 アドレス
 - IPv4 ゲートウェイアドレス
 - DNS 設定
 - DDNS 設定
 - ドメイン名
 - WINS 設定
 - 有効プロトコル
 - イーサネット速度
 - ネットワークインターフェース選択
 - SNMP v3 通信許可設定
 - SSL/TLS 通信許可設定
 - ホスト名
- ・インターフェース設定／IEEE 802.11b
 - 通信モード
 - SSID 設定
 - チャンネル
 - セキュリティ方式選択
 - 通信速度

◆ ドキュメントボックス（一部の機能が IPv6 環境ではご使用になれません）

イーサネット

- ・インターフェース設定／ネットワーク

- 本体 IPv4 アドレス

- IPv4 ゲートウェイアドレス

- DNS 設定

- DDNS 設定

- ドメイン名

- WINS 設定

- 有効プロトコル

- イーサネット速度

- ネットワークインターフェース選択

- SNMP v3 通信許可設定

- SSL/TLS 通信許可設定

- ホスト名

IEEE 802.11b (無線 LAN)

- ・インターフェース設定／ネットワーク

- 本体 IPv4 アドレス

- IPv4 ゲートウェイアドレス

- DNS 設定

- DDNS 設定

- ドメイン名

- WINS 設定

- 有効プロトコル

- イーサネット速度

- ネットワークインターフェース選択

- SNMP v3 通信許可設定

- SSL/TLS 通信許可設定

- ホスト名

- ・インターフェース設定／IEEE 802.11b

- 通信モード

- SSID 設定

- チャンネル

- セキュリティ方式選択

- 通信速度

補足

- ・ドキュメントボックスに蓄積されている文書の送信機能（メール送信、ネットワーク配信）は、IPv6 環境ではご使用になれません。
- ・ご使用の機種、装着しているオプション、選択しているエミュレーションによっては、設定できない項目もあります。
- ・セキュリティの設定によっては、設定できない項目もあります。
- ・詳しくは、『初期設定編』「ネットワークの設定」を参照してください。

参照

- ・『初期設定編』「ネットワークの設定」

1. プリントサーバーの準備

プリントサーバーの設定についての説明です。

1

Windows ネットワークプリンターを設定する

Windows でネットワークプリンターを設定する方法の説明です。

クライアントからネットワークプリンターを使用するために共有設定をします。ネットワークプリンターを Network Monitor for Client 経由で接続している場合、印刷通知設定をすることができ、印刷結果をクライアントに通知することができます。

★ 重要

- ・ [プリント] フォルダでプリンタープロパティを変更するには、Windows 2000、Windows XP Professional、Windows Server 2003 をご使用の場合は「プリントの管理」、Windows NT 4.0、Windows Vista をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 [プリント] ウィンドウを開きます。

Windows XP、Windows Server 2003 の場合は、[プリントと FAX] ウィンドウを開きます。

2 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

プリンターのプロパティが表示されます。

3 [共有] タブをクリックし、[共有する] にチェックを付けます。

4 プリンターをほかのバージョンの Windows を使っているユーザーと共有する場合は、[追加ドライバ] をクリックします。

プリンタードライバーをインストールしたときに、「共有」にチェックを付けて代替ドライバーをインストールした場合、この操作は必要ありません。

5 [OK] をクリックし、プリンターのプロパティを閉じます。

Network Monitor for Client 経由で印刷通知をする

Network Monitor for Client の印刷通知機能を設定する方法の説明です。

1

プリントサーバーの設定をする

Network Monitor for Client 経由で印刷通知をするための、プリントサーバーの設定方法です。

★ 重要

- ・プリントサーバーの設定を変更するには、Windows 2000、Windows XP Professional、Windows Server 2003 をご使用の場合は「プリンタの管理」、Windows NT 4.0 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 タスクバーの [スタート] ボタンから、[プログラム] - [Network Monitor for Client] の順にポイントして、[プリントサーバー設定] をクリックします。

プリントサーバー設定ダイアログが表示されます。

2 [クライアントに印刷通知をする] をチェックして、[OK] をクリックします。

プリントサーバーの設定によって、ダイアログが表示されます。記載内容を確認して [OK] をクリックします。

[キャンセル] をクリックすると、処理を中断します。

3 各クライアントへの設定についてダイアログが表示されます。[OK] をクリックします。

これでプリントサーバーの設定は終了です。各クライアントで、印刷通知の設定が必要です。

↓ 補足

- ・印刷中のジョブはスプーラー時停止後に最初から再印刷されます。
- ・拡張機能を使用していない場合、自動的に拡張機能を有効に設定します。
- ・Administrators アカウント以外でログインした場合、クライアントに通知できない場合があります。
- ・Network Monitor for Client のインストールについて詳しくは、『プリンター機能編』「Network Monitor for Client ポートを使う」を参照してください。

目 参照

- ・『プリンター機能編』「Network Monitor for Client ポートを使う」

クライアントの設定をする

Network Monitor for Client 経由で印刷通知をするための、クライアント PC の設定方法です。

- 1 タスクバーの [スタート] ボタンから、[プログラム] - [Network Monitor for Client] の順にポイントして、[拡張機能設定] をクリックします。
拡張機能設定ダイアログが表示されます。
- 2 [拡張機能を使用する] にチェックを付けます。
- 3 [印刷通知] の [プリントサーバーを利用する場合に通知します。] にチェックを付けます。
- 4 [OK] をクリックします。

拡張機能設定ダイアログが閉じます。これでクライアントの設定は終了です。

補足

- ・プリンタードライバーでも印刷通知の設定をしてください。
- ・Network Monitor for Client のインストールについて詳しくは、『プリンター機能編』「Network Monitor for Client ポートを使う」を参照してください。

参照

- ・『プリンター機能編』「Network Monitor for Client ポートを使う」

NetWare を使用する

NetWare でネットワークプリンターを使用する場合の設定のしかたを説明します。NetWare では本機を「プリントサーバ」または「リモートプリンタ」として接続することができます。

1

★ 重要

- IPv6 環境ではご使用になれません。

◆ セットアップの流れ

- プリントサーバとして使用するとき
 - Network Monitor for Admin のインストール
 - ネットワークインターフェースボードの設定
 - 電源を入れ直す
- リモートプリンタとして使用するとき
 - Network Monitor for Admin のインストール
 - ネットワークインターフェースボードの設定
 - NetWare の設定
 - プリントサーバの起動

◆ Network Monitor for Admin について

本機を NetWare 環境で使用するには、Network Monitor for Admin を使用して NetWare のプリント環境を設定します。

◆ Network Monitor for Admin に表示されるプリンターについて

Network Monitor for Admin には、ネットワークに接続されているプリンターの一覧が表示されます。

表示されるプリンターナー名から目的のプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンターナー名と比較して目的のプリンターを探してください。

↓ 補足

- 次の環境で Network Monitor for Admin を使用してプリント環境を設定するときは、Novell から提供されている NetWare クライアントがインストールされている必要があります。
 - Windows 95/98/Me で、NDS モードのとき
 - Windows 2000、Windows XP、Windows NT 4.0 で NDS モードまたはバインダリモードのとき
- Network Monitor for Admin のインストールについて詳しくは、「Network Monitor for Admin のインストール」を参照してください。
- システム設定リストの印刷方法について詳しくは、『初期設定編』「テスト印刷する」を参照してください。

□ 参照

- P.55 「Network Monitor for Admin のインストール」
- 『初期設定編』「テスト印刷する」

プリントサーバを使用する (NetWare 3.xJ)

NetWare 3.xJ を使用し、プリントサーバーとして接続するための設定方法の説明です。

1 Web Image Monitor を起動します。

2 [ログイン] をクリックします。

[ログインユーザー名] と [ログインパスワード] の入力画面が表示されます。

3 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

4 左フレーム内の [設定] をクリックし、[ネットワーク] グループの [NetWare] をクリックします。

設定項目は以下の通りです。

- ・プリントサーバー名:NetWare のプリントサーバー名を入力します。インターフェースボードをプリントサーバーとして動作させる場合は、ファイルサーバー上で動作していないプリントサーバーの名前を入力します。入力範囲は 1~47 文字です。
- ・ログオンモード : NetWare ログオン時に、ファイルサーバーを指定するか、NDS ツリーを指定するかを選択します。
- ・ファイルサーバー名 : ファイルサーバー名を入力すると、入力したファイルサーバーだけを検索します。必ず入力してください。入力範囲は 47 文字以内です。
- ・NDS ツリー : NDS モードで使用する場合に、ログオンする NSD ツリー名を半角英数字で入力します。入力範囲は 32 文字以内です。
- ・NDS コンテキスト名 : NDS モードで使用する場合に、プリントサーバーのコンテキストを入力します。入力範囲は 127 文字以内です。
- ・動作モード : インターフェースボードをプリントサーバーとして使用するか、リモートプリンターとして使用するかを選択します。
- ・リモートプリンター番号 : リモートプリンターとして動作する場合に有効となります。プリントサーバー上に作成するプリンターの番号と同じ番号を半角で入力します。入力範囲は 0~254 です。
- ・ジョブタイムアウト : NetWare のリモートプリンターとして動作している場合、プリンターは印刷ジョブの終了を判定することができないため、最後に印刷データを受け取ってから一定時間が経過したとき（印刷データを一定時間受信しなかったとき）に印刷処理を終了します。ここには、その一定時間（3~255 秒）を半角で入力します。初期値は「15秒」に設定されています。
- ・フレームタイプ : 使用するフレームタイプをドロップダウンメニューから選択します。
- ・プリントサーバープロトコル : NetWare で使用するプロトコルをドロップダウンメニューから選択します。

5 設定を確認し、[OK] をクリックします。

これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分をおいてから行ってください。

6 [ログアウト] をクリックします。

補足

1

- ・本機が設定どおり動作しているか確認するにはコマンドプロンプトで次のように入力します。
F:> USERLIST
- ・正しく動作していると、接続しているユーザー名としてプリントサーバ名が表示されます。
- ・表示されるプリンタ名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンタ名と比較して目的のプリンターを探してください。
- ・システム設定リストの印刷方法について詳しくは、『初期設定編』「テスト印刷する」を参照してください。
- ・プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の【ネットワーク】ダイアログで変更します。
- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

参照

- ・『初期設定編』「テスト印刷する」

プリントサーバを使用する (NetWare 4.xJ、NetWare 5/5.1J、NetWare 6/6.5J)

NetWare 4.xJ、NetWare 5/5.1J、NetWare 6/6.5J を使用し、プリントサーバーとして接続するための設定方法の説明です。

★ 重要

- NetWare 4.xJ、NetWare 5/5.1J、NetWare 6/6.5J でプリントサーバとして使用する場合は、NDS モードで使用してください。
- NetWare 5/5.1J、NetWare 6/6.5J をお使いの場合は、本機をプリントサーバとしてお使いください。

1 Web Image Monitor を起動します。

2 [ログイン] をクリックします。

[ログインユーザー名] と [ログインパスワード] の入力画面が表示されます。

3 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

4 左フレーム内の [設定] をクリックし、[ネットワーク] グループの [NetWare] をクリックします。

「プリントサーバを使用する (Netware 3.xJ)」を参照してください。

5 設定を確認し、[OK] をクリックします。

これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分をおいてから行ってください。

6 [ログアウト] をクリックします。

↓ 補足

- 本機が設定どおり動作しているか確認するにはコマンドプロンプトで次のように入力します。
F:> NLIST USER /A/B
- 正しく動作していると、接続しているユーザー名としてプリントサーバ名が表示されます。
- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。
- システム設定リストの印刷方法について詳しくは、『初期設定編』「テスト印刷する」を参照してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の [ネットワーク] ダイアログで変更します。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

目 参照

- 『初期設定編』「テスト印刷する」

プリントサーバーを使用する（NetWare 5/5.1J のピュア IP 環境）

1

NetWare 5/5.1J のピュア IP 環境で、プリントサーバーとして接続する設定方法の説明です。

★ 重要

- NetWare 5/5.1J のピュア IP 環境でキューベースのプリントサーバを作成する場合、NetWare アドミニストレータを使用してファイルサーバ上にプリントキューを作成する必要があります。
- ピュア IP 環境でお使いの場合は、リモートプリンタとして使用できません。
- ピュア IP 環境でお使いの場合は、本機で IPv4 プロトコルが使用できるように設定してください。

■ NetWare アドミニストレータでの設定

- 1 Windows 上で NetWare アドミニストレータを起動します。
- 2 プリントキューを作成します。印刷オブジェクトを作成する部門オブジェクトまたは組織オブジェクトをディレクトリーツリーから選び、[オブジェクト] メニューの [作成] をクリックします。
- 3 [オブジェクトクラス] ボックスの [プリントキュー] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 4 [プリントキュー名] ボックスにプリントキューの名前を入力します。
- 5 [プリントキューボリューム] ボックスのブラウザボタンをクリックします。
- 6 [使用可能なオブジェクト] ボックスでプリントキューを作成するボリュームをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 7 設定内容を確認し、[作成] をクリックします。
- 8 プリンターを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、[オブジェクト] メニューの [作成] をクリックします。
- 9 [オブジェクトクラス] ボックスの [プリンタ (非 NDPS)] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 10 [プリンタ名] ボックスにプリンターの名前を入力します。
- 11 [作成後に詳細を設定] をクリックしてチェックを付け、[作成] をクリックします。

- 12 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。[割り当て] をクリックし、[割り当て] グループの [追加] をクリックします。
- 13 [オブジェクト] ボックスで、あらかじめ作成したキューをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 14 [環境設定] をクリックし、[プリンタタイプ] ボックスのドロップダウンメニューから [パラレル] を選び、[通信] をクリックします。
- 15 [接続タイプ] グループの [手動ロード (プリンタサーバからリモート)] をクリックし、[OK] をクリックします。
- 16 設定内容を確認し、[OK] をクリックします。
- 17 プリントサーバーを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、[オブジェクト] メニューの [作成] をクリックします。
- 18 [オブジェクトクラス] ボックスの [プリントサーバ (非 NDPS)] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 19 [プリントサーバ名] ボックスにプリントサーバーの名前を入力します。Network Monitor for Admin で設定したプリントサーバー名と一致させてください。
- 20 [作成後に詳細を設定] をクリックしてチェックを付け、[作成] をクリックします。
- 21 作成したプリントサーバーにプリンターを割り当てます。[割り当て] をクリックし、[割り当て] グループの [追加] をクリックします。
- 22 [オブジェクト] ボックスで、あらかじめ作成したプリンターをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 23 設定内容を確認し、[OK] をクリックします。
- 24 NetWare サーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。
すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。
 - ◆ 停止する
CAREE: unload pserver
 - ◆ 起動する
CAREE: load pserver プリントサーバー名
プリンターが設定どおり動作していると、「プリントジョブ待機中」と表示されます。

■ Web Image Monitor での設定

1 Web Image Monitor を起動します。

2 [ログイン] をクリックします。

【ログインユーザー名】と【ログインパスワード】の入力画面が表示されます。

3 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

4 左フレーム内の [設定] をクリックし、[ネットワーク] グループの [NetWare] をクリックします。

「プリントサーバを使用する (Netware 3.xJ)」を参照してください。

5 設定を確認し、[OK] をクリックします。

これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分をおいてから行ってください。

6 [ログアウト] をクリックします。

▼ 補足

- 表示されるプリンターナー名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンターナー名と比較して目的のプリンターを探してください。
- システム設定リストの印刷方法について詳しくは、『初期設定編』「テスト印刷する」を参照してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の [ネットワーク] ダイアログで変更します。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

■ 参照

- 『初期設定編』「テスト印刷する」

プリントサーバを使用する（NetWare 6/6.5J のピュア IP 環境）

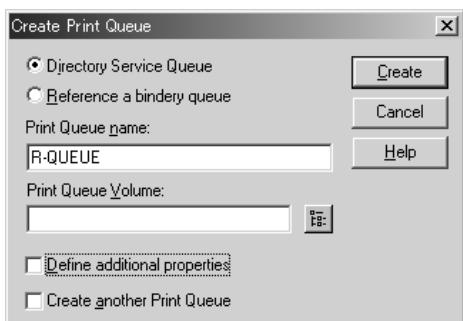
NetWare 6/6.5J のピュア IP 環境で、プリントサーバーとして接続する設定方法の説明です。

★ 重要

- NetWare 6/6.5J のピュア IP 環境でキューベースのプリントサーバを作成する場合、NetWare アドミニストレータを使用してファイルサーバ上にプリントキューを作成する必要があります。
- ピュア IP 環境でお使いの場合は、リモートプリンタとして使用できません。
- ピュア IP 環境でお使いの場合は、本機で IPv4 プロトコルが使用できるように設定してください。

■ NetWare アドミニストレータでの設定

- Windows 上で NetWare アドミニストレータを起動します。
- プリントキューを作成します。印刷オブジェクトを作成する部門オブジェクトまたは組織オブジェクトをディレクトリーツリーから選び、[Object] メニューの [Create...] をクリックします。
- [Class of new object] ボックスの [Print Queue] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- [Print Queue name] ボックスにプリントキューの名前を入力します。
- [Print Queue Volume] ボックスのブラウザボタンをクリックします。



- [Available objects] ボックスでプリントキューを作成するボリュームをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 設定内容を確認し、[Create] をクリックします。
- プリンターを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、[Object] メニューの [Create...] をクリックします。
- [Class of new object] ボックスの [Printer (Non NDPS)] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。

1

- 10** [Printer name] ボックスにプリンターの名前を入力します。
- 11** [Define additional properties] をクリックしてチェックを付け、[Create] をクリックします。
- 12** 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。[Assignments] をクリックし、[Print queues] グループの [Add...] をクリックします。
- 13** [Available objects] ボックスで、あらかじめ作成したキュेをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 14** [Configuration] をクリックし、[Printer type] ボックスのドロップダウンメニューから [Parallel] を選び、[Communication] をクリックします。
- 15** [Connection type] グループの [Manual load] をクリックし、[OK] をクリックします。
- 16** 設定内容を確認し、[OK] をクリックします。
- 17** プリントサーバーを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、[Object] メニューの [Create...] をクリックします。
- 18** [Class of new object] ボックスの [Print Server (Non NDPS)] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 19** [Print Server name] ボックスにプリントサーバーの名前を入力します。Network Monitor for Admin で設定したプリントサーバー名と一致させてください。
- 20** [Define additional properties] をクリックしてチェックを付け、[Create] をクリックします。
- 21** 作成したプリントサーバーにプリンターを割り当てます。[Assignments] をクリックし、[Printers] グループの [Add...] をクリックします。
- 22** [Available objects] ボックスで、あらかじめ作成したプリンターをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 23** 設定内容を確認し、[OK] をクリックします。
- 24** NetWareサーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。
すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。
 - ◆ 停止する
CAREE: unload pserver
 - ◆ 起動する
CAREE: load pserver プリントサーバー名
プリンターが設定どおり動作していると、「プリントジョブ待機中」と表示されます。

■ Web Image Monitor での設定

- 1 Web Image Monitor を起動します。
- 2 [ログイン] をクリックします。
[ログインユーザー名] と [ログインパスワード] の入力画面が表示されます。
- 3 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。
- 4 左フレーム内の [設定] をクリックし、[ネットワーク] グループの [NetWare] をクリックします。
「プリントサーバを使用する (Netware 3.xJ)」を参照してください。
- 5 設定を確認し、[OK] をクリックします。
これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分をおいてから行ってください。
- 6 [ログアウト] をクリックします。

補足

- ・表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。
- ・システム設定リストの印刷方法について詳しくは、『初期設定編』「テスト印刷する」を参照してください。
- ・プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の [ネットワーク] ダイアログで変更します。
- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

参照

- ・『初期設定編』「テスト印刷する」

リモートプリンタとして使用する (NetWare 3.xJ)

NetWare 3.xJ で、リモートプリンタとして接続するための設定方法の説明です。

1

■ PCONSOLE での設定

1 コマンドプロンプトで「PCONSOLE」と入力します。

F:> PCONSOLE

2 プリントキューを作成します。

既存のプリントキューを使う場合は、プリンターを作成する手順に進んでください。

3 [利用可能な項目] メニューから [プリントキュー情報] を選択します。

4 [Insert] キーを押し、プリントキュー名を入力します。

5 [Esc] キーを押します。

[利用可能な項目] メニューに戻ります。

6 プリンターを作成します。[利用可能な項目] メニューから [プリントサーバ情報] を選択します。

7 新しいプリントサーバーを作成する場合は、[Insert] キーを押し、プリントサーバー名を入力します。

既存のプリントサーバーを使う場合は、[プリントサーバ] 一覧から使用するプリントサーバーを選択します。

前の手順で設定した Network Monitor for Admin のプリントサーバー名と一致させてください。

8 [プリントサーバ情報] メニューから [プリントサーバ構成] を選択します。

9 [プリントサーバ構成メニュー] から [プリンタの構成] を選択します。

10 「インストールされません」と表示されているプリンターを選択します。

前の手順で設定した Network Monitor for Admin のリモートプリンタ番号と一致させてください。

11 プリンターの名前を変更する場合は、新しい名前を入力します。

名前は選択したプリンターの番号に応じて「プリンタ x」と付けられています。

12 タイプとして [リモートパラレル, LPT1] を選択します。

IRQ、バッファサイズ、開始用紙、キューサービスマードは自動的に設定されます。

13 [Esc] キーを押し、確認画面で [Yes] を選択します。

14 [Esc] キーを押します。

[プリントサーバ構成メニュー] に戻ります。

15 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。[プリントサーバ構成メニュー] から [プリンタでサービスされているキュー] を選択します。

16 前の手順で作成したプリンターを選択します。

17 [Insert] キーを押し、プリンターに割り当てるキューを選択します。複数のキューを選択することもできます。

18 画面表示に従って、その他の項目を入力します。

入力後、プリンターにキューが割り当てられたことを確認してください。

19 「終了しますか？」と表示されるまで [Esc] キーを押し、[Yes] を選択します。

PCONSOLE が終了します。

20 NetWareサーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。

すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。

◆ 停止する

CAREE: unload pserver

◆ 起動する

CAREE: load pserver プリントサーバー名

プリンターが設定どおり動作していると、「プリントジョブ待機中」と表示されます。

■ Web Image Monitor での設定

1 Web Image Monitor を起動します。

2 [ログイン] をクリックします。

[ログインユーザー名] と [ログインパスワード] の入力画面が表示されます。

3 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

4 左フレーム内の [設定] をクリックし、[ネットワーク] グループの [NetWare] をクリックします。

「プリントサーバを使用する (Netware 3.xJ)」を参照してください。

5 設定を確認し、[OK] をクリックします。

これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分をおいてから行ってください。

6 [ログアウト] をクリックします。

1

▼ 補足

- ・表示されるプリンターネームから設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンターネームと比較して目的のプリンターを探してください。
- ・システム設定リストの印刷方法について詳しくは、『初期設定編』「テスト印刷する」を参照してください。
- ・プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の【ネットワーク】ダイアログで変更します。
- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

■ 参照

- ・『初期設定編』「テスト印刷する」

リモートプリンタとして使用する (NetWare 4.xJ、5/5.1J)

NetWare 4.xJ、5/5.1J で、リモートプリンタとして接続するための設定方法の説明です。

★ 重要

- NetWare 4.xJ、NetWare 5/5.1J でリモートプリンターとして使用する場合は、NDS モードで使用してください。
- ピュア IP 環境の場合、リモートプリンターとして使用できません。

■ NetWare アドミニストレータでの設定

- Windows 上で NetWare アドミニストレータを起動します。
- プリントキューを作成します。印刷オブジェクトを作成する部門オブジェクトまたは組織オブジェクトをディレクトリーツリーから選び、[オブジェクト] メニューの [作成] をクリックします。
- [オブジェクトクラス] ボックスの [プリントキュー] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- [プリントキュー名] ボックスにプリントキューの名前を入力します。
- [プリントキューボリューム] ボックスのブラウザボタンをクリックします。
- [使用可能なオブジェクト] ボックスでプリントキューを作成するボリュームをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 設定内容を確認し、[作成] をクリックします。
- プリンターを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、[オブジェクト] メニューの [作成] をクリックします。
- [オブジェクトクラス] ボックスの [プリンタ] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- [プリンタ名] ボックスにプリンターの名前を入力します。
- [作成後に詳細を設定] をクリックしてチェックを付け、[作成] をクリックします。
- 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。[割り当て] をクリックし、[割り当て] グループの [追加] をクリックします。

- 13** [使用可能なオブジェクト] ボックスで、あらかじめ前の手順で作成したキューをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 14** [環境設定] をクリックし、[プリンタタイプ] ボックスのドロップダウンメニューから [パラレル] を選び、[通信] をクリックします。
- 15** [接続タイプ] グループの [手動ロード (プリンタサーバからリモート)] をクリックし、[OK] をクリックし、設定内容を確認して [OK] をクリックします。
- 16** プリントサーバーを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、[オブジェクト] メニューの [作成] をクリックします。
- 17** [オブジェクトクラス] ボックスの [プリントサーバ (非 NDPS)] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 18** [プリントサーバ名] ボックスにプリントサーバーの名前を入力します。Network Monitor for Admin で設定したプリントサーバー名と一致させてください。
- 19** [作成後に詳細を設定] をクリックしてチェックを付け、[作成] をクリックします。
- 20** 作成したプリントサーバーにプリンターを割り当てます。[割り当て] をクリックし、[割り当て] グループの [追加] をクリックします。
- 21** [使用可能なオブジェクト] ボックスであらかじめ作成したプリンターをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 22** [プリンタ] グループで、あらかじめ前の手順で割り当てたプリンターをクリックして反転表示させ、[プリンタ番号] をクリックします。
- 23** プリンタ番号を入力し、[OK] をクリックし、設定内容を確認して [OK] をクリックします。
Network Monitor for Admin で設定したリモートプリンタ番号と一致させてください。
- 24** NetWareサーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。
すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。
- ◆ 停止する
CAREE: unload pserver
- ◆ 起動する
CAREE: load pserver プリントサーバー名
プリンターが設定どおり動作していると、「プリントジョブ待機中」と表示されます。

■ Web Image Monitor での設定

- 1 Web Image Monitor を起動します。
- 2 [ログイン] をクリックします。
[ログインユーザー名] と [ログインパスワード] の入力画面が表示されます。
- 3 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。
- 4 左フレーム内の [設定] をクリックし、[ネットワーク] グループの [NetWare] をクリックします。
「プリントサーバを使用する (Netware 3.xJ)」を参照してください。
- 5 設定を確認し、[OK] をクリックします。
これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分をおいてから行ってください。
- 6 [ログアウト] をクリックします。

補足

- ・表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。
- ・システム設定リストの印刷方法について詳しくは、『初期設定編』「テスト印刷する」を参照してください。
- ・プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の [ネットワーク] ダイアログで変更します。
- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

参照

- ・『初期設定編』「テスト印刷する」

リモートプリンタとして使用する (NetWare 6/6.5J)

NetWare 6/6.5J で、リモートプリンタとして接続するための設定方法の説明です。

1

★ 重要

- NetWare 6/6.5J においてリモートプリンタとして使用する場合は、NDS モードで使用してください。
- ピュア IP 環境の場合、リモートプリンタとして使用できません。

■ NetWare アドミニストレータでの設定

- Windows 上で NetWare アドミニストレータを起動します。
- プリントキューを作成します。印刷オブジェクトを作成する部門オブジェクトまたは組織オブジェクトをディレクトリーツリーから選び、[Object] メニューの [Create...] をクリックします。
- [Class of new object] ボックスの [Print Queue] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- [Print Queue name] ボックスにプリントキューの名前を入力します。
- [Print Queue Volume] ボックスのブラウザボタンをクリックします。
- [Available objects] ボックスでプリントキューを作成するボリュームをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 設定内容を確認し、[Create] をクリックします。
- プリンターを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、[Object] メニューの [Create...] をクリックします。
- [Class of new object] ボックスの [Printer (Non NDPS)] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- [Printer name] ボックスにプリンターの名前を入力します。
- [Define additional properties] をクリックしてチェックを付け、[Create] をクリックします。
- 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。[Assignments] をクリックし、[Print queues] グループの [Add...] をクリックします。
- [Available objects] ボックスで、あらかじめ前の手順で作成したキューをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。

- 14** [Configuration] をクリックし、[Printer type] ボックスのドロップダウンメニューから [Parallel] を選び、[Communication] をクリックします。
- 15** [Connection type] グループの [Manual load] をクリックし、[OK] をクリックし、設定内容を確認して [OK] をクリックします。
- 16** プリントサーバーを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、[Object] メニューの [Create...] をクリックします。
- 17** [Class of new object] ボックスの [Print Server (Non NDPS)] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 18** [Print Server name] ボックスにプリントサーバーの名前を入力します。Network Monitor for Admin で設定したプリントサーバー名と一致させてください。
- 19** [Define additional properties] をクリックしてチェックを付け、[Create] をクリックします。
- 20** 作成したプリントサーバーにプリンターを割り当てます。[Assignments] をクリックし、[Printers] グループの [Add...] をクリックします。
- 21** [Available objects] ボックスで、あらかじめ前の手順で作成したプリンターをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
- 22** [Printers] グループで手順 **21** で割り当てたプリンターをクリックして反転表示させ、[Printer Number...] をクリックします。
- 23** プリンター番号を入力し、[OK] をクリックし、設定内容を確認して [OK] をクリックします。
Network Monitor for Admin で設定したリモートプリンター番号と一致させてください。
- 24** NetWareサーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。
すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。
- ◆ 停止する
CAREE: unload pserver
- ◆ 起動する
CAREE: load pserver プリントサーバー名
プリンターが設定どおり動作していると、「プリントジョブ待機中」と表示されます。

■ Web Image Monitor での設定

1 Web Image Monitor を起動します。

2 [ログイン] をクリックします。

【ログインユーザー名】と【ログインパスワード】の入力画面が表示されます。

3 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

4 左フレーム内の [設定] をクリックし、[ネットワーク] グループの [NetWare] をクリックします。

「プリントサーバを使用する (Netware 3.xJ)」を参照してください。

5 設定を確認し、[OK] をクリックします。

これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分をおいてから行ってください。

6 [ログアウト] をクリックします。

▼ 補足

- 表示されるプリンターナー名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンターナー名と比較して目的のプリンターを探してください。
- システム設定リストの印刷方法について詳しくは、『初期設定編』「テスト印刷する」を参照してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の [ネットワーク] ダイアログで変更します。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

■ 参照

- 『初期設定編』「テスト印刷する」

2. 機器の監視

ネットワークから、本機の状態を監視したり、設定の変更をしたりする方法の説明です。

Web ブラウザを使う

2

Web ブラウザを使って、本機の状態を確認したり、本機のネットワークに関する設定を変更することができます。この機能を Web Image Monitor といいます。

◆ どんなことができるのか？

Web Image Monitor は、離れた場所にある機器の状態確認や設定変更を、ネットワークを介したパソコンの Web ブラウザ上からできる機能です。

Web Image Monitor では以下の操作ができます。

- ・機器の状態／設定の表示
- ・ジョブの状態／履歴の確認
- ・印刷中ジョブの中止
- ・本機のリセット
- ・アドレス帳の管理
- ・本機の各種設定
- ・ネットワークプロトコルに関する設定
- ・セキュリティの設定
- ・ドキュメントボックスに蓄積されている文書の一覧表示／プロパティ表示／文書画像ファイルのダウンロード／削除／印刷／送信

◆ 本機の環境設定

この機能は TCP/IP プロトコルを使って動作します。Web Image Monitor を使用する場合は、本機で TCP/IP プロトコルの設定を行ってください。TCP/IP の設定が正しく行われると、この機能は自動的に有効になります。

◆ 推奨ブラウザ

- ・Windows 環境：
Internet Explorer 5.5 SP2 以降
FireFox 1.0 以降

- ・Macintosh 環境：
FireFox 1.0 以降
Safari 1.0、1.2、2.0 (412.2) 以降

また、Web Image Monitor はスクリーンリーダに対応しています。推奨するアプリケーションと動作環境は次のとおりです。

- ・95Reader Ver.6.0 (XPReader) 以降
- ・Windows OS、Microsoft Internet Explorer 5.5 SP2 以降

 **補足**

- ・ Mac OS X 10.4.1 上の Safari には対応しておりません。
- ・ 使用するブラウザのバージョンが推奨ブラウザより低い場合や、使用するブラウザの設定で、「JavaScript」、「Cookie の使用許可」が有効になっていない場合は、表示や操作に不具合が生じる場合があります。
- ・ プロキシサーバーをご使用の場合、本機との接続にプロキシサーバーを経由しない設定にしてください。詳しくはネットワーク管理者に確認してください。
- ・ ブラウザの【戻る】で前のページに戻れないことがあります。そのときはブラウザの【更新】または【再読み込み】をクリックしてください。
- ・ Web Image Monitor で取得できる情報は、自動的に更新されません。情報を更新する場合は、Web Image Monitor のワークエリアに表示された【最新の情報に更新】をクリックしてください。
- ・ Firefox をご使用の場合、テーブルがくずれる、フォントや色が異なるなどの可能性があります。
- ・ IPv6 環境下の Windows Server 2003 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。

トップページを表示する

Web Image Monitor の表示方法とトップページの説明です。

1 Web ブラウザを起動します。

2 Web ブラウザのアドレスバーに「`http:// (本機のアドレス) /`」と入力し、**本機にアクセスします。**

Web Image Monitor のトップページが表示されます。

DNS サーバー、WINS サーバーを使用し、本機のホスト名が設定されている場合、ホスト名を入力することができます。

サーバー証明を発行し、SSL（暗号化通信）の設定をしている場合は、「`https:// (本機のアドレス) /`」と入力します。

Web Image Monitor は、フレーム機能によって次のエリアに分割表示されます。



1 メニューエリア

プリンター文書印刷やジョブ、設定などの項目が表示されます。
メニュー項目を選択すると、その内容をワークエリアに表示します。

2 タブエリア

各メニュー項目の詳細を表示します。

3 ヘッダーエリア

ヘルプや、キーワード検索用のボタンが表示されます。また、ゲストモードと管理者モードを切り替えるために [ログイン] または [ログアウト] が表示されます。

4 ヘルプ

ヘルプファイルを閲覧したり、ダウンロードしたりすることができます。

5 ワークエリア

トップページでは、現在の機器の状態を表示します。

また、メニューエリアで選択された項目の内容を表示します。

ワークエリア内の情報は自動的に更新されません。情報を更新したい場合は、同エリア右上の【最新の情報に更新】をクリックしてください。なお、Web ブラウザ画面全体を更新したい場合は、ブラウザの【更新】をクリックしてください。

 補足

2

- IPv6 環境下の Windows Server 2003 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。

ユーザー認証が設定されているとき

Web Image Monitor からのログインのしかた

ユーザー認証が設定されているときに Web Image Monitor からログインします。

1 【ログイン】をクリックします。

2 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、【ログイン】をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

 補足

- ユーザーコード認証のときは、ログインユーザー名にユーザーコードを入力して、【OK】をクリックします。
- ご使用の Web ブラウザにより操作は異なります。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

Web Image Monitor からのログアウトのしかた

ユーザー認証が設定されているときに Web Image Monitor からログアウトするときは、【ログアウト】をクリックします。

 補足

- ログインをした場合、操作が完了したら、必ず【ログアウト】をクリックしてログアウトしてください。

メニュー構成とモード

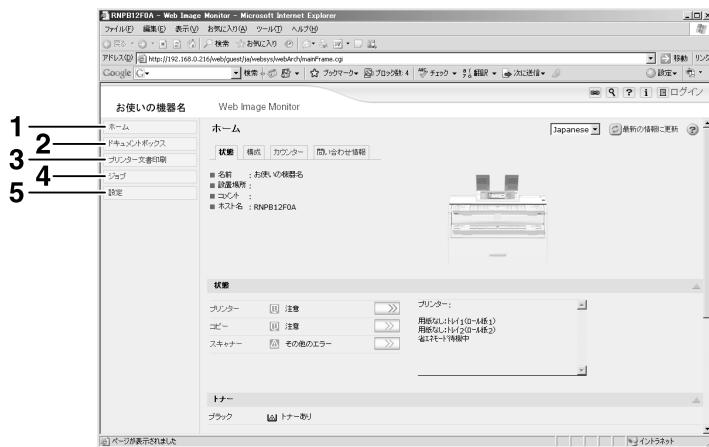
Web Image Monitor には、ゲストモードと管理者としてログインする管理者モードがあり、表示されるメニューが異なります。

また、お使いの機種により表示される項目が異なります。

◆ ゲストモード

ゲストモードでは、機器の状態や設定、ジョブの状態などを表示できます。ただし、機器に関する設定を変更することはできません。

2



BGY102S

1 ホーム

[状態] タブ、[構成] タブ、[カウンター] タブ、[問い合わせ情報] タブが表示され、ワークエリアに各タブの詳細情報が表示されます。

2 ドキュメントボックス

ドキュメントボックスに蓄積されている文書の一覧が表示されます。

3 プリンター文書印刷

試し印刷文書／機密印刷文書／保留印刷文書／保存文書の一覧が表示されます。

4 ジョブ

各ジョブの一覧が表示されます。

5 設定

現在の本機の設定内容およびネットワーク設定の内容が表示されます。

◆ 管理者モード

管理者としてログインする管理者モードでは、機器に関する各種の設定ができます。



BGY103S

1 ホーム

[状態] タブ、[構成] タブ、[カウンター] タブ、[情報] タブが表示され、ワークエリアに各タブの詳細情報が表示されます。

2 ドキュメントボックス

ドキュメントボックスに蓄積されている文書の一覧が表示されます。

3 プリンター文書印刷

試し印刷文書／機密印刷文書／保留印刷文書／保存文書の一覧が表示されます。

4 ジョブ

各ジョブの一覧を表示することができます。

5 アドレス帳

本機を利用するユーザー情報の一覧が表示されます。

6 設定

本機のシステム設定やインターフェースの設定、ネットワーク設定、およびセキュリティの設定ができます。

7 プリンタージョブリセット

トップページの [プリンタージョブリセット] ボタンをクリックすると、実行中のジョブ、または、実行中および待機中のすべてのジョブをリセットすることができます。

8 リセット

トップページの [リセット] ボタンをクリックすると、実行中のジョブが終了次第、本機のプリンター機能をリセットします。

補足

- 表示や設定項目の詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

管理者モードでアクセスする

Web Image Monitor に管理者モードでアクセスする方法です。

1 Web Image Monitor のトップページで、[ログイン] をクリックします。



ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

2 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

↓ 補足

- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

Web ブラウザでの設定項目一覧

設定項目の一覧です。

Web ブラウザでの設定

2

本機で使用できる Web ブラウザの項目です。

ゲストモードでは、機器の状態や設定、ジョブの状態などを表示できます。ただし、機器に関する設定を変更することはできません。

管理者モードでは、機器に関する各種の設定ができます。

◆ ホーム

- ・状態

メニュー	ゲストモード	管理者モード
状態／トナー／給紙トレイ／ 排紙トレイ	参照可	参照可

- ・構成

メニュー	ゲストモード	管理者モード
機能／システム／バージョン ／エミュレーション	参照可	参照可

- ・カウンター

メニュー	ゲストモード	管理者モード
コピー／プリンター／送信 トータル／スキャナー送信	参照可	参照可

- ・問い合わせ情報

メニュー	ゲストモード	管理者モード
機械修理／営業窓口／消耗品	参照可	参照可

◆ ドキュメントボックス

ゲストモード：参照・変更とも可／管理者モード：参照・変更とも可

◆ プリンター文書印刷

- ・文書印刷一覧

ゲストモード：参照・変更とも可／管理者モード：参照・変更とも可

◆ ジョブ

- ・ジョブリスト

メニュー	ゲストモード	管理者モード
実行中／待機中ジョブ一覧	参照可	参照・変更とも可
ジョブ履歴	参照可	参照可

・プリンター

メニュー	ゲストモード	管理者モード
スプールジョブ	参照可	参照・変更とも可
ジョブ履歴	参照可	参照・変更とも可
エラー履歴	参照可	参照可

・ドキュメントボックス

メニュー	ゲストモード	管理者モード
印刷ジョブ履歴	参照・変更とも可	参照・変更とも可
スキャナーリモート送信履歴	参照・変更とも可	参照・変更とも可

◆ アドレス帳

ゲストモード：参照・変更とも不可／管理者モード：参照・変更とも可

◆ 設定

・機器

メニュー	ゲストモード	管理者モード
システム	参照可	参照・変更とも可
用紙	参照可	参照・変更とも可
日付・時刻	参照可	参照・変更とも可
タイマー	参照可	参照・変更とも可
ログ	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
メール	参照可	参照・変更とも可
自動メール通知	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
要求時メール通知	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ファイル転送	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ユーザー認証管理	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
管理者認証管理	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
管理者登録／変更	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
LDAP サーバー	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ファームウェアアップデート	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

・プリンター

メニュー	ゲストモード	管理者モード
基本設定	参照可	参照・変更とも可
トレイ読み替え (PS)	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
PDF 固定パスワード	変更・参照とも不可	変更可

・インターフェース

メニュー	ゲストモード	管理者モード
インターフェース設定	参照可	参照・変更とも可
無線 LAN 設定	参照可	参照・変更とも可

・ネットワーク

メニュー	ゲストモード	管理者モード
IPv4	参照可	参照・変更とも可
IPv6	参照可	参照・変更とも可
NetWare	参照可	参照・変更とも可
AppleTalk	参照可	参照・変更とも可
SMB	参照可	参照・変更とも可
SNMP	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
SNMPv3	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
SSDP	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
Bonjour	参照可	参照・変更とも可
システムログ	参照可	参照可

・セキュリティ

メニュー	ゲストモード	管理者モード
ネットワークセキュリティ	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
アクセスコントロール	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
IPP 認証	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
SSL/TLS	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ssh	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
サイト証明書	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
機器証明書	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

・Webpage

メニュー	ゲストモード	管理者モード
Webpage 設定	参照可（ヘルプのダウンロードは可能）	参照・変更とも可

・拡張機能初期設定

メニュー	ゲストモード	管理者モード
起動設定	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
拡張機能情報	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
インストール	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
アンインストール	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
割り当て先変更	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
管理者用設定	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
拡張機能複製	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
カードセーブデータ複製	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

補足

- セキュリティの設定によっては、すべての項目が表示されない場合があります。

2

Web Image Monitor のヘルプについて

Web Image Monitor のヘルプを表示する方法です。

Web Image Monitor のヘルプをはじめてご使用になる場合、ヘッダーエリアに表示された [ヘルプ]、またはワークエリアに表示された ?マークのアイコンをクリックすると設定画面が表示され、2種類の方法で Web Image Monitor のヘルプを見るることができます。



◆ インターネットの Web Image Monitor のヘルプを見る

最新の Web Image Monitor のヘルプを見ることができます。

◆ Web Image Monitor のヘルプをダウンロードして見る

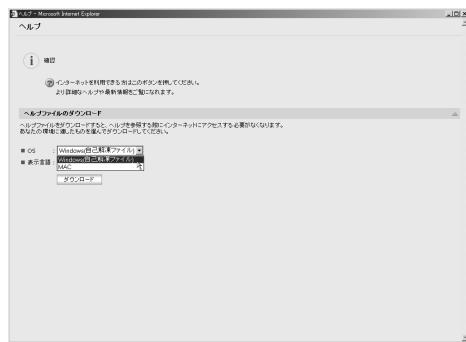
Web Image Monitor のヘルプをお使いのパソコンのローカルディスクへダウンロードして見ることができます。ヘルプの URL にローカルディスクのパスを指定すると、インターネットへ接続せずにヘルプを見るることができます。

補足

- ヘッダーエリアに表示された [ヘルプ] をクリックすると、通常は Web Image Monitor のヘルプの目次を表示します。
- ワークエリアに表示された ?マークのアイコンをクリックすると、通常はワークエリアに表示された内容についてのヘルプを表示します。

ヘルプのダウンロード

- 1 使用している OS をドロップダウンメニューから選択します。



- 2 使用している言語をドロップダウンメニューから選択します。

- 3 [ダウンロード] をクリックします。

- 4 表示されるメッセージに従って、ヘルプファイルをダウンロードします。

- 5 ダウンロードした圧縮ファイルを任意の場所に保存し、解凍します。

ダウンロードした Web Image Monitor のヘルプを見る場合は、解凍した場所のパスを設定してください。

ヘルプへのアドレス (URL) リンク

パソコンまたは Web サーバーのヘルプファイルに、ヘッダーエリアに表示された [ヘルプ] のアドレス (URL) を次の手順でリンクすることができます。

1 管理者モードで Web Image Monitor にアクセスします。

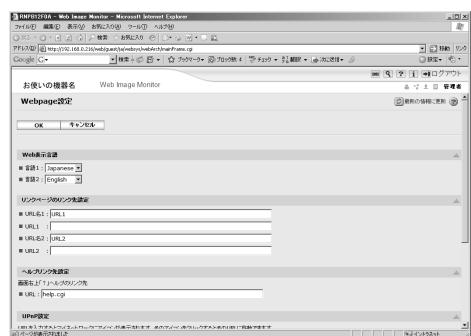
2 左フレーム内の [設定] をクリックします。



3 [Webpage] メニューの [Webpage 設定] をクリックします。



4 ヘルプリンク先設定の [URL] にヘルプファイルへのパスを入力します。



例えば、C:¥HELP¥JA にヘルプファイルをコピーしていた場合、「file:///C:/HELP/」と入力します。また、Web サーバー上にファイルをコピーしていて URL が http://a.b.c.d/HELP/JA/index.html の場合、「http://a.b.c.d/HELP/」と入力します。

5 [OK] をクリックします。

Network Monitor for Admin を使う

Network Monitor for Admin は TCP/IP プロトコル、IPX/SPX プロトコルを使ってネットワーク上の機器を監視するソフトウェアです。ネットワーク上の複数の機器の管理が可能です。ネットワーク管理者の方がお使いになることをお勧めします。

★ 重要

2

IPv6 環境ではご使用になれません。

◆ Windows の対象 OS とプロトコルスタック

- Windows 95/98/Me 日本語版

Windows 95/98/Me に同梱の TCP/IP プロトコル

Windows 95/98/Me に同梱の IPX/SPX 互換プロトコル

Windows 95/98/Me に同梱の NetWare ネットワーククライアント

NetWare Client32 for Windows 95

IntraNetWare Client for Windows 95

Novell Client for Windows 95/98/Me

- Windows 2000 日本語版

Windows 2000 に同梱の TCP/IP プロトコル

Windows 2000 に同梱の IPX/SPX トранスポート

Windows 2000 に同梱の NetWare 用クライアント

Novell Client for Windows NT/2000/XP

- Windows Server 2003 日本語版

Windows Server 2003 に同梱の TCP/IP プロトコル

Windows Server 2003 に同梱の IPX/SPX トранスポート

- Windows XP 日本語版

Windows XP に同梱の TCP/IP プロトコル

Windows XP に同梱の IPX/SPX プロトコル

Novell Client for Windows NT/2000/XP

- Windows NT 4.0 日本語版

Windows NT 4.0 に同梱の TCP/IP プロトコル

Windows NT 4.0 に同梱の IPX/SPX 互換プロトコル

Windows NT 4.0 に同梱の Client Service for NetWare

NetWare Client32 for Windows NT

IntraNetWare Client for Windows NT

Novell Client for Windows NT/2000/XP

- Windows Vista 日本語版

Windows Vista に同梱の TCP/IP プロトコル

Novell Client for Windows NT/2000/XP/Vista

◆ どんなことができるのか？

Network Monitor for Admin では以下の操作ができます。

- ・機器の操作部からの設定を制限し、一部の項目を変更できないようにします。
- ・機器にセットされている用紙の種類を設定できます。
- ・省エネモードへの切り替え、復帰などを設定できます。
- ・印刷中、用紙切れなどの情報をパソコン上で確認できます。
- ・同時に複数の機器を監視できます。機器の台数が多いときはグループを作り、管理しやすいように機器を分類できます。
- ・機器のネットワークに関する設定や、装備に関する詳しい情報を確認できます。
- ・機器のネットワークに関する設定を変更できます。
- ・パソコンから行ったジョブの結果を確認できます。
- ・ユーザーコードごとのプリンター、スキャナー、コピーのカウンター情報を確認できます。
- ・登録されたユーザーコードごとに、印刷の利用可・不可を管理できます。
- ・機器の状態変化をグループごとに設定し、通知することができます。
- ・アドレス情報管理ツールで、ファイル送信のユーザー名などを管理できます。
- ・メールの送信者名やフォルダの宛先を保護します。

2

Network Monitor for Admin のインストール

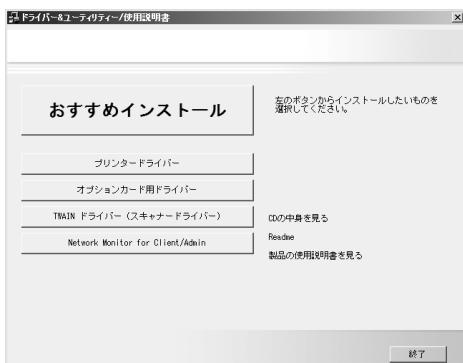
Network Monitor for Admin のインストールについての説明です。

★ 重要

- ・起動しているすべてのアプリケーションを終了し、パソコンが印刷中でないか確認してください。

1 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。
インストーラーが起動します。

2 セットアップ画面が表示されたら、[Network Monitor for Client/Admin] をクリックします。



Network Monitor for Admin のセットアップ画面が表示されます。

3 [次へ] をクリックします。

4 [使用許諾契約] ダイアログにソフトウェア使用許諾契約書が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、[はい] をクリックします。

5 表示されるメッセージに従って Network Monitor for Admin をインストールします。

インストールが完了するとメッセージが表示されます。

2

6 [完了] をクリックします。

「Windows の再起動」ダイアログが表示される場合は、Windows を再起動してください。

 **補足**

- ・システムの設定によってはインストーラーが自動的に起動しないことがあります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPEXE」をダブルクリックして起動してください。

ネットワークインターフェースボードの設定を変更する

Network Monitor for Admin を使って、ネットワークインターフェースボードの設定を変更する方法の説明です。

1 Network Monitor for Admin を起動します。

2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。

機器の一覧が表示されます。

IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。

3 一覧からネットワークインターフェースボードの設定を変更する機器をクリックして反転表示させます。

4 [ツール] メニューの [イーサネットボード設定] を選択します。

Web ブラウザが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

ネットワークインターフェースボードが初期設定の状態の場合、イーサネットボード設定ツールが起動します。表示スタイルから [Web ブラウザ] をチェックして、[OK] をクリックします。

5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

- 6 必要な項目を入力し、設定します。
- 7 Web Image Monitor を終了します。
- 8 Network Monitor for Admin を終了します。

↓ 補足

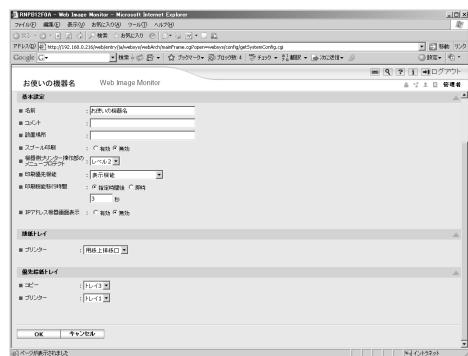
- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

2

機器側操作部のメニューをロックする

機器側操作部のメニューをロックする方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧から機器側操作部のメニューをロックしたい機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [機器側設定] をポイントし、[システム] をクリックします。
Web ブラウザが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して [ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
Web Image Monitor にシステム設定エリアが表示されますので、設定を変更します。



6 [機器側プリンター操作部のメニュープロテクト] で [レベル1]、または [レベル2] を選びます。

7 [OK] をクリックします。

8 Web Image Monitor を終了します。

9 Network Monitor for Admin を終了します。

2

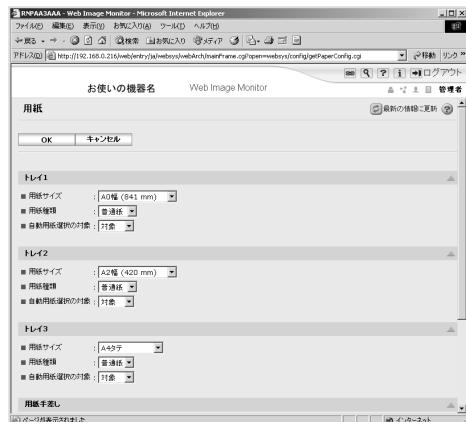
↓ 補足

- ・設定項目について詳しくは、機器設定エリア内のヘルプを参照してください。
- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

用紙種類を設定する

用紙種類を設定する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMP v3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMP v3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧から用紙種類を設定したい機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [機器側設定] をポイントし、[用紙] をクリックします。
Web ブラウザが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して [ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
Web Image Monitor に用紙設定エリアが表示されますので、設定を変更します。



- 6 Web Image Monitor を終了します。
- 7 Network Monitor for Admin を終了します。

補足

- ・設定項目について詳しくは、機器設定エリア内のヘルプを参照してください。
- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

ユーザー情報を管理する

Network Monitor for Admin でユーザー情報を管理する方法の説明です。

ユーザー情報管理ツールを使用して、ユーザーごとの印刷枚数を管理したり、利用可能な機能を制限したりすることができます。

2

ユーザー情報管理ツールを起動する

ユーザー情報管理ツールを起動する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧からユーザー情報を管理する機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [ユーザー情報管理ツール] を選択します。
ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して [OK] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
ユーザー情報管理ツールが起動します。



補足

- ・ユーザー情報管理ツールについて詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

印刷枚数を表示する

ユーザー別の印刷枚数情報を表示する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 [ユーザー別印刷カウント] タブをクリックします。



本機で印刷した枚数に関する情報が表示されます。

- 3 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

印刷枚数の情報を保存する

ユーザー別の印刷枚数情報を csv ファイルで保存する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 ユーザー情報管理ツールの [ユーザー別印刷カウント] タブをクリックします。



- 3 [ファイル] メニューをクリックし、[ユーザー別印刷カウントの書き出し] をクリックします。
- 4 保存するフォルダとファイル名を指定し、[保存] をクリックします。
- 5 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

印刷枚数の情報をリセットする

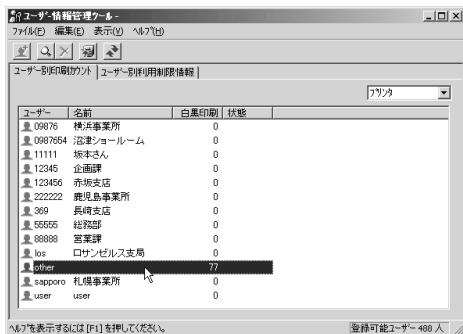
ユーザーごとに、印刷枚数の情報をリセットし、表示を0に戻す方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 ユーザー情報管理ツールの【ユーザー別印刷カウント】タブをクリックします。

2



- 3 リセットするユーザーをクリックします。



- 4 【編集】メニューをクリックし、【ユーザー別印刷カウントのリセット】をクリックします。

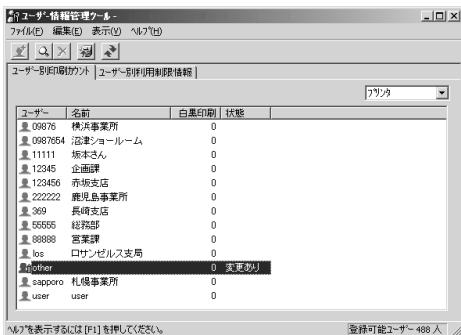


- 5 リセットする項目のチェックボックスにチェックを付け、[OK] をクリックします。



確認のメッセージが表示されます。

- 6 [OK] をクリックします。



「状態」が「変更あり」と表示されます。

- 7 [編集] メニューをクリックし、[設定内容の送信] をクリックします。



変更した情報が本機に反映されます。

- 8 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

利用制限を設定する

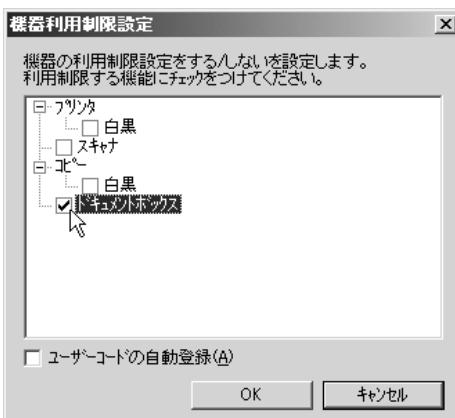
本機の機能について、機能ごとに利用制限を設定する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 ユーザー情報管理ツールの【編集】メニューをクリックし、【機器利用制限設定】をクリックします。

2



- 3 利用制限を設定する機能にチェックを付けます。



- 4 [OK] をクリックします。
設定内容が本機に反映されます。
- 5 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

ユーザーごとに利用可能な機能を設定する

ユーザーごとに利用可能な機能を設定する方法の説明です。

ここでは、ユーザーを追加して利用可能な機能を設定する方法を説明します。

1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。

2 ユーザー情報管理ツールの【ユーザー別利用制限情報】タブをクリックします。

2

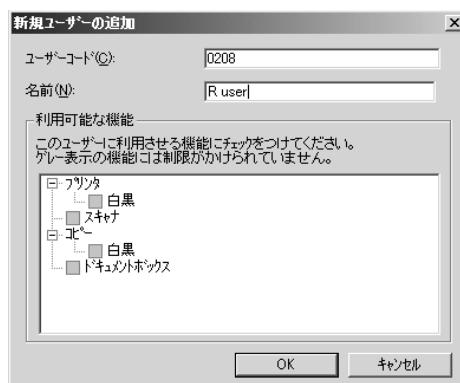


3 [編集] メニューをクリックし、[新規ユーザーの追加] をクリックします。



4 ユーザーコードと名前を入力します。

5 追加したユーザーに使用を許可する機能にチェックを付けます。



チェックボックスがグレーになっている機能は利用制限が設定されていません。

6 [OK] をクリックします。



ユーザーが追加されて、「状態」に「新規」と表示されます。

7 [編集] メニューをクリックし、[設定内容の送信] をクリックします。



設定内容が本機に反映されます。

8 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

補足

- 利用制限の設定方法について詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。

省エネモードを設定する

省エネモードを設定する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMP v3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMP v3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧から省エネモードを設定する機器をクリックして反転表示させます。
グループ内の機器を全て設定したいときには選択する必要はありません。
- 4 [グループ] メニューをクリックし、[省エネモード] をポイントします。
グループ内の機器を全て設定する場合は [グループ機器] を選択します。選択した機器だけを設定する場合は [選択機器] を選択します。いずれの場合も、省エネモードへの移行や解除を設定できます。
- 5 Network Monitor for Admin を終了します。

補足

- ・省エネモードの設定について詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。

パスワードを設定する

パスワードを設定する方法の説明です。

2

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧からネットワークインターフェースボードの設定を変更する機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [イーサネットボード設定] を選択します。
Web ブラウザが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
ネットワークインターフェースボードが初期設定の状態の場合、イーサネットボード設定ツールが起動します。表示スタイルから [Web ブラウザ] をチェックして、[OK] をクリックします。
- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
- 6 [機器] エリアの [管理者登録 / 変更] をクリックし、設定を変更します。
- 7 Web Image Monitor を終了します。
- 8 Network Monitor for Admin を終了します。

↓ 補足

- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

機器の状態を表示する

機器の状態を表示する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
一覧に機器の状態がアイコンで表示されます。
- 3 より詳しい状態を知りたい場合は、一覧で状態を知りたい機器をクリックして反転表示させ、[機器] メニューの [開く] をクリックします。
選択した機器の情報ダイアログが表示されます。
- 4 [システム] または [プリンタ] をクリックします。
機器の状態が表示されます。



- 5 Network Monitor for Admin を終了します。

補足

- ・ダイアログの各項目の詳細についてはヘルプを参照してください。

本体名とコメントを変更する

本体名とコメントを変更する方法の説明です。

2

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 設定する機器をクリックして反転表示させ、[ツール] メニューの [イーサネットボード設定] をクリックします。
Web ブラウザが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
- 4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
- 5 [機器] エリアの [システム] をクリックし、設定を変更します。
- 6 Web Image Monitor を終了します。
- 7 Network Monitor for Admin を終了します。

▼ 補足

- ・[名前] には、本体名を半角英数 31 バイト以内で入力します。
- ・[コメント] には、機器のコメントを半角英数 31 バイト以内で入力します。
- ・工場出荷時には RNP で始まる名前が設定されています。RNP で始まる名前は入力できません。
- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

スプール印刷ジョブの一覧を確認する

スプール印刷ジョブの一覧を確認する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 スプール印刷ジョブの一覧を確認したい機器をクリックして反転表示させ、[ツール] メニューの [スプール印刷ジョブ一覧 (プリンタ)] をクリックします。
Web ブラウザが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
- 4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

補足

- ・スプール印刷ジョブ一覧を表示するためには、あらかじめ本機のスプール印刷を [有効] に設定する必要があります。
- ・Web Image Monitor にスプール印刷ジョブ一覧が表示されます。表示されたスプール印刷ジョブを削除することができます。
- ・詳しくは、スプール印刷ジョブ一覧エリア内のヘルプを参照してください。
- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

アドレス情報を管理する

アドレス情報を管理する方法の説明です。

2

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 アドレス情報を管理する機器をクリックして反転表示させ、[ツール] メニューの [アドレス情報管理] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
- 4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して [ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
アドレス情報管理ツールが起動します。

↓ 補足

- ・詳しくは、アドレス情報管理ツールのヘルプを参照してください。
- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

Network Monitor for Client を使う

Network Monitor for Client を使って機器を監視する方法の説明です。

監視する機器を設定する

Network Monitor for Client で監視する機器を設定する方法の説明です。

2

- 1 タスクトレイの Network Monitor for Client アイコンを右クリックし、表示されたポップアップメニューの [プロパティ] - [機器監視設定] をクリックします。
- 2 [Network Monitor for Client - 設定] ダイアログが表示されます。
- 3 監視するプリンターをクリックして反転表示させ、[設定] の [監視対象にする] にチェックを付けます。

[タスクバーメニューに表示する] にチェックをつけると、タスクトレイの Network Monitor for Client アイコンのポップアップメニューに、プリンターの状態が表示されるようになります。

[タスクバーアイコンに表示する] にチェックを付けると、タスクトレイの Network Monitor for Client アイコンにプリンターの状態がアイコンで表示されるようになります。
- 4 [OK] をクリックします。

ダイアログが閉じ、設定したプリンターが監視の対象に含まれます。

↓ 補足

- ・状態アイコンの詳細についてはヘルプを参照してください。

機器の状態を表示する

Network Monitor for Client で機器の状態を表示する方法の説明です。

- 1 タスクトレイの右端の Network Monitor for Client アイコンをマウスの右ボタンでクリックし、状態を知りたい機器をクリックします。
機器の状態が、ダイアログに表示されます。

2



↓ 補足

- ・ダイアログの各項目の詳細についてはヘルプを参照してください。

Network Monitor for Client で IPP を使用する場合

Network Monitor for Client で IPP を使用する際の注意事項です。

- ・本機が受け付ける Network Monitor for Client からの印刷ジョブは、1 件のみです。本機が印刷中のとき、他のユーザーが Network Monitor for Client を使用して続けて接続しようとしても、先に行っている印刷が完了するまでは接続できません。この場合、後から接続しようとしたユーザーの Network Monitor for Client は、リトライ設定時間経過ごとに接続を試みます。
- ・Network Monitor for Client が本機に接続できずにタイムアウトになると、印刷ジョブが一時停止されます。この場合、プリンターウィンドウで一時停止を解除する必要があります。このとき、本機に接続し直されます。印刷ジョブは、プリンターウィンドウで取り消すことができますが、本機が印刷を開始してから印刷ジョブを取り消すと、この次にプリンターに接続したユーザーの印刷ジョブが正しく印刷できなくなる場合があります。
- ・Network Monitor for Client からの印刷ジョブが途切れで印刷できなくなつて本機により印刷ジョブが取り消された場合は、印刷の操作をもう一度やり直す必要があります。
- ・他のパソコンから出された印刷ジョブは、プロトコルにかかわらず、プリンターのアイコンをダブルクリックして開くウィンドウに表示されません。
- ・複数のユーザーが Network Monitor for Client を使用して印刷しようとした場合、本機に接続しようとした順に印刷が始まらない場合があります。
- ・IPP の印刷ポート名に IP アドレスは使用できません。Network Monitor for Client がポート名として IP アドレスを使用するため、ポートの競合が発生します。
- ・SSL を使用する場合、本機にアクセスするときは、「https://（本機のアドレス）/printer」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いください。Internet Explorer6.0 以降を推奨します。
- ・本機にアクセスするとき、[セキュリティの警告] が表示された場合、ご使用のパソコンに証明書をインストールする必要があります。この場合、[証明書のインポートウィザード] で証明書ストアの場所は、[証明書をすべて次のストアに配置する] を選択し、[信赖されたルート] の [ローカルコンピュータ] を選択します。

補足

- ・SSL（暗号化通信）について詳しくは、管理者にお問い合わせください。

機器の状態をメールで通知する

本機に用紙切れや紙詰まりなどのアラートが発生したときに、メール通知機能を使用して機器の状態を通知することができます。

機器の状態を通知するメールは、あらかじめ設定した送信先メールアドレスに送信されます。アラートを通知するタイミングや状態なども設定することができます。

通知設定できるものは、以下の通りです。

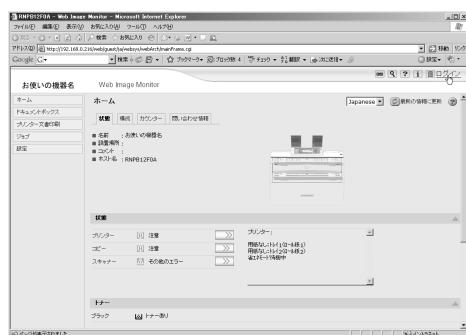
- ・サービスコールが発生した場合
- ・トナーがなくなった場合
- ・トナーの残りがわずかになった場合
- ・紙詰まりがおきた場合
- ・カバーオープンが検知された場合
- ・紙がなくなった場合
- ・給紙トレイでエラーが発生した場合
- ・排紙トレイが満杯になった場合
- ・廃トナーボトルが満杯になった場合
- ・廃トナーボトルが満杯に近づいた場合
- ・パンチくずが満杯になった場合
- ・蓄積データで HDD が満杯に近づいた場合
- ・ログエラーが発生した場合

1 Web ブラウザを起動し、アドレスバーに「[http://\(本機のアドレス\) /](http://(本機のアドレス)/)」と入力し、本機にアクセスします。

SSL（暗号化通信）の設定を有効にしている場合、「[https://\(本機のアドレス\) /](https://(本機のアドレス) /)」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いください。Internet Explorer 6.0 以降を推奨します。

Web Image Monitor のトップページが表示されます。

2 Web Image Monitor のトップページで、[ログイン] をクリックします。



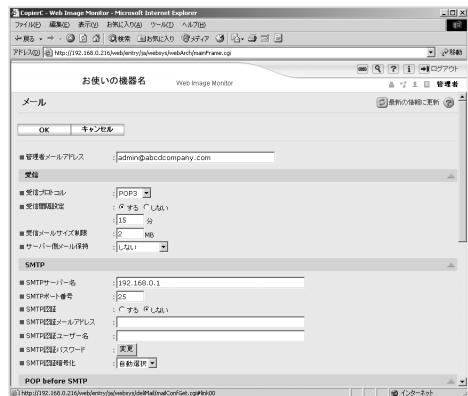
ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

3 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

4 左フレーム内の【設定】をクリックし、【機器】エリアの【メール】をクリックします。

5 設定画面に示された以下の項目のうち、必要なものを設定します。



2

- ・管理者メールアドレス：機器に問題が発生した場合や消耗品の交換が必要な場合に、メール通知をする宛先の設定を行います。
- ・受信欄の各項目：メール受信の際に必要なプロトコルの設定を行います。
- ・SMTP欄の各項目：SMTP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
SMTP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。
- ・POP before SMTP 欄の各項目：POP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
POP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。
- ・POP3/IMAP4 欄の各項目：POP3 サーバーまたは IMAP4 サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
- ・メール通信ポート欄の各項目：メールサーバーにアクセスする際に使用するポートの設定を行います。
- ・メール通知アカウント欄の各項目：要求時メール通知を使用する場合は設定を行います。

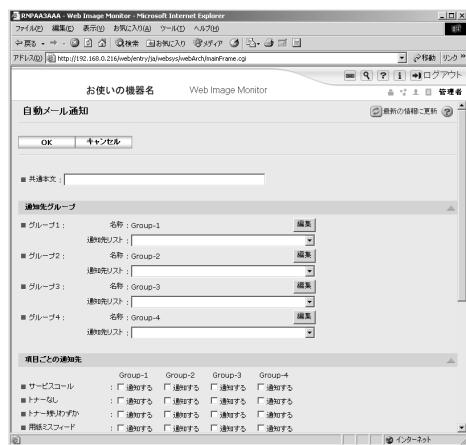
6 【OK】をクリックします。

↓ 補足

- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

「自動メール通知」の設定

- 1 左フレーム内の【設定】をクリックし、【機器】エリアの【自動メール通知】をクリックします。
- 2 設定画面に示された以下の項目を設定します。

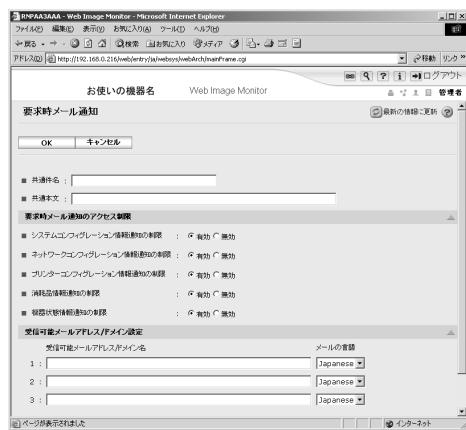


- ・共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
 - ・通知先グループ欄の各項目：通知先アドレスをグループ分けして設定できます。
 - ・項目ごとの通知先欄の各項目：機器の状態やエラーなど、各通知項目ごとに、メールを送信するグループを設定できます。
- 項目の詳細を設定する場合は、【各項目の詳細設定】の【編集】をクリックし、表示される設定画面で各項目を設定して【OK】をクリックします。

- 3 【OK】をクリックします。
- 4 【ログアウト】をクリックします。
- 5 Web ブラウザを閉じます。

「要求時メール通知」の設定

- 1 左フレーム内の【設定】をクリックし、【機器】エリアの【要求時メール通知】をクリックします。
- 2 設定画面に示された以下の項目を設定します。



- ・共通件名：返信メールの件名に共通で付加する文字列を入力します。
- ・共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
- ・要求時メール通知のアクセス制限欄の各項目：機器の設定内容や状態など、分類された情報ごとに、アクセスを制限するかどうかを選択します。
- ・受信可能メールアドレス／ドメイン設定欄の各項目：メールで情報を要求し、返信メールとして情報を受け取ることができるメールアドレスまたはドメイン名を入力します。

- 3 【OK】をクリックします。
- 4 【ログアウト】をクリックします。
- 5 Web ブラウザを閉じます。

メールの認証について

メールサーバーの不正利用を防止するために、メールの認証を設定できます。

◆ SMTP 認証の場合

SMTP サーバーへのメール送信時に、SMTP AUTH プロトコルを使用してユーザー名とパスワードを入力し、認証を行うことで SMTP サーバーの不正利用を防止します。

- 1) 左フレーム内の[設定]をクリックし、[機器]メニューの[メール]をクリックします。
- 2) 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- SMTP サーバ名：SMTP サーバー名を半角の英数字で指定します。
 - SMTP ポート番号：ポート番号を指定します。通常、SMTP で用いられるポート番号は 25 です。
 - SMTP 認証：SMTP 認証の有効／無効を指定します。
- SMTP 認証メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
- SMTP 認証ユーザー名：SMTP アカウント名を半角の英数字で入力します。realmID を指定する場合には、SMTP 認証ユーザー名の後に @ realmID の形式で追加してください。
 - SMTP 認証パスワード：使用する SMTP アカウントのパスワードを設定します。
 - SMTP 認証暗号化：SMTP 認証を有効にした場合に、パスワードの暗号化を行うかどうかを選択します。

[自動選択]：認証方式が PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。

[有効]：認証方式が CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。

[無効]：認証方式が PLAIN、LOGIN の場合に指定します。

- 3) [OK] をクリックします。
- 4) [ログアウト] をクリックします。
- 5) Web ブラウザを閉じます。

◆ POP before SMTP 認証の場合

メールを送信するときに、あらかじめ POP3 サーバーに対してログインを行うかどうかを選択します。

- 1) 左フレーム内の[設定]をクリックし、[機器]メニューの[メール]をクリックします。
- 2) 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- POP before SMTP：POP before SMTP 認証の有効／無効を指定します。
 - POP メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
 - POP ユーザー名：POP アカウント名を半角の英数字で入力します。
 - POP パスワード：使用する POP アカウントのパスワードを設定します。
 - POP 認証後待機時間：POP before SMTP を有効に設定した場合に、POP サーバーにログインしてから SMTP サーバーに接続を開始するまでの時間を入力します。
- 3) [OK] をクリックします。
 - 4) [ログアウト] をクリックします。
 - 5) Web ブラウザを閉じます。

要求時メールの送信

要求時メール機能を使用するためには、Web Image Monitor にて以下の設定をしてください。

1 [機器] メニューの [メール] をクリックします。

2 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- ・メール通知用メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
- ・メール通知の受信：要求時メール通知機能を使用するかどうかを選択します。
- ・メール通知ユーザー名：メールの送信者として管理者のユーザー名を入力します。
- ・メール通知パスワード：メール通知ユーザーのパスワードを設定します。

3 [OK] をクリックします。

4 [ログアウト] をクリックします。

5 Web ブラウザを閉じます。

2

◆ 要求時メールの形式

メール通知機能を使用するためには、設定した要求メールを本機に対して送信する必要があります。

お使いのメールソフトにて、以下の形式で記述してください。

項目	内容
Subject (メールソフトでは「件名」などと表示される部分)	機器に対する要求内容を記述します。詳細は Subject フィールドを参照してください。
From (メールソフトでは「送信者」、「差出人」などと表示される部分)	有効なメールアドレスを指定してください。機器の情報はここで指定されたアドレスに送信されます。

 **補足**

- ・メールの大きさは最大 1MB です。

◆ Subject フィールド

書式: devicestatus 引数名 = パラメータ [&引数名 = パラメータ] [&引数名 = パラメータ] ...

Subject フィールドの記述例

記述例	動作
devicestatus request=sysconfig&format=text&lang=en	機器のシステムコンフィグレーション情報が、英語のテキストフォーマットで送信されます。
devicestatus request=sysconfig	機器のシステムコンフィグレーション情報が、事前に設定されているメールフォーマットとメール言語で送信されます。

↓ 補足

- 英字の大文字と小文字は区別されません。
- 引数名の記述順序は任意です。

引数名一覧

引数名	意味	省略時の動作
request	取得したい情報	省略不可
format	メールフォーマット	メールアドレスごとに事前に、設定されているフォーマットでメールが送信されます。
lang	メール本文の言語	メールアドレスごとに事前に、設定されている言語でメールが送信されます。

取得情報指定時のパラメータ

取得情報	パラメータ指定値
システム・コンフィグレーション情報	sysconfig
ネットワーク・コンフィグレーション情報	netconfig
プリンタ・コンフィグレーション情報	prtconfig
サプライ情報	supply
機器ステータス情報	status

メールフォーマット指定時のパラメータ

メールフォーマット	パラメータ指定値
テキスト	text
HTML	html
XML	xml

↓ 補足

- Subject フィールドに HTML や XML なども記述できますが、出力方式はテキストのみとなります。

メール本文言語指定時のパラメータ

メール本文指定言語	パラメータ指定値
日本語	ja
英語	en

telnet を使う

telnet を使ってプリンターの状態や設定内容を確認や、各種の設定を行うことができます。

★ 重要

- リモートメンテナンス (mshell) はセキュリティを確保するため、パスワードを設定して運用してください。
- パスワードは Web ブラウザによる設定 (Web Image Monitor) で使用するパスワードと共通です。mshell 上でパスワードを変更すると、他のパスワードも変更されます。

↓ 補足

- このマニュアルは他機種との共通マニュアルで、機能や設定項目を全て含めて説明しています。お使いの機種によっては、設定できないコマンドがあります。

2

操作の流れ

telnet を起動してから終了するまでの手順についての説明です。

★ 重要

- リモートメンテナンスを同時に複数のユーザが使用することはできません。
- Windows Vista をご使用の場合は、telnet クライアントおよび telnet サーバを有効にしてからお使いください。

1 本機の IP アドレス (またはホスト名) を引数にして telnet を起動します。
% telnet 本機のアドレス

2 ログイン名とパスワードを入力します。

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。
ユーザー認証が設定されているときは、ログイン名にはログインユーザー名を、パスワードにはログインパスワードを入力してログインします。

3 コマンドを入力します。

4 telnet を終了します。

msh> logout
設定が変更されていると変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

5 変更内容を保存するときは「yes」と入力し、Enter キーを押します。

変更内容を保存しないときは「no」と入力し、Enter キーを押します。コマンド入力を続けるときは「return」と入力し、Enter キーを押します。

↓ 補足

- 「Can not write NVRAM information」とメッセージが表示されたとき、変更内容は保存されません。もう一度操作し直してください。
- 変更内容を保存すると自動的にネットワークインターフェースボードがリセットされます。
- リセットしても Active 状態である印刷中、または印刷処理待ちの印刷ジョブは印刷されますが、Waiting 状態であるプリンターへのファイル転送待ちのジョブは破棄されます。

access

アクセスコントロールの表示と設定は、access コマンドを使用します。また、アクセスレンジを複数設定することもできます。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> access
```

2

◆ IPv4 のアクセスレンジの設定

```
msh> access 対象 ID range 開始アドレス 終了アドレス
```

(例) アクセス可能な IPv4 のアドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する

```
msh> access 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20
```

◆ IPv6 のアクセスレンジの設定

```
msh> access 対象 ID range6 開始アドレス 終了アドレス
```

(例) アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する

```
msh> access 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200
```

◆ IPv6 のアクセスマスクの設定

```
msh> access 対象 ID mask6 基準アドレス マスク長
```

(例) アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する

```
msh> access 1 mask6 2001:DB8:: 32
```

◆ アクセスコントロールの初期化

```
msh> access flush
```

- ・アクセスコントロールの初期化は、全てのアクセスレンジを工場出荷時の設定に戻し、IPv4 環境では「0.0.0.0」に、IPv6 環境では「::」となります。

↓ 補足

- ・アクセスレンジは、印刷できるワークステーションを IP アドレスを使って制限するためのものです。印刷を制限する必要がない場合は、IPv4 環境では「0.0.0.0」を、IPv6 環境では「::」を設定してください。
- ・アクセスレンジの設定で、開始アドレスが終了アドレスよりも大きい場合、設定は無効となります。
- ・IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1~5 の 5 件が設定できます。
- ・IPv6 は 1 件ごとにレンジとマスクが選択できます。
- ・IPv6 のマスク長は 1~128 の範囲で指定できます。
- ・制限された IP アドレスからは、印刷の送信、および Web Image Monitor にアクセスすることはできません。

authfree

認証除外制御の表示と設定は、authfree コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> authfree
```

- ・プリントジョブ認証が認証除外に設定されていない場合、認証除外制御の情報は表示できません。

◆ IPv4 アドレスの設定

```
msh> authfree 対象 ID range_addr1 range_addr2
```

◆ IPv6 アドレスのレンジでの設定

```
msh> authfree 対象 ID range6_addr1 range6_addr2
```

◆ IPv6 アドレスのマスクでの設定

```
msh> authfree 対象 ID mask6_addr1 masklen
```

◆ IEEE 1284/USB の設定

```
msh> authfree [parallel|usb] [on|off]
```

- ・authfree 機能を有効するには on を、無効にするときは off を指定します。
- ・インターフェースを必ず指定してください。

◆ 設定を工場出荷値に戻す

```
msh> authfree flush
```

↓ 補足

- ・IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1~5 の 5 件が設定できます。

autonet

AutoNet 機能を使用するには、autonet コマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

msh> autonet

◆ AutoNet 機能の設定

msh> autonet {on|off}

- AutoNet 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

2

◆ 現在のインターフェース優先順位の表示

msh> autonet priority

◆ インターフェースの優先設定

msh> autonet priority インターフェース

- AutoNet パラメーターを取得するインターフェースの優先順位を設定することができます。
- 優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

↓ 補足

- 現在のインターフェース優先順位の表示は、複数のインターフェース装着の有無に関わらず、現在の優先順位が表示されます。

bonjour (rendezvous)

Bonjour (Rendezvous) 関連の表示と設定は、bonjour (rendezvous) コマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

msh> bonjour

◆ サービス名の設定

msh> bonjour cname 文字列

- 文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

◆ 設置場所情報の設定

msh> bonjour location 文字列

- 文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

◆ プロトコルごとの優先順位の設定

```
msh> bonjour diprint {0-99}
msh> bonjour lpr {0-99}
msh> bonjour ipp {0-99}
```

- diprint、lpr、ipp それぞれの優先度を設定します。数字が小さいほど優先度が高くなります。

◆ IP TTL 値の設定

```
msh> bonjour ipttl {1-255}
```

- IP TTL 値（越えられるルータの数）を設定します。初期値は 255 です。

◆ サービス名と設置場所情報のリセット

```
msh> bonjour clear {cname | location}
```

- cname を指定するとコンピューター名をリセットします。本機を再起動すると、コンピューター名の表示は初期値になります。
- location を指定すると設置場所情報をリセットします。設置場所情報の表示は空欄になります。

◆ インターフェースの設定

```
msh> bonjour linklocal インターフェース名
```

- インターフェース名を省略した場合は、現在の設定値を表示します。
- 接続する PC の IP アドレスが、DHCP の Autonet に使用される linklocal アドレスになっており、本機に複数のインターフェースが装着されている場合に、インターフェースを指定することによって通信ができるようになります。
- この設定をしない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

◆ IPP-SSL 印刷の設定

```
msh> bonjour ippport {ipp | ssl}
```

- ssl に設定すると、IPP のポート番号を 443 として広告し、セキュリティを高めた IPP-SSL 印刷を行えます。
- ipp に設定すると、IPP ポート番号を 631 として広告します。ポート番号 631 は通常の IPP 印刷で使用するポート番号です。

devicename

本体名の表示や設定は、devicename コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> devicename
```

◆ 本体名の設定

```
msh> devicename name 文字列
```

- ・本体名は 31 バイト以下で指定します。
- ・1 台の機器に複数の本体名を設定することはできません。

◆ 本体名の初期化

```
msh> devicename clear name
```

- ・本体名を工場出荷時の設定に戻します。

2

dhcp

DHCP の設定は、dhcp コマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

```
msh> dhcp
```

◆ DHCP 機能の設定

```
msh> dhcp インターフェース {on|off}
```

- ・DHCP 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- ・DNS サーバーアドレスやドメイン名を DHCP から取得する場合、必ず「on」に設定してください。
- ・wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

◆ 現在のインターフェース優先順位の表示

```
msh> dhcp priority
```

◆ インターフェースの優先設定

```
msh> dhcp priority インターフェース
```

- ・DNS サーバーアドレスやゲートウェイアドレスが、どのインターフェースの DHCP サーバーのものを優先して利用するかを設定します。
- ・優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。

◆ DNS サーバーアドレスの選択

```
msh> dhcp dnsaddr {dhcp|static}
```

- ・DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- ・DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

◆ ドメイン名の選択

msh> dhcp domainname {dhcp|static}

- ・ドメイン名を DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- ・ドメイン名を DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

参照

- ・P.90 「dns」
- ・P.91 「domainname」
- ・P.169 「DHCP を使用する」

diprint

コンピュータから直接印刷を行うことができるダイレクトプリントポートの表示と設定は、diprint コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

msh> diprint

次の設定値が表示されます。

```
port 9100
timeout = 300(sec)
bidirect on
con multi
apl async
```

- ・「port」 使用するポート番号が表示されます。
- ・「bidirect」 ダイレクトプリントポートが双方向通信に対応しているか表示されます。

◆ タイムアウトの設定

msh> diprint timeout [30~65535]

- ・ネットワークからデータを受信する際のタイムアウト時間を設定できます。
- ・工場出荷時の設定値は 300 (秒) です。

◆ 同時接続数の設定

msh> diprint conn {multi|single}

- ・diprint の同時接続数を multi (複数) か single (1) か設定します。

dns

DNS (Domain Name System) の表示や設定は、dns コマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

msh> dns

◆ IPv4 による DNS サーバーの設定

msh> dns 対象 ID server アドレス

- IPv4 による DNS サーバーアドレスを設定します。
- 対象 ID は 1~3 までです。3 件まで登録できます。
- 「255.255.255.255」は設定できません。

2

◆ IPv6 による DNS サーバーの設定

msh> dns 対象 ID server6 アドレス

- IPv6 による DNS サーバーアドレスを設定します。
- 対象 ID は 1~3 までです。3 件まで登録できます。

◆ ダイナミック DNS 機能の設定

msh> dns インターフェース ddns {on|off}

- ダイナミック DNS 機能の有効／無効を指定します。
- ダイナミック DNS 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

◆ レコード重複時の動作指定

msh> dns overlap {update|add}

- レコードが重複したときの動作を指定します。
- update は古いレコードを削除し、新しくレコードを登録するときに指定します。
- add は古いレコードを残し、新しいレコードを追加登録するときに指定します。
- CNAME の重複の場合は、設定にかかわらず更新を行います。

◆ CNAME の登録

msh> dns cname {on|off}

- CNAME を登録するかどうかを指定します。
- CNAME の登録を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- 登録される CNAME は RNP からはじまるデフォルトの名前です。CNAME は変更できません。

◆ A レコードの登録

```
msh> dns arecord {dhcp|own}
```

- dhcp は本機を代行して、DHCP サーバが DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。
- own は本機が DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。登録には、「DHCP」で指定した「DNS サーバアドレスの選択」および「ドメイン名の選択」の値が使用されます。

◆ レコードの更新間隔の設定

```
msh> dns interval 更新間隔時間
```

- ダイナミック DNS 機能を使用しているときに、レコードを更新する間隔を指定します。
- 更新間隔を 1 時間単位で指定します。1~255 の間で指定します。
- 初期値は「24」です。

domainname

ドメイン名の表示や設定は、domainname コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> domainname
```

◆ 現在の各インターフェースのドメイン名表示

```
msh> domainname インターフェース
```

◆ 各インターフェースのドメイン名設定

```
msh> domainname インターフェース name ドメイン名
```

- ドメイン名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- イーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースは同じドメイン名になります。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

◆ 各インターフェースのドメイン名削除

```
msh> domainname インターフェース clear name
```

help

使用できるコマンドの一覧および使用方法の表示は、help コマンドを使用します。

◆ コマンド一覧の表示

```
msh> help
```

◆ コマンド使用方法の表示

```
msh> help コマンド名
```

hostname

ホスト名を表示、変更するには、hostname コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> hostname
```

◆ 現在の各インターフェースのホスト名表示

```
msh> hostname インターフェース
```

◆ 各インターフェースのホスト名の設定

```
msh> hostname インターフェース name ホスト名
```

- ・ホスト名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- ・RNP ではじまる名前は、大文字、小文字が混ざった場合でも設定できません。
- ・イーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースは同じホスト名になります。
- ・wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

◆ 各インターフェースのホスト名の初期化

```
msh> hostname インターフェース clear name
```

ifconfig

TCP/IP の、IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレス、デフォルトゲートウェイアドレスの表示や設定は、ifconfig コマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

```
msh> ifconfig
```

◆ IPv4 アドレスの設定

```
msh> ifconfig インターフェース アドレス
```

- ・この設定をしない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
- ・wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

(例) イーサネットインターフェースの IPv4 アドレスを 192.168.15.16 に設定する

```
msh> ifconfig ether 192.168.15.16
```

◆ IPv6 アドレスの設定

msh>ifconfig インターフェース名 inet6 アドレス プレフィックス長

(例) イーサネットインターフェースの IPv6 アドレスを 2001:DB8::100、プレフィックス長を 64 に設定する

msh> ifconfig ether inet6 2001:DB8::100 64

◆ ネットマスクの設定

msh> ifconfig インターフェース名 netmask アドレス

(例) イーサネットインターフェースのサブネットマスクを 255.255.255.0 に設定する

msh> ifconfig ether netmask 255.255.255.0

◆ ブロードキャストアドレスの設定

msh> ifconfig インターフェース名 broadcast アドレス

◆ インターフェース切り替え

msh> ifconfig インターフェース名 up

(例) 接続時にイーサネットを使用する

msh> ifconfig ether up

・拡張無線 LAN ボード（オプション）接続時に、イーサネットと無線 LAN のどちらを使用するか指定することができます。

 **補足**

- ・設定するアドレスはネットワーク管理者に確認してください。
- ・IPアドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスはイーサネットインターフェース、無線 LAN インターフェース共通です。
- ・TCP/IP の設定はイーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースで共通です。インターフェースの切り替えを行った場合、設定は切り替えたインターフェースが引き継ぎます。
- ・アドレスを 16 進形式で設定する場合は先頭に「0x」を付けてください。

info

給紙トレイ、排紙トレイ、およびエミュレーションなどの機器情報の表示は、info コマンドを使用します。

◆ 機器情報の表示

msh> info

 **参照**

- ・P.115 「ネットワーク経由で確認できる情報」

ipp

IPP の使用環境の表示、設定は、IPP コマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

```
msh> ipp
```

◆ タイムアウトの設定

```
msh> ipp timeout {30 - 65535}
```

- ・印刷データが途切れた場合に、印刷ジョブを取り消すまでの時間を指定します。設定範囲は 30~65535 秒です。

2

◆ IPP ユーザー認証方式の設定

```
msh> ipp auth {basic|digest|off}
```

- ・IPP ユーザー認証を行って、IPP を使って印刷できるユーザーを制限することができます。工場出荷時はユーザー設定を行わない設定になっています。
- ・basic または digest で、認証を行います。
- ・ユーザー認証を行うように指定した場合、ユーザー名の登録を行ってください。ユーザーは 10 組まで登録できます。

◆ IPP ユーザー名の登録

```
msh> ipp user
```

メッセージにしたがって設定します。

```
msh> Input user number (1 to 10):
```

設定するユーザー番号を入力し、ユーザー名とパスワードを指定します。

```
msh> IPP user name:user1
```

```
msh> IPP password:*****
```

ユーザー名とパスワードが設定されると次のメッセージが表示されます。

```
User configuration changed
```

ipv6

IPv6 の使用環境の表示、設定は、ipv6 コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> ipv6
```

◆ ステートレスアドレスの有効／無効設定

```
msh> ipv6 stateless {on|off}
```

- ・「on」に設定すると、本体の電源を ON にした時にルータに対してステートレスアドレス生成に必要な情報を要求します。また、その後もルータから送信させる定期的な情報を取得し、本体のステートレスアドレスの有効期間を更新します。

lpr

LPR の使用環境の表示、設定は、lpr コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> lpr
```

◆ ジョブ削除時におけるホストの同一性チェックの有効／無効設定

```
msh> lpr chkhost {on|off}
```

- ・「on」に設定すると、ジョブを送信したホストの IP アドレスからのみジョブを削除することができます。無効の場合には、ジョブを送信したホストの IP アドレス以外からもジョブの削除が可能となります。

◆ プリンタエラー検出機能

```
lpr prnerrchk {on|off}
```

- ・「on」に設定すると、本機はプリンタエラー発生時にデータファイルを受信せずにエラー回復するまで待機します。

netware

プリントサーバ名、ファイルサーバ名などの Netware 関連の表示、設定は、netware コマンドを使用します。

◆ Netware プリントサーバ名の設定

```
msh> netware pname 文字列
```

- ・Netware プリントサーバ名を 47 文字以下で指定します。

◆ Netware ファイルサーバ名の設定

```
msh> netware fname 文字列
```

- ・Netware ファイルサーバ名を 47 文字以下で指定します。

◆ encap タイプの設定

```
msh> netware encap {802.3|802.2|snap|ethernet2|auto}
```

◆ リモートプリンタ番号の設定

```
msh> netware rnum {0 - 254}
```

◆ タイムアウト値の設定

```
msh> netware timeout {3 - 255}
```

◆ プリントサーバーモードへの設定

```
msh> netware mode pserver
```

```
msh> netware mode ps
```

◆ リモートプリンタモードへの設定

```
msh> netware mode rprinter
```

```
msh> netware mode rp
```

◆ NDS コンテキスト名の設定

```
msh> netware context 文字列
```

◆ SAP インターバル値の設定

```
msh> netware sap_interval {0-3600}
```

◆ ログインモードをファイルサーバ指定に設定

```
msh> netware login server
```

◆ ログインモードを NDS ツリー指定に設定

```
msh> netware login tree
```

2

◆ ログインする NDS ツリー名の設定

```
msh> netware tree NDS ツリー名
```

◆ ファイル転送プロトコルの設定

```
msh> netware trans {ipv4pri|ipxpri|ipv4|ipx}
```

- ・プロトコルを省略した場合は、現在のプロトコルを表示します。

プロトコル	設定されるプロトコル
ipv4pri	IPv4+IPX (IPv4 優先)
ipxpri	IPv4+IPX (IPX 優先)
ipv4	IPv4
ipx	IPX

passwd

リモートメンテナンスのパスワードの変更は、passwd コマンドを使用します。

◆ パスワードの変更

```
msh> passwd
```

- ・[Old password:] が表示されるので、現在のパスワードを入力します。
- ・[New password:] が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- ・[Retype new password:] が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

◆ スーパーバイザーによる各管理者のパスワード変更

```
msh> passwd 管理者 ID
```

- ・管理者のパスワードを削除、または新規設定することができます。
- ・[New password:] が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- ・[Retype new password:] が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

◀ 補足

- ・パスワードは控えを取るなどして忘れないようにしてください。
- ・入力できるのは半角英数字と表示可能な半角記号で 32 文字までです。大文字と小文字も区別されます。

pathmtu

PathMTU Discovery サービス機能の表示、設定は、pathmtu コマンドを使用します。

◆ 現在の設定表示

```
msh> pathmtu
```

◆ PathMTU Discovery サービス有効 / 無効の切替設定

```
msh> pathmtu {on|off}
```

- ・工場出荷時は「ON」になっています。
- ・送信データの MTU サイズが、ルータの MTU より大きいと、ルータから通過不可と通知され、送信に失敗することがあります。「ON」に設定をしていると、MTU サイズを最適化してデータ送信の失敗を避けることができます。
- ・環境によってはルータからの通知が得られず、データ送信に失敗することがあります。その場合は「OFF」に設定してください。

prnlog

プリントログ情報の表示は、prnlog コマンドを使用します。

◆ プリントログ情報の表示

```
msh> prnlog
```

- ・これまでに印刷したプリントログ情報が表示されます。

```
msh> prnlog {ID 番号}
```

- ・表示されたプリントログ情報の ID 番号を指定すると、印刷ジョブのさらに詳しい情報が表示されます。

参照

- ・P.115 「ネットワーク経由で確認できる情報」

route

TCP/IP ルーティングテーブルの表示、設定は、route コマンドを使用します。

◆ IPv4 の該当 route 情報の表示

```
msh> route get {destination}
```

- ・destination は IPv4 のアドレスを指定します。destination が 0.0.0.0 のアドレスは指定できません。
- ・destination を指定しない場合は、すべての route 情報を表示します。

◆ 指定された IPv4 の destination の有効／無効の切り替え設定

```
msh> route active {host|net} {destination} {on|off}
```

- ・{host | net} 省略時は host 設定となります。

◆ IPv4 のルーティングテーブルへの追加設定

```
msh> route add {host|net} {destination gateway}
```

- destination で表される host (または network) ルートおよび gateway で表されるゲートウェイアドレスをテーブルに追加します。
- destination および gateway は IPv4 のアドレスを指定します。
- {host | net} 省略時は host 設定となります。

◆ IPv4 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

```
msh> route add default {gateway}
```

◆ IPv4 のルーティングテーブルからの削除設定

```
msh> route delete {host|net} {destination}
```

- {host | net} 省略時は host 設定となります。
- destination は IPv4 のアドレスを指定します。

◆ IPv6 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

```
msh> route add6 default {gateway}
```

◆ 指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルへの追加設定

```
msh> route add6 {destination} prefixlen {gateway}
```

- destination および gateway は IPv6 のアドレスを指定します。

◆ 指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルからの削除設定

```
msh> route delete6 {destination} prefixlen
```

- destination および gateway は IPv6 のアドレスを指定します。

◆ IPv6 の該当 route 情報の表示

```
msh> route get6 {destination}
```

- destination は IPv6 のアドレスを指定します。

◆ 指定されたされた IPv6 の destination の有効／無効の切り替え設定

```
msh> route active6 {destination} prefixlen {on|off}
```

◆ 全 route 情報の削除設定

```
msh> route flush
```

↓ 補足

- IPv4 のルーティングテーブルの最大値は 16 です。
- IPv6 のルーティングテーブルの最大値は 2 です。
- ルーターを越えて別のネットワークのネットワーク機器とやりとりするときは、ゲートウェイアドレスを設定してください。
- ゲートウェイアドレスはすべてのインターフェース共通になります。
- Prefixlen は 1~128 の 10 進数です。

set

プロトコルの情報の表示、有効／無効の設定は、set コマンドを使用します。

◆ プロトコルの情報（有効／無効）の表示

```
msh> set ipv4
msh> set ipv6
msh> set appletalk
msh> set netware
msh> set smb
msh> set protocol
      • protocol を指定すると、ipv4、ipv6、appletalk、netware、smb の情報を表示します。
msh> set lpr
msh> set lpr6
msh> set ftp
msh> set ftp6
msh> set rsh
msh> set rsh6
msh> set diprint
msh> set diprint6
msh> set web
msh> set snmp
msh> set ssl
msh> set ss16
msh> set nrs
msh> set rfu
msh> set rfu6
msh> set ipp
msh> set ipp6
msh> set http
msh> set http6
msh> set bonjour
msh> set nbt
msh> set ssdp
msh> set ssh
msh> set sftp
msh> set sftp6
```

◆ プロトコルの有効／無効の設定

- ・プロトコルを有効にするには up を、無効にするには down を指定します。

```
msh> set ipv4 {up|down}
```

- ・IPv4 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。

- ・IPv4 を無効になると、lpr、ftp、sftp、rsh、diprint、web、snmp、ssl、ipp、http、bonjour も使用できなくなります。

```
msh> set ipv6 {up|down}
```

- ・IPv6 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。

- ・IPv6 を無効にした場合、lpr6、ftp6、rsh6、diprint6、ssl6、rfu6、ipp6、http6、sftp6 も使用できなくなります。

```
msh> set appletalk {up|down}
```

```
msh> set netware {up|down}
```

```
msh> set smb {up|down}
```

```
msh> set lpr {up|down}
```

```
msh> set lpr6 {up|down}
```

```
msh> set ftp {up|down}
```

```
msh> set ftp6 {up|down}
```

```
msh> set rsh {up|down}
```

```
msh> set rsh6 {up|down}
```

```
msh> set diprint {up|down}
```

```
msh> set diprint6 {up|down}
```

```
msh> set web {up|down}
```

```
msh> set snmp {up|down}
```

```
msh> set ssl {up|down}
```

```
msh> set ssl6 {up|down}
```

```
msh> set nrs {up|down}
```

```
msh> set rfu {up|down}
```

```
msh> set rfu6 {up|down}
```

```
msh> set ipp {up|down}
```

```
msh> set ipp6 {up|down}
```

```
msh> set http {up|down}
```

```
msh> set http6 {up|down}
```

```
msh> set bonjour {up|down}
```

```
msh> set ssh {up|down}
```

```
msh> set ssdp {up|down}
```

```
msh> set nbt {up|down}
```

```
msh> set sftp {up|down}
```

```
msh> set sftp6 {up|down}
```

show

ネットワークインターフェースボードの設定状況の表示は、show コマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

msh> show

- ・-p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- ・SMB プロトコルでコンピュータ名、ワークグループ、コメントを日本語で入力したデータを正しく表示するためには、シフト JIS が表示できる環境で使用してください。

 参照

- ・P.123 「ネットワークインターフェースボードの情報」

slp

SLP の設定を表示、変更するには、slp コマンドを使用します

msh> slp ttl ttl_val

- ・NetWare 5/5.1 の PureIP 環境でご使用の場合、SLP を用いて NetWare サーバを検索します。slp コマンドを使うと、SLP マルチキャストパケットが使用する TTL 値（通過できるルーターの数 +1）を指定できます。
- ・工場出荷時の設定は 1 です。ローカルセグメント内のみで検索します。ただしこの TTL 値を増やした場合でもネットワーク環境で使用のルーター装置がマルチキャスト対応していないければ有効ではありません。
- ・設定できる SLP パケットの TTL 値は 1~255 です。

smb

コンピュータ名やワークグループ名など SMB 関連の項目の設定、削除は、smb コマンドを使用します。

◆ コンピュータ名の設定

msh> smb comp コンピュータ名

- ・「コンピュータ名」を英数半角 15 文字以下で設定します。
- ・RNP または rnp ではじまる名前は、大文字小文字が混ざった場合でも設定できません。

◆ ワークグループ名の設定

msh> smb group ワークグループ名

- ・「ワークグループ名」を英数半角 15 文字以下で設定します。

◆ コメントの設定

msh> smb comment コメント

- ・「コメント」を英数半角 31 文字以下で設定します。

◆ 印刷完了通知の設定

msh> smb notif {on | off}

- ・印刷完了通知をする場合は on、通知をしない場合は off を指定します。

◆ コンピュータ名の削除

```
msh> smb clear comp
```

◆ グループ名の削除

```
msh> smb clear group
```

◆ コメントの削除

```
msh> smb clear comment
```

◆ プロトコルの表示

```
msh> smb protocol
```

- NetBEUI、および TCP/IP プロトコルの有効／無効を指定します。有効にする場合は「up」、無効にする場合は「down」を指定します。

2

snmp

コミュニティ名など SNMP に関する表示、設定は、snmp コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> snmp
```

- 登録番号 1 の工場出荷時の設定は次のとおりです。

 コミュニティ名 : public

 IPv4 アドレス : 0.0.0.0

 IPv6 アドレス : ::

 IPX アドレス : 00000000:0000000000000000

 アクセスタイル : read-only

 有効プロトコル : IPv4/IPv6/IPX

- 登録番号 2 の工場出荷時の設定は次のとおりです。

 コミュニティ名 : Admin

 IPv4 アドレス : 0.0.0.0

 IPv6 アドレス : ::

 IPX アドレス : 00000000:0000000000000000

 アクセスタイル : read-write

 有効プロトコル : IPv4/IPv6/IPX

- p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。

- 登録番号を指定すると、その番号の現在のコミュニティ設定内容を表示します。

◆ SNMP 情報と使用可能なプロトコルの表示

```
msh> snmp ?
```

◆ コミュニティ名の設定

```
msh> snmp 登録番号 name コミュニティ名
```

- 設定できる登録番号は 1~10 です。

- 登録番号の 1~10 に public が存在しない場合、Network Monitor for Admin や Network Monitor for Client から機器を参照することはできません。コミュニティ名を変更した場合、Network Monitor for Admin とともにインストールされる「SNMP コミュニティ名設定ツール」で、機器側の設定に合わせてパソコンのコミュニティ名を変更してください。

- コミュニティ名は英数半角 15 文字以下で設定します。

◆ コミュニティ名の削除

```
msh> snmp 登録番号 clear name
```

◆ アクセスタイプの設定

```
msh> snmp 登録番号 type アクセスタイプ
```

アクセスタイプ	設定される内容
no	アクセスできません (not accessible)
read	情報の読み出しのみ可能 (read-only)
write	情報の読み出しと書き込みが可能 (read-write)
trap	エラー情報を通知 (trap)

◆ プロトコルの設定

```
msh> snmp {ipv4|ipv6|ipx} {on|off}
```

- ・使用可能なプロトコルを選択します。
- ・プロトコルを有効にするには on を、無効にするには off を指定します。
- ・すべてのプロトコルを同時に Off にすることはできません

◆ 登録番号ごとのプロトコルの設定

```
msh> snmp 登録番号 active {ipv4|ipv6|ipx} {on|off}
```

- ・登録番号ごとにプロトコルの設定を変更します。ただし、プロトコル設定で無効にしたプロトコルは、このコマンドで有効にしても使用できません。

◆ アクセス設定

```
msh> snmp 登録番号 {ipv4|ipv6|ipx} アドレス
```

- ・使用するプロトコルに応じたホストのアドレスを設定します。
- ・「アクセスタイプ」を「read-only」または「read-write」に設定したときは、IPv4、IPv6、IPX の場合、ここに入力したアドレスのホストからの要求だけを受け付けます。どのホストからの要求でも受け付けるようにするには、「0」を入力します。
- ・「アクセスタイプ」を「trap」に設定したときは、IPv4、IPv6、IPX の場合、情報を通知するホストのアドレスを入力します。
- ・IPv4 を使用するときはアドレスとして IPv4 アドレスを、IPv6 を使用するときは IPv6 アドレスを、IPX/SPX を使用するときは IPX アドレスを入力します。
- ・IPX アドレスはホストが接続されているネットワークの番号とホストに取り付けられているネットワークインターフェースボードの MAC アドレス（物理アドレス）をコロン（:）で区切って入力します。

◆ sysLocation の設定

```
msh> snmp location
```

◆ sysLocation の削除

```
msh> snmp clear location
```

◆ sysContact の設定

```
msh> snmp contact
```

◆ sysContact の削除

```
msh> snmp clear contact
```

◆ SNMP v1v2 機能の設定

msh> snmp v1v2 {on|off}

- ・有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

◆ SNMP v3 機能の設定

msh> snmp v3 {on|off}

- ・有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

2

◆ SNMP TRAP の設定

msh> snmp trap {v1|v2|v3} {on|off}

- ・有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

◆ リモート設定許可の設定

msh> snmp remote {on|off}

- ・SNMP v1, v2 での設定を有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

◆ SNMP v3 TRAP の設定値の表示

msh> snmp v3trap

msh> snmp v3trap {1-5}

- ・1～5までの数字を設定すると、その番号の設定値のみ表示します。

◆ SNMP v3 TRAP 送信先アドレスの設定

msh> snmp v3trap {1-5} {ipv4|ipv6|ipx} アドレス

◆ SNMP v3 TRAP 送信プロトコルの設定

msh> snmp v3trap {1-5} active {ipv4|ipv6|ipx} {on|off}

◆ SNMP v3 TRAP ユーザーアカウントの設定

msh> snmp v3trap {1-5} account アカウント名

- ・アカウント名は英数半角 32 文字以下で設定します。

◆ SNMP v3 TRAP ユーザーアカウントの削除

msh> snmp v3trap {1-5} clear account

◆ SNMP v3 暗号アルゴリズムの設定

msh> snmp v3auth {md5|sha1}

◆ SNMP v3 暗号化の設定

msh> snmp v3priv {auto|on}

- ・auto を設定すると、暗号化可能な場合に暗号化されます。

- ・on を設定すると、平文通信は不可能となり、暗号化可能な場合のみ通信ができます。

補足

- ・本機に暗号パスワードが設定されている場合、暗号化が可能です。

sntp

SNTP の表示、設定は、sntp コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> sntp
```

◆ NTP サーバーアドレスの設定

```
msh> sntp server アドレス
```

◆ インターバルの設定

```
msh> sntp interval インターバル値
```

- ・設定した NTP サーバーと同期を取る間隔を指定します。工場出荷時の設定値は 60(分) です。
- ・設定できる値は 0、15~10080 (分) です。
- ・0 を設定した場合には、本機の電源を入れたときに一度だけ NTP サーバーと同期を取ります。そのあとは同期を取りません。

◆ タイムゾーンの設定

```
msh> sntp timezone +/- 時間
```

- ・NTP サーバーから取得した時刻情報との時間差を設定します。設定値は -12:00~+13:00 です。

spoolsw

スプール印刷の表示、設定は、spoolsw コマンドを使用します。スプール印刷設定は dprint、lpr、ipp、SMB (TCP/IP(IPv4))、ftp、および sftp プロトコルに対応しています。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> spoolsw
```

◆ スプール印刷機能の設定

```
msh> spoolsw spool {on|off}
```

- ・スプール印刷機能を有効にするには on を、無効にするには off を指定します。

◆ ジョブの初期化の設定

```
msh> spoolsw clearjob {on|off}
```

- ・本機の電源がスプールされたジョブの印刷中に切られた場合、本機の電源再投入時に、それまでスプールしていたジョブを印刷しなおすかどうか指定します。

◆ プロトコルの設定

```
msh> spoolsw dprint {on|off}
```

```
msh> spoolsw lpr {on|off}
```

```
msh> spoolsw ipp {on|off}
```

```
msh> spoolsw smb {on|off}
```

```
msh> spoolsw ftp {on|off}
```

```
msh> spoolsw sftp {on|off}
```

- ・プロトコルごとにスプール印刷機能の有効、無効を設定します。

 **補足**

- ・スプール印刷設定の spoolsw コマンドは、本機にハードディスクが装着されている場合に有効になります。
- ・sftp は DESS モジュールが装着されている場合のみ表示と設定変更が可能です。

2

ssdp

SSDP 関連パラメータの表示、設定は、ssdp コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

msh> ssdp

◆ 有効時間の設定

msh> ssdp profile {1801-86400}

- ・工場出荷時の設定値は 10800 (秒) です。

◆ Advertise パケットの TTL の設定

msh> ssdp ttl {1-255}

- ・工場出荷時の設定値は 4 です。

ssh

SSH および SFTP 関連パラメータの表示と設定は、ssh コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の一覧表示

msh> ssh

◆ データ圧縮通信の設定

msh> ssh compression {on|off}

- ・工場出荷時の設定値は on です。

◆ ssh / sftp で通信するポートの設定

msh> ssh port {22, 1024-65535}

- ・工場出荷時の設定値は 22 です。

◆ ssh / sftp で通信する際のタイムアウト確認(生存確認)の時間設定

msh> ssh timeout {0-65535}

- ・工場出荷時の設定値は 300 です。

◆ ssh / sftp で通信する際のログインタイムアウトの時間設定

msh> ssh logintimeout {0-65535}

- ・工場出荷時の設定値は 300 です。

◆ ssh / sftp で通信する際の公開鍵、公開鍵鍵長 (Keylength) の作成

msh> ssh genkey {512|768|1024} 複雑化文字列

- ・工場出荷時の設定値は公開鍵鍵長 (Keylength) が 1024、複雑化文字列 (Salt) は NULL (無) です。

◆ ssh / sftp で通信する際の公開鍵の削除

msh> ssh delkey

↓ 補足

- ・設定値を省略した場合は、現在の設定を表示します。

status

本機の状態 (ステータス) と印刷ジョブの情報 (プリントジョブ情報) の表示は、status コマンドを使用します。

◆ 表示

msh> status

↓ 参照

- ・P.115 「ネットワーク経由で確認できる情報」

syslog

本機のシステムログ情報として記録されたメッセージの表示は、syslog コマンドを使用します。

◆ メッセージの表示

msh> syslog

↓ 参照

- ・P.129 「システムログ情報」

upnp

ユニバーサル プラグ アンド プレイに関する表示、設定は、upnp コマンドを使用します。

◆ 公開 URL の表示

msh> upnp

◆ 公開 URL の設定

msh> upnp url 文字列

- ・「文字列」には URL 文字列を入力します。

web

Web Image Monitor 関連の表示、設定は、web コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> web
```

◆ リンク先として登録する URL の設定

```
msh> web x url http:// リンク先の URL または IP アドレス /
```

・x は対象 ID の 1~2 を指定します。2 件まで登録できます。

◆ リンク先として登録されている URL を削除する

```
msh> web x clear url
```

・x は対象 ID の 1~2 を指定します。

◆ リンク先として登録する URL のリンク名の設定

```
msh> web x name リンク名
```

・x は対象番号の 1~2 を指定します。

◆ リンク先として登録されている URL のリンク名を削除する

```
msh> web x clear name
```

・x は対象 ID の 1~2 を指定します。

◆ ヘルプの参照先 URL の設定

```
msh> web help http:// ヘルプの URL または IP アドレス
```

◆ ヘルプの参照先 URL を削除する

```
msh> web clear help
```

wiconfig

無線 LAN の表示、設定は、wiconfig コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> wiconfig
```

◆ 無線 LAN カードの情報の表示

```
msh> wiconfig cardinfo
```

- ・無線 LAN インターフェースが有効になっていない場合、拡張無線 LAN カードの情報は表示できません。

◆ 設定

```
msh> wiconfig パラメーター
```

パラメーター	設定される項目
mode {ap adhoc 802.11adhoc}	インフラストラクチャーモード (ap)、802.11 アドホックモード (802.11 adhoc) またはアドホックモード (adhoc) の設定ができます。デフォルトは 802.11 アドホックモードです。
ssid 文字列	インフラストラクチャーモード時の SSID を設定できます。SSID で使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20～0x7e) で 32 バイトまでです。大文字と小文字も区別されます。空白の場合には自動で近くのアクセスポイントに接続します。802.11 アドホックモード時には、インフラストラクチャーモード時と同じ値か、空白の場合「ASSID」という値が自動的に設定されます。デフォルトは空白です。
channel frequency チャンネル番号	チャンネルを設定できます。1-14 の間で設定できます。使用する機器間で同じチャンネルを使用してください。デフォルトは「11」です。
key 文字列 val {1 2 3 4}	WEPキーを16進数で入力する場合に指定します。64-bit WEP を使用する場合は、16 進数 10 衔の文字列が使用できます。128-bit WEP を使用する場合には、16 進数 26 衔の文字列が使用できます。WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録する番号を指定します。 key で WEP キーを指定すると、keyphrase で指定した WEP キーは上書きされます。この機能を使用する場合、互いに通信を行う端末すべてに同じ key 番号と WEP キーを設定してください。なお、入力する WEP キーの先頭に 0x をつけます。val 以降の指定は省略可能です。省略した場合、key 番号は 1 になります。デフォルトは空白です。

パラメーター	設定される項目
keyphrase 文字列 val {1 2 3 4}	WEP キーを ASCII 入力する場合に指定します。 64-bit WEP を使用する場合は、英数字 5 バイト、 128-bit WEP を使用する場合には、英数字 13 バ イトの文字列が使用できます。 WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録 する番号を指定します。 keyphrase で WEP キーを指定すると、key で指 定した WEP キーは上書きされます。この機能 を使用する場合、互いに通信を行う端末すべ てに同じ key 番号と WEP キーを設定してくだ さい。val 以降の指定は省略可能です。省略した 場合、key 番号は 1 になります。デフォルトは 空白です。
encval {1 2 3 4}	4つのWEP キーのどれを使用してパケットを暗 号化するかを指定します。 番号を指定しない場合は「1」が設定されます。
wepauth {open shared}	WEP 使用時の認証モードを設定できます。指定 値と認証モードは次のとおりです。 open : オープンシステム認証（デフォルト） shared : シェアードキー認証
rate {auto 11m 5.5m 2m 1m}	無線 LAN における通信速度を設定できます。 ここで設定する通信速度は送信時の速度です ので、受信時はすべての速度を受信できます。 設定値と通信速度は次のとおりです。 auto: 自動設定（デフォルト） 11m:11Mbps 固定 5.5m:5.5Mbps 固定 2m:2Mbps 固定 1m:1Mbps 固定
security {none wep wpa}	セキュリティ方式を設定できます。 設定値と認証方式は次のとおりです。 none: 暗号化なし（デフォルト） wep:WEP 暗号化方式 wpa:WPA 暗号化方式
wpaenc {tkip ccmp}	WPA 使用時の WPA 暗号を選択できます。 設定値は次のとおりです。 tkip:TKIP ccmp:CCMP(AES)（デフォルト）

パラメーター	設定される項目
wpaauth {wpapsk wpa wpa2psk wpa2}	WPA 使用時の認証モードを設定できます。 設定値は次のとおりです。 wpapsk : WPA-PSK 認証（デフォルト） wpa : WPA 認証 wpa2psk : WPA2-PSK 認証 wpa2 : WPA2 認証
psk 文字列	Pre-Shared key を設定できます。 Pre-Shared key での入力できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 8 バイトから 63 バイトまでです。デフォルトは空白です。
eap {tls ttls leap peap} {chap mschap mschapv2 pap md5 tls}	EAP 認証タイプを設定できます。 tls : EAP-TLS (デフォルト) ttls : EAP-TTLS leap : LEAP peap : PEAP chap、mschap、mschapv2、pap、md5、tls はフェイズ 2 メソッドの設定となっており、EAP-TTLS、PEAP を選択する時に同時に指定する必要があります。また、その他の EAP 認証タイプでは省略する必要があります。「EAP-TTLS」を選択した場合は、chap、mschap、mschapv2、pap、および md5 が指定できます。「PEAP」を選択した場合は、mschapv2、および tls が指定できます。
username 文字列	Radius サーバへのログインユーザ名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と "@" 以外の表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 31 バイトまでです。デフォルトは空白となります。
username2 文字列	EAP-TTLS/PEAP のフェイズ 2 認証で使用するフェイズ 2 ユーザ名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と "@" 以外の表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 31 バイトまでです。デフォルトは空白です。
domain 文字列	Radius サーバへのログインドメインを設定できます。 使用できる文字は半角英数字と "@" 以外の表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 31 バイトまでです。デフォルトは空白です。

パラメーター	設定される項目
password 文字列	Radius サーバへのログインパスワードを設定できます。 文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20～0x7e) で 128 バイトまでです。デフォルトは空白です。
srvcert {on off}	サーバ証明書の認証を設定します。 デフォルトは「off」です。
imca {on off}	サーバ認証時に中間認証局を介在した場合の証明書の許可の設定ができます。 デフォルトは「off」です。
srvid 文字列	認証サーバをサーバ ID 及びサブドメインで設定できます。 文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20～0x7e) で 128 バイトまでです。デフォルトは空白です。
subdomain {on off}	認証サーバ ID をドメインで指定した場合、ドメインコントロールフィールド (DC) が一致したサーバ証明書を受け入れるかどうか設定できます。 デフォルトは「off」です。

wins

WINS サーバーの設定は、wins コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

`msh> wins`

- DHCP から取得した IPv4 アドレスと WINS の IPv4 アドレスが異なった場合、DHCP から取得した IPv4 アドレスが有効です。

◆ WINS 機能の設定

`msh> wins インターフェース [on|off]`

- WINS 機能を有効するには on を、無効にするときは off を指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

◆ WINS サーバーのアドレス設定

`msh> wins インターフェース名 [primary|secondary] IPv4 アドレス`

- primary でプライマリ WINS サーバのアドレスを設定できます。
- secondary でセカンダリ WINS サーバのアドレスを設定できます。
- IP アドレスに、255.255.255.255 は指定できません。

◆ NBT (NetBIOS over TCP/IP) スコープ ID の設定

`msh> wins インターフェース scope スコープ ID`

- スコープ ID は半角英数字 31 文字以内で指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

SNMP

SNMP を使って本機の情報を取得する方法の説明です。

本機内蔵のイーサネットインターフェース、およびオプションの無線 LAN インターフェースでは UDP と IPX 上で動作する SNMP (Simple Network Management Protocol) エージェントが組み込まれています。

2

また、本機はユーザー認証、データの暗号化、アクセス制御のセキュリティ面が強化されている SNMPv3 にも対応しています。

SNMPv3 の暗号化通信を使用するためには、本機に暗号パスワードが設定されていることが必要です。

★ 重要

- ・本機のコミュニティ名を工場出荷時から変更した場合、SNMP コミュニティ名設定ツールを使用して接続するパソコンの設定を変更してください。詳しくは SNMP コミュニティ名設定ツールのヘルプを参照してください。

工場出荷時のコミュニティ名には「public」と「admin」が設定されています。このコミュニティ名で MIB 情報を取得することができます。

◆ SNMP コミュニティ名設定ツールの起動

- ・Windows 95/98/Me, Windows 2000, Windows NT 4.0 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし [プログラム] から [Network Monitor for Admin] をポイントして [SNMP コミュニティ名設定ツール] を起動します。
- ・Windows XP/Vista, Windows Server 2000 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし [すべてのプログラム] から [Network Monitor for Admin] をポイントして [SNMP コミュニティ名設定ツール] を起動します。

◆ サポートしている MIB (SNMPv1/v2)

- ・MIB-II
- ・PrinterMIB
- ・HostResourceMIB

◆ サポートしている MIB (SNMPv3)

- ・MIB-II
- ・PrinterMIB
- ・HostResourceMIB
- ・SNMP-FRAMEWORK-MIB
- ・SNMP-TARGET-MIB
- ・SNMP-NOTIFICATION-MIB
- ・SNMP-USER-BASED-SM-MIB
- ・SNMP-VIEW-BASED-ACM-MIB

ネットワーク経由で確認できる情報

機器の状態や情報を表示したときの各項目の詳細です。

機器の状態

機器のステータスの確認方法と、表示される項目の説明です。お使いの機種によっては、表示されないステータスがあります。

- UNIX の場合
lpq コマンド、rsh、rcp、ftp、sftp の stat パラメータを使います。
- mshell の場合
status コマンドを使います。

Access Restricted

利用権限が無いのでジョブがキャンセルされました。

Adjusting...

初期設定またはカラー調整中です。

Call Service Center

エンジン部、またはコントローラー部に異常が発生しました。

Canceled

ジョブリセットされました。

Cancelling Job...

ジョブリセット中です。

Cannot Eject Original Through

原稿が後ろ排紙口に排紙できません。

Configuring...

設定変更中です。

Cooling Down Fusing Unit...

定着ユニットが冷却中です。

Data Size Error

データサイズエラーが発生しました。

Empty: Black Toner

ブラックトナーがなくなりました。

Energy Saver Mode

省エネモード中です。

Error

エラーが発生しました。

Error: Address Book

アドレス帳のデータに異常があります。

Error: Command Transmission

プリンター内部にエラーが発生しました。

Error: DIMM Value

メモリーエラーが発生しました。

Error: Ethernet Board

イーサーネットボードに異常が発生しました。

2

Error: HDD Board

ハードディスクエラーが発生しました。

Error: Memory Switch

メモリースイッチエラーが発生しました。

Error: Optional Font

プリンターのフォントファイルにエラーが発生しました。

Error: Parallel I/F Board

パラレルインターフェースにエラーが発生しました。

Error: PDL

ページ記述言語にエラーが発生しました。

Error: Rem. Certificate Renewal

証明書の自動更新にエラーが発生しています。

Error: USB Interface

USBインターフェースにエラーが発生しました。

Error: Wireless Board

無線ボードにエラーが発生しています。

Error: Wireless Card

起動時に拡張無線 LAN カードがありませんでした。拡張無線 LAN カードが起動後に抜かれました。

Full: Waste Toner

廃トナーが満杯です。

Hex Dump Mode

ヘキサダンプモード中です。

In Use: Copier

コピー使用中です。

In Use: Input Tray

他の機能が給紙トレイを使用しています。

Loading Toner...

トナー補給中です。

Low: Black Toner

ブラックトナーが残り少なくなりました。

Malfunction: Output Tray

排紙トレイに異常が発生しました

Memory Low: Copy

コピー動作中にメモリー不足が発生しました。

Memory Low: Data Storage

文書蓄積中にメモリー不足が発生しました。

Memory Low: Scanning

スキャナー動作中にメモリー不足が発生しました。

Miscellaneous Error

エラーが発生しました。

Mismatch: Paper Size

選択された給紙トレイのサイズが、指定されたものと異なります。

Mismatch: Paper Size and Type

選択された給紙トレイの用紙種類とサイズが、指定されたものと異なります。

Mismatch: Paper Type

選択された給紙トレイの用紙種類が、指定されたものと異なります。

Near Replacing: Black PCU

ブラック感光体の交換が間近になりました。

Near Replacing: Develop. Unit K

現像ユニット（ブラック）の交換が間近になりました。

Near Replacing: Fusing Unit

定着ユニットの交換が間近になりました。

Nearly Full: Waste Toner

廃トナーがもうすぐ満杯です。

No Paper: Selected Tray

指定されたトレイに用紙がありません。

Not Detected: Black Toner

ブラックトナーが正しくセットされていません。

Not Detected: Develop. Unit (K)

現像ユニット（ブラック）が正しくセットされていません。

Not Detected: Finisher

フィニッシャーが正しくセットされていません。

Not Detected: Fusing Unit

定着ユニットが正しくセットされていません。

Not Detected: Input Tray

給紙トレイが正しくセットされていません。

Not Detected: PCU (K)

感光体ユニット（ブラック）が正しくセットされていません。

Not Detected: WasteToner Bottle

廃トナーボトルが正しくセットされていません。

Offline

オフライン状態です。

Operating Thermo-range Error

使用可能温度の範囲外で動作しています。

Panel Off Mode

予熱モード状態です。

2

Panel Off Mode>>Printing ava.

操作パネルオフモード状態です。

Paper in Finisher

フィニッシャーに用紙が残っています。

Print Complete

印刷が完了しました。

Printing...

印刷中またはデータ受信中です。

Processing

データ処理中です。

Proxy Address/Port Incorrect

プロキシアドレス・ポート番号の設定が正しく設定されていません。

Proxy User/Password Incorrect

プロキシユーザ名・パスワードが正しく設定されていません。

Ready

正常です。

Renewing Remote Certificate

Remote 証明書を更新中です。

Replace Black PCU

ブラック感光体の交換時期です。

Replace Cleaning Web

クリーニングフェルトは残りわずかです。

Replace Develop. Unit

現像ユニットの交換時期です。

Replace Fusing Unit

定着ユニットの交換時期です。

Replace PCU

感光体の交換時期です。

Retarding...

乾燥のため停止中です。

SD Card Authentication failed

SD カードからの認証に失敗しました。

Skipped due to Error

エラースキップをしました。

Storage Complete

蓄積完了しました。

Storage Failed

蓄積に失敗しました。

Supplies Order Call failed

消耗品発注コールに失敗しました。

Waiting for Job Suspension

一時停止待ちです。

Warming Up...

準備中です。

↓ 補足

- ・エラーの内容は、システム設定リストや印刷条件一覧に印刷される場合があります。あわせてご確認ください。印刷方法については、『プリンター機能編』「印刷条件リストを印刷する」を参照してください。

参考

- ・P.165 「本機の状態表示」
- ・『プリンター機能編』「印刷条件リストを印刷する」

機器情報

機器の給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション、および登録しているプログラムの情報の確認方法と、項目の説明です。

- UNIX の場合
rsh、rcp、ftp、sftp の info パラメータを使います。
- mshell の場合
info コマンドを使います。

2

Input Tray

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装着されている給紙トレイ番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装着されている給紙トレイ名称が表示されます。
PageSize	ご使用の機器に装着されている給紙トレイに設定されている用紙サイズが表示されます。
Status	給紙トレイの状態が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Normal : 正常 • NoInputTray : トレイなし • PaperEnd : 用紙なし

Output Tray

項目	内容
No.	ご使用の機器に装着されている排紙トレイ番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装着されている排紙トレイ名称が表示されます。
Status	排紙トレイの状態が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Normal : 正常 • PaperExist : 用紙あり • OverFlow : 用紙が満杯 • Error : その他エラー

Emulation

項目	内容
No.	ご使用の機器に装備されているエミュレーション番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装備されているエミュレーション名が表示されます。
Version	ご使用の機器に装備されている、各エミュレーションのバージョンが表示されます。

参照

- P.159 「オプション指定」

取得情報の内容

ネットワークインターフェースボードから取得するできる情報の詳細です。

プリントジョブ情報

印刷待ちジョブの情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

2

- UNIX の場合
lpq コマンド、rsh、rcp、ftp、および sftp の stat パラメーターを使います。
- mshell の場合
status コマンドを使います。

項目名	意味
Rank	印刷ジョブの状態が表示されます。 • Active 印刷中、または印刷処理待ち状態 • 1st、2nd、3rd、4th... プリンターへのファイル転送待ち状態
Owner	印刷要求元のログインユーザー名が表示されます。
Job	印刷要求番号が表示されます。
Files	ファイル名が表示されます。
Total Size	印刷ジョブのデータサイズが表示されます。 ^{*1}

*1 複数のファイルを 1 ジョブとして投入した場合は、先頭ファイルのサイズが表示されます。

 参照

- P.159 「オプション指定」

プリントログ情報

これまでに印刷したジョブの記録の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合
rsh、rcp、ftp、および sftp の prnlog パラメーターを使います。
- mshell の場合
prnlog コマンドを使います。

2

項目名	意味
ID	印刷要求番号が表示されます。
User	印刷要求元のユーザー名、ワークステーション名、またはアドレスが表示されます。
Page	印刷したページ数が表示されます。
Result	<p>通信結果が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Finished 通信上、印刷要求は正常に終了しました。ただしプリンター側の問題で印刷が正常に終了していない場合があります。 • Failed 印刷が正常に終了しませんでした。 • Canceled rcp、rsh、lpr コマンドの印刷要求が中止されました。印刷アプリケーションにより発生する場合があります。ftp、rprinter では発生しません。
Time	印刷要求受け付け時間が表示されます。

参照

- P.159 「オプション指定」

ネットワークインターフェースボードの情報

ネットワークインターフェースボードの設定内容の確認方法と、表示される項目の説明です。お使いの機種によっては、表示されない項目があります。

- mshell の場合

show コマンドを使います。

項目名	意味
Common Mode Protocol Up/Down AppleTalk IPv4 IPv6 NetWare SMB Device Up/Down Parallel USB Ethernet interface Syslog priority NVRAM version Device name Comment Location Contact Soft switch	プロトコル利用設定 デバイス利用設定
AppleTalk Mode Net Object Type Zone	AppleTalk 関連設定

項目名	意味
TCP/IP	TCP/IP のポートアドレスなどの設定
Mode(IPv4)	
Mode(IPv6)	
ftp	
lpr	
rsh	
telnet	
diprint	
web	
http	
ftpc	
snmp	
ipp	
autonet	
bonjour	
ssl	
nrs	
rfu	
nbt	
ssdp	
ssh	
sftp	
IPv4	
DHCP	
Address	
Netmask	
Broadcast	
Gateway	
IPv6	
Stateless	
Manual	
Gateway	

項目名	意味
EncapType	
Host name	
DNS Domain	
Access Control	アクセス制限設定
IPv4	
AccessEntry [X]	X は 1~5 まで設定できます。
IPv6	
AccessEntry [X]	X は 1~5 まで設定できます。
Time server	時刻関連設定
Time Zone	
Time server polling time	
SYSLOG server	
Home page URL1	WebSys 関連の設定
Home page link name1	
Home page URL2	
Home page link name2	
Help page URL	
NetWare	Netware 設定
EncapType	
RPRINTER number	
Print server name	
File server name	
Context name	
Switch	
Mode	
NDS/Bindery	
Packet negotiation	
Login Mode	
Print job timeout	
Protocol	
SAP interval time	
NDS Tree Name	
Transfer Protocol	

項目名	意味
SMB Switch Mode Direct print Notification Workgroup name Computer name Comment Share name[1] Protocol	SMB 動作／設定
IEEE 802.11b Host Name Communication Mode SSID Channel range Channel Tx Rate Security WEP Authentication WEP Encryption key number WEP encryption WEP Encryption keys [X] WPA Encryption WPA Authentication Pre-Shared Key User name Domain name EAP Type Password Phase 2 user name Phase 2 Method TTLS Phase 2 Method PEAP Server cert. Intermediate CA Server ID	IEEE 802.11b インターフェース動作／設定 X は 1～5 まで設定できます。

項目名	意味
DNS IPv4 Server[X] Selected IPv4 DNS Server IPv6 Server[X]	DNS 動作／設定 X は 1～3 まで設定できます。 X は 1～3 まで設定できます。
Domain Name ether wlan	
DDNS ether wlan	
WINS ether Primary WINS Secondary WINS wlan Primary WINS Secondary WINS	WINS 動作／設定
SSDP UUID Profile TTL	SSDP 動作／設定
UPnP URL	UPnP 動作／設定
Bonjour Computer Name(cname) Local Hostname (ether) Local Hostname (wlan) Location Priority (diprint) Priority (lpr) Priority (ipp) IP TTL	Bonjour (Rendezvous) 動作／設定

項目名	意味
LinkLocal Route for Multi I/F IPP Port	
SNMP SNMPv1v2 SNMPv3 protocol v1Trap v2Trap v3Trap SNMPv1v2 Remote Setting SNMPv3 Privacy	SNMP 動作／設定
ssh Compression Port TimeOut LoginTimeOut	ssh 動作／設定
AuthFree IPv4 AuthFreeEntry[X] IPv6 AuthFreeEntry[X] Parallel USB	認証除外動作／設定 X は 1～5 まで設定できます。 X は 1～5 まで設定できます。
LPR lprm check host lpr prnerrchk	
Certificate Verification	
Shell mode	リモートメンテナントツールのモード

メッセージ一覧

プリンターのシステムログ情報として記録されるメッセージと、ユーティリティやコマンドの使用時に表示されるメッセージの一覧です。

システムログ情報

2

システムログ情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合
 - rsh、rcp、ftp、sftp の syslog パラメーターを使います。
- mshell の場合
 - syslog コマンドを使います。

Access to NetWare server <ファイルサーバ名> denied. Either there is no account for this print server on the NetWare server or the password was incorrect.

(プリントサーバ動作時) ファイルサーバにログインできません。ファイルサーバ上にプリントサーバが登録されているか確認してください。プリントサーバにパスワードを設定している場合はパスワードを削除してください。

account is unavailable: same account name be used.

一般ユーザーアカウント名と管理者アカウント名が重複しているため、一般ユーザーアカウント名が無効になりました。どちらかのアカウント名を別のものにしてください

account is unavailable: The authentication password is not set up.

認証パスワードが設定されてなく、暗号パスワードのみ設定されているため、アカウントが無効になりました。暗号パスワードを削除するか、認証パスワードを入力してください。

account is unavailable: encryption is impossible.

暗号化できないため、アカウントが無効になりました。

add_sess_IPv4:bad trap addr:<IPv4 アドレス>, community:<コミュニティ名>

コミュニティのアクセスタイプが Trap の場合、IPv4 のアドレス 0.0.0.0 は無効です。Trap 送信先ホストの IPv4 アドレスを指定して下さい。

add_sess_IPv6:bad trap addr:<IPv6 アドレス>, community:<コミュニティ名>

コミュニティのアクセスタイプが Trap の場合、IPv6 のアドレス [::] は無効です。Trap 送信先ホストの IPv6 アドレスを指定して下さい。

add_sess_IPv4: community <コミュニティ名> already defined.

コミュニティ名が重複しています。他のコミュニティ名と重複しない名前を設定して下さい。

add_sess_IPv6: community <コミュニティ名> already defined.

コミュニティ名が重複しています。他のコミュニティ名と重複しない名前を設定して下さい。

add_sess_IPX: bad trap addr: <IPX アドレス >, community:< コミュニティ名 >
コミュニティのアクセスタイプが Trap の場合、IPX アドレス 00:00:00:00:00:00 は無効です。Trap 送信先ホストの IPX アドレスを指定して下さい。

add_sess_IPX: community < コミュニティ名 > already defined.
コミュニティ名が重複しています。他のコミュニティ名と重複しないコミュニティ名を設定して下さい。

2

Attach FileServer=< ファイルサーバ名 >

ニアレストサーバとしてファイルサーバに接続しました。

Attach to print queue < プリントキュー名 >

プリントサーバ動作時にプリントキューに接続しました。

authentication mode mismatch < SSID >

AP との認証モードが違います。SSID はインフラストラクチャモード時に接続したアクセスポイントの SSID となります。

btd is disabled.

セキュリティモード設定で btd が無効です。セキュリティモード設定の btd を使用可にしてください。

centrod is disabled.

セキュリティモード設定で centrod (パラレル) が無効です。セキュリティモード設定の centrod (パラレル) を使用可にしてください。

client password rejected

パスワードが拒否されました。パスワードを確認してください。

client tls certificate rejected

TLS において、証明書が拒否されました。証明書を確認してください。

Cannot create service connection

(リモートプリンタ起動時) ファイルサーバとコネクションを確立できません。ファイルサーバのユーザ制限を越えている場合があります。

Cannot find rprinter (< プリントサーバ名 >/< プリンタ番号 >)

(リモートプリンタ起動時) プリントサーバ上にプリンタ番号のプリンターがありません。プリントサーバに登録されているプリンターのプリンタ番号を確認してください。

Change IP address from DHCP Server.

DHCP サーバからの IPv4 アドレスのリース更新時に、本機が使用していた IPv4 アドレスが変更されました。DHCPD を終了します。毎回同じ IPv4 アドレスが割り当てられるように、DHCP サーバを設定してください。

child process exec error! (プロセス名)

ネットワーク関連の起動に失敗しました。電源再投入しても回復しない場合は、サービス実施店に連絡してください。

Connected DHCP Server (<DHCP サーバアドレス >).

DHCP サーバからの IPv4 アドレス取得に成功しました。

Could not attach to FileServer < エラー番号 >

(リモートプリンタ起動時) ファイルサーバに接続できません。ファイルサーバの設定を確認してください。

Could not attach to PServer < プリントサーバ名 >

(リモートプリンタ起動時) プリントサーバに接続できません。プリントサーバの設定を確認してください。

Current Interface Speed : < EthernetI/F 速度 >

現在の Ethernet I/F の速度です。(10Mbps、100Mbps、または 1Gbps)。

Current IP address <IP アドレス >.

現在の IPv4 アドレスです。

Current IPX address <IPX アドレス >

現在の IPX アドレスです。

DHCP lease time expired.

DHCP リース切れになりました。DHCP Discover を再び行います。なお、使用していた IPv4 アドレスが使用できなくなります。

DHCP server not found.

DHCP サーバが見つかりませんでした。ネットワーク上に DHCP サーバが起動していることを確認してください。

dhpcd start.

dhpcd (DHCP クライアントサーバ) を起動しました。

Duplicate IP=< IP アドレス > (from < MAC アドレス >).

本機に設定された IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスが重複しています。IP アドレスはそれぞれ固有でなければなりません。表示された MAC アドレスの機器をチェックしてください。

Established SPX Connection with PServer, (RPSocket=< ソケット番号 >, connID=< コネクション ID >)

(リモートプリンタ起動時) プリントサーバと接続しました。

exiting

lpd のサービスを終了しています。

Exit pserver

(プリントサーバ動作時) 必要な設定がされていないため、プリントサーバを終了しました。

Frametype=< フレームタイプ名 >

NetWare で使用するフレームタイプ名を設定しました。

httpd start.

httpd が起動しました。

IEEE 802.11b < 通信モード > mode

IEEE 802.11b の通信モードを表示します。

inetd start.

inetd を開始します。

Interface(インターフェース名) : Duplicate IP Address(< IP アドレス >).

本体に指定された IP アドレス (IPv4、または IPv6 アドレス) が重複して使用されています。IP アドレスはそれぞれ固有のものでなければなりません。表示された IP アドレスの機器をチェックしてください。

< Interface > started with IP: < IP アドレス >

インターフェースに IP アドレス (IPv4 アドレス、または IPv6 アドレス) が設定されて、動作を開始しました。

2

< Interface >: Subnet overlap.

< Interface > に設定しようとした IPv4 アドレスと Netmask から導かれる Subnet 範囲が、ほかのインターフェースの Subnet 範囲と重なっています。各インターフェースの Subnet 範囲が重ならないように設定してください。

IPP cancel-job: permission denied.

ジョブのキャンセル時にユーザ名による認証に失敗しました。

IPP job canceled. jobid=%d.

エラーあるいはユーザ要求により、スプールされたジョブがキャンセルされました。

LeaseTime=< リース時間 >(sec), RenewTime=< 更新間隔 >(sec).

DHCP サーバから取得した IPv4 アドレスのリース時間は < リース時間 > 秒、更新時間は < 更新間隔 > 秒で表示されます。

Login to fileserver < ファイルサーバ名 > (< IPX|IPv4|IPv6>,< NDS|BINDERY>)

(プリントサーバ動作時) ファイルサーバに NDS または BINDERY モードでログインしました。使用しているトранSPORTプロトコルも表示されます。

Memory allocate error.

メモリ取得に失敗しました。ケーブルの抜き差しを行ってください。

Name registration success. WINS Server = < WINS サーバアドレス > NetBIOS Name = < NetBIOS 名 >

WINS サーバアドレスへの NetBIOS 名の登録が成功しました。

Name registration success in Broadcast name= < NetBIOS 名 >

ブロードキャストによる NetBIOS 名の登録が成功しました。

Name registration failed. name= < NetBIOS 名 >

NetBIOS 名の登録に失敗しました。NetBIOS 名を別の名前に変更してください。

nbtd start.

nbtd(NetBIOS over TCP/IP Daemon) を起動しました。

nprinter start. (NetWare)

(リモートプリンタ動作時) NetWare サービスをリモートプリンタモードで起動しました。

nwstart start. (NetWare)

NetWare プロトコルスタック設定サーバが起動しました。

Open log file < ファイル名 >

(プリントサーバ動作時) 監視ログファイルを開きました。

phy release file open failed.

ネットワークボードに異常が発生している可能性があります。

Print queue < プリントキュー名 > cannot be serviced by printer 0, < プリントサーバ名 >

(プリントサーバ動作時) プリントキューを確認できません。プリントキューのボリュームが設定したファイルサーバ上に存在するか確認してください。

Print server < プリントサーバ名 > has no printer

(プリントサーバ動作時) プリントサーバにプリンタが割り当てられていません。NetWare アドミニストレータで割り当て後、プリンタを再起動してください。

print session full

印刷要求が最大セッション数に達しています。しばらくしてから再接続してください。

Printer < プリンタ名 > has no queue

(プリントサーバ動作時) プリンタにプリントキューが割り当てられていません。NetWare アドミニストレータで割り当て後、プリンタを再起動してください。

pserver start. (NetWare)

(プリントサーバ動作時) NetWare サービスをプリントサーバモードで起動しました。

received EAP Failure

EAP 受信に失敗しました。

Required file server (< ファイルサーバ名 >) not found

設定されたファイルサーバが見つかりませんでした。

restarted.

lpd のサービスを開始しました。

sap enable, saptype=< SAP タイプ >, sapname=< SAP 名 >

SAP 機能が起動しました。SAP (SAP タイプ、SAP 名) パケットを発行し、NetWare サーバ上の SAP テーブルにサービスの存在を登録します。

server identity invalid

サーバ ID が無効です。サーバ認証設定を確認してください。

session_IPv4 < コミュニティ名 > not defined.

認証不可のコミュニティ名で、設定要求を受けました。

session_IPv6 < コミュニティ名 > not defined.

認証不可のコミュニティ名で、設定要求を受けました。

session_IPX < コミュニティ名 > not defined.

認証不可のコミュニティ名で、設定要求を受けました。

Set context to < NDS コンテキスト名 >

NDS コンテキストを設定しました。

smbd start. (NetBIOS)

smbd (Server Message Block Daemon) が起動しました。

SMTPC: failed to get smtp server ip-address.

SMTP サーバーの IP アドレスを取得できません。DNS サーバーを探せないか、DNS サーバに指定した SMTP サーバの IP アドレスがありません。DNS サーバーの IP アドレスを確認してください。または SMTP サーバの IP アドレスを確認してください。

SMTPC: failed to connect smtp server. timeout.

2

応答待ちでタイムアウトしたため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバー名が間違っている、ネットワークに接続されていない、またはネットワークの設定が間違っています。SMTP サーバーからの応答を取得できません。SMTP サーバ名を確認してください。またはネットワークの接続と設定を確認してください。

SMTPC: refused connect by smtp server.

SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバ名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバの SMTP ポート番号を確認してください。

SMTPC: no smtp server. connection close.

SMTP プロトコルの応答が返ってこないため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバ名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバの SMTP ポート番号を確認してください。

SMTPC: failed to connect smtp server.

SMTP サーバーに接続できません。ネットワークに接続されていない、ネットワークの設定が間違っている、SMTP サーバーからの応答を取得できない、SMTP サーバー名が間違っている、DNS サーバーの指定が間違っている、DNS サーバーに指定された SMTP サーバーの IP アドレスがない、SMTP サーバーではないサーバーを指定した、または SMTP サーバーのポート番号が間違っています。DNS サーバーの IP アドレスと SMTP サーバの IP アドレス、SMTP サーバ名と SMTP ポート番号、SMTP サーバの SMTP ポート番号、ネットワークの接続と設定を確認してください。

SMTPC: username or password wasn't correct. [応答コード] (インフォメーション)

SMTP サーバーに認証接続できません。SMTP ユーザー名の指定が間違っているか、SMTP パスワードの指定が間違っています。SMTP ユーザー名、SMTP パスワードを確認してください。

Snmp over IPv4 is ready.

IPv4 上での SNMP 通信が可能です。

Snmp over IPv6 is ready.

IPv6 上での SNMP 通信が可能です。

Snmp over IPX is ready.

IPX 上での SNMP 通信が可能です。

trap account is unavailable.

Trap 送信先アカウント名が、機器が管理するアカウント名とは別のものが指定されているため、そのアカウントでは v3Trap は送信されません。送信先アカウント名を機器が管理するアカウント名に変更してください。

snmpd start.

Snmpd を開始しました（電源 ON / OFF のみ表示します）。

started.

ダイレクトプリントサービスを開始しました。

Started.

Bonjour (Rendezvous) 機能が起動しました。

Terminated.

Bonjour (Rendezvous) 機能が終了しました。

The print server received error < エラー番号 > during attempt to log in to the network. Access to the network was denied. Verify that the print server name and password are correct.

（プリントサーバ動作時）ファイルサーバへのログインに失敗しました。プリントサーバが登録されていないか、パスワードが与えられています。プリントサーバをパスワードなしで登録してください。

too many pictures.

1回の印刷で指定する画像が多すぎるため、正常に印刷できませんでした。指定画像数を減らして印刷してください。

usbd is disable

セキュリティモードの設定で usbd が使用不可です。セキュリティモード設定の usbd を使用可にしてください。

WINS name registration: No response to server(WINS サーバアドレス)

登録処理に対する応答がサーバからありません。WINS サーバアドレスを確認してください。または、WINS サーバが正常に作動しているか確認してください。

WINS wrong scopeID=<スコープ ID>

不正なスコープ ID が使用されています。正常なスコープ ID を設定して下さい。

wpa authentication Failed

WPA 認証に失敗しました。WPA の設定項目を確認してください。

wpa authentication started

WPA 認証を開始しました。

wpa IEEE802.1X started

WPA 認証を開始しました。

wpa connectiong to authenticator

オーセンティケータに接続します。

wpa link up

WPA の認証鍵配布・交換が終了し、接続が完了しました。

wpa probe response doesn't have IE.

プローブ応答に IE がありません。

wpa success authenticated

認証が無事に成功しました。

wpa success key received

暗号鍵配を取得しました。

2

wpa waiting for key

暗号鍵の配布を待っています。

wpasupd start

wpasupd が起動しました。

wpasupd stop

wpasupd が終了しました。

目 参照

- P.159 「オプション指定」

3. Windows の補足情報

Windows に関する補足情報です。

Windows からのファイル直接印刷

Windows でコマンドを使用したファイル直接印刷の方法についての説明です。

3

★ 重要

- この方法で印刷できるファイルは、本機が搭載しているエミュレーション用に作られたファイルです。エミュレーション用に作られたファイルとは、たとえば PostScript 3 用のポストスクリプトファイルなどです。
- 搭載していないエミュレーションのファイルは印刷できません。

◆ Windows 95/98/Me

ftp コマンドを使って印刷できます。

◆ Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003、Windows NT 4.0

lpr、rcp、ftp コマンドを使って印刷できます。

セットアップ

Windows からファイル直接印刷するための、環境設定の方法の説明です。

1 本機の操作部で TCP/IP プロトコルを有効にし、IP アドレスなど TCP/IP に関するネットワーク環境を設定します。

本機の TCP/IP プロトコルは、工場出荷時は有効に設定されています。

2 Windows に TCP/IP プロトコルを組み込み、ネットワーク環境を設定します。ネットワークに関する設定内容はネットワーク管理者の方に確認してください。

3 Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003 で lpr を使って印刷する場合は、ネットワークソフトウェアとして「UNIX 用印刷サービス」を組み込みます。Windows NT 4.0 の場合は「Microsoft TCP/IP 印刷」を組み込みます。

↓ 補足

- IP アドレスの設定方法について詳しくは、『初期設定編』「ネットワーク」を参照してください。

目 参照

- P.138 「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」
- P.169 「DHCP を使用する」
- 『初期設定編』「ネットワーク」

IP アドレスの代わりにホスト名を使用する

ホスト名が定義されていると、IP アドレスの代わりにホスト名を使ってプリンターを指定することができます。使用するホスト名はネットワーク環境により異なります。

DNS を使用している場合

DNS サーバ上のデータファイルに設定したホスト名を使用します。

3 DHCP を使用してプリンターの IPv4 アドレスを設定している場合

システム設定リストの「プリンタ名」に印刷された名前をホスト名として使用します。

↓ 補足

- ・詳しくは、『初期設定編』「テスト印刷」を参照してください。

↓ 参照

- ・『初期設定編』「テスト印刷」

その他の場合

印刷を行うコンピュータの hosts ファイルに、ネットワークプリンターの IP アドレスとホスト名を追加します。追加のしかたは OS により異なります。

■ Windows 95/98/Me の場合

1 ¥WINDOWS¥HOSTS.SAM を同じディレクトリにコピーし、名前を HOSTS (拡張子を付けません) にします。

2 作成した ¥WINDOWS¥HOSTS ファイルをメモ帳などで開きます。

3 hosts ファイルに IPv4 アドレスとホスト名を以下の形式で追加します。

192.168.15.16 printer # NP

192.168.15.16 は IPv4 アドレス、printer はプリンターのホスト名、# から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。

4 ファイルを上書き保存します。

■ Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003、Windows NT 4.0 の場合

1 メモ帳などで hosts ファイルを開きます。

hosts ファイルは以下の場所にあります。

¥WINNT¥SYSTEM32¥DRIVERS¥ETC¥HOSTS

¥WINNT は Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003、Windows NT 4.0 のインストール先のディレクトリです。

2 hosts ファイルに IPv4 と IPv6 のアドレスとホスト名を以下の形式で追加します。

IPv4 の場合

192.168.15.16 printer # NP

192.168.15.16 は IPv4 アドレス、printer はプリンターのホスト名、# から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。

IPv6 の場合

2001:DB::100 printer # NP

2001:DB::100 は IPv6 アドレス、printer はプリンターのホスト名、# から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。

3 ファイルを上書き保存します。

↓ 補足

- IPv6 環境下の Windows Server 2003 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。
- IPv6 対応の OS は、Windows XP SP2 と Windows Server 2003、および Windows Vista です。

印刷方法

lpr、rcp、ftp コマンドを使った印刷方法の説明です。

コマンドはコマンドプロンプト ウィンドウで入力します。各 Windows でのコマンドプロンプトの場所は次のとおりです。

◆ Windows 95/98 の場合：

[スタート] - [プログラム] - [MS-DOS プロンプト]

◆ Windows Me の場合：

[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [MS-DOS プロンプト]

3

◆ Windows 2000 の場合：

[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト]

◆ Windows XP/Vista、Windows Server 2003 の場合：

[スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト]

◆ Windows NT 4.0 の場合：

[スタート] - [プログラム] - [コマンドプロンプト]

補足

- ・印刷するファイルのデータ形式とプリンターのエミュレーションモードを合わせてください。
- ・「print requests full」のメッセージが表示されたときは、印刷要求がフルの状態です。印刷要求が少なくなつてから印刷し直してください。各コマンドを使用したときの最大セッション数は次の通りです。
 - ・lpr : 10
 - ・rcp : 5
 - ・ftp : 3
- ・ファイル名はコマンドを実行するディレクトリからのパスを含めた形で入力してください。
- ・コマンドの中で指定する「オプション」はプリンター固有のオプションで、内容は UNIX から印刷する場合と同様です。
- ・エミュレーションによってはエミュレーション固有のオプションも用意されています。それらのオプションについては各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

参照

- ・P.159 「オプション指定」

lpr

◆ IP アドレスを使ってプリンターを指定する場合

c:> lpr -S プリンターの IP アドレス [-P オプション] [-o1] ¥パス名¥ファイル名

◆ IP アドレスの代わりにホスト名を使用する場合

c:> lpr -S プリンターのホスト名 [-P オプション] [-o1] ¥パス名¥ファイル名
バイナリーファイルを印刷する場合は -o1 (小文字の O と、小文字の L) オプションを付けてください。

ホスト名が printer のプリンターに、C:¥PRINT ディレクトリにある、名前が file1 の PostScript ファイルを印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。

c:> lpr -S printer -P filetype=RPS -o1 C:¥PRINT¥file1

rcp

あらかじめ hosts ファイルにプリンターのホスト名を登録しておきます。

c:> rcp [-b] ¥パス名¥ファイル名 [¥パス名¥ファイル名...] プリンターのホスト名 : [オプション]

- ・ファイル名には「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
 - ・バイナリーファイルを印刷する場合は -b オプションを付けてください。
- ホスト名が printer のプリンターに、C:¥PRINT ディレクトリにある、名前が file1 と file2 の PostScript ファイルを印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。

c:> rcp -b C:¥PRINT¥file1 C:¥PRINT¥file2 printer:filetype=RPS

↓ 補足

- hosts ファイルに本機のホスト名を登録する方法について詳しくは、「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。

ftp

印刷するファイル数に応じて put または mput コマンドを使います。

◆ 印刷するファイルが 1 つの場合

```
ftp> put ¥パス名¥ファイル名 [オプション]
```

◆ 印刷するファイルが複数の場合

```
ftp> mput ¥パス名¥ファイル名 [¥パス名¥ファイル名 ...]
```

1 本機の IP アドレス (または hosts ファイルに設定した本機のホスト名) を引数にして ftp コマンドを起動します。

% ftp 本機のアドレス

2 ユーザー名とパスワードを入力し、[Enter] キーを押します。

User:

Password:

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

ユーザー認証が設定されているときは、ユーザー名にログインユーザー名を、パスワードにログインパスワードを入力します。

3 バイナリーファイルを印刷するときは、ファイルのモードをバイナリーモードにします。

```
ftp> bin
```

4 印刷するファイルを指定します。

以下は C:¥PRINT ディレクトリにある、file1 という名前の PostScript ファイルを印刷する例と、file1 と file2 を印刷する例です。

```
ftp> put C:¥PRINT¥file1 filetype=RPS
```

```
ftp> mput C:¥PRINT¥file1 C:¥PRINT¥file2
```

5 ftp を終了します。

```
ftp> bye
```

補足

- ・ファイル名に「=」、「,」、「_」および「;」は使用できません。ファイル名をオプション文字列と判断してしまいます。
- ・mput コマンドではオプションを指定できません。
- ・pwd コマンドではオプションを指定できません。
- ・mput コマンドではファイル名に「*」や「_」のワイルドカードを使用できます。
- ・バイナリーファイルをアスキーモードで印刷すると、印刷データが変更され正しく印刷されないことがあります。
- ・C:¥PRINT ディレクトリにある、file1 と file2 という名前のファイルを印刷する例

```
ftp> mput C:¥PRINT¥file1 file2
```
- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティ編』をご確認ください。

4. Mac OS で使う

Mac OS で使う場合の設定方法です。

EtherTalk への切り替え

Mac OS の EtherTalk 環境でネットワークプリンターを使用する場合の設定方法の説明です。

4

◆ セットアップの流れ

- 1) Macintosh 側を EtherTalk に切り替えます
- 2) 本機の環境設定をします
- 3) プリンター名の変更をします
- 4) ゾーンの変更をします

補足

- ・ 対象となる Mac OS のバージョンは 8.6 以上、Mac OS X のバージョンは v10.1 以上です。
- ・ Mac OS から印刷するには PostScript 3 を含むオプションの拡張エミュレーションが本機に増設されている必要があります。
- ・ EtherTalk に必要なソフトウェアのインストールについては、Mac OS のマニュアルを参照してください。

Mac OS

Mac OS の場合の、EtherTalk への変更方法の説明です。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[AppleTalk] アイコンをダブルクリックします。

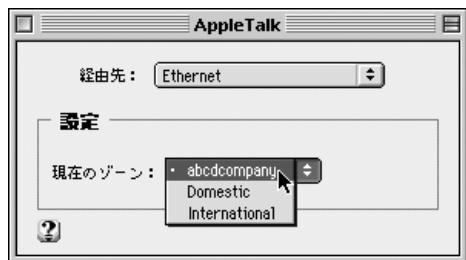


AppleTalk

- 2 [経由先] ポップアップメニューから「Ethernet」を選択します。



3 ゾーンを変更するときは、[現在のゾーン] ポップアップメニューから使用するゾーンの名前を選択します。



4 [AppleTalk] コントロールパネルを閉じます。

5 Mac OS を再起動します。

4

↓ 補足

- Mac OS の操作方法は使用している OS のバージョンによって多少異なります。ここでは Mac OS 9.2 を例に説明しています。その他のバージョンをお使いの場合は、本書の説明内容を参考に、それぞれのマニュアルを参照して設定してください。

Mac OS X

Mac OS Xの場合の、EtherTalkへの変更方法の説明です。

★ 重要

- 一般ユーザーの場合、ゾーンの変更にはユーザ名とパスワードが必要です。管理者にお問い合わせください。

- 1 [System Preference] または [システム環境設定] を開き、[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。



4

- 2 [AppleTalk] タブをクリックします。

- 3 「AppleTalk 使用」をチェックします。

- 4 ゾーンを変更する場合には、[AppleTalk ゾーン:] ポップアップメニューから使用するゾーンの名前を選択します。

- 5 設定が完了したら、[今すぐ適用] をクリックしてください。



↓ 補足

- Mac OS Xの操作方法は使用しているOSのバージョンによって多少異なります。本書の説明内容を参考に、それぞれのマニュアルを参照して設定してください。

本機の設定

プリンター側で AppleTalk プロトコルを有効にします（工場出荷時は有効です）。詳しくは「初期設定項目一覧」を参照してください。

 参照

- P.9 「初期設定項目一覧」

プリンター名の変更

プリンター名の変更方法についての説明です。

同じネットワーク上に同機種のプリンターを複数台接続するときは、必ずプリンター名を変更してください。同じプリンター名があると、接続された順番に Mac OS により [セレクタ] 上で PRINTER0、PRINTER1 のようにプリンター名の後に「0」「1」などの番号がついて表示されます。そのため、プリンター名は接続時の状況に応じて、さまざまに変化します。Mac OS の EtherTalk 環境でプリンター名を変更するには、PostScript 3 を含んだオプションの拡張エミュレーションに付属の「PS3 設定ユーティリティー」を使用します。

▼ 補足

- ・エミュレーションによってはエミュレーション固有のオプションも用意されています。それらのオプションについては各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

ゾーンの変更

ゾーンの変更方法についての説明です。

ネットワーク上にゾーンを設定している場合は、必要に応じてプリンターが所属するゾーンを変更します。

ゾーンを変更するには、PostScript 3 を含んだオプションの拡張エミュレーションに付属の「PS3 設定ユーティリティー」を使用します。

 **補足**

- エミュレーションによってはエミュレーション固有のオプションも用意されています。
それらのオプションについては各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

USB インターフェースを使う

Mac OS では USB インターフェースを使って印刷することができます。

★ 重要

- Mac OS から印刷するには PostScript 3 を含むオプションの拡張エミュレーションが本機に増設されている必要があります。

Mac OS

Mac OS 9.2.2 では、USB インターフェースを使って印刷することができます。ここでは設定方法を説明します。

4

- 1 ハードディスク内の [AdobePS Components] フォルダを開きます。
- 2 [デスクトップ・プリンタ Utility] をダブルクリックします。
- 3 [プリンタ:] ポップアップメニューから [AdobePS] を選択し、[デスクトップに作成...] から [プリンタ (USB)] を選択して、[OK] をクリックします。
- 4 [PostScript™ プリンタ記述 (PPD)] ファイルの [変更] をクリックします。



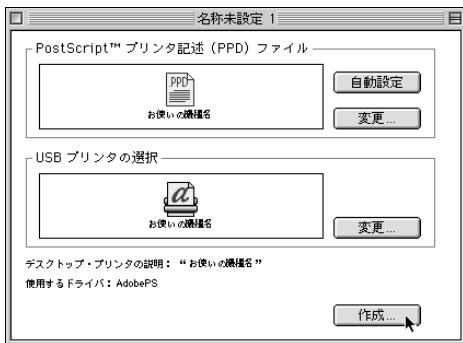
- 5 接続したプリンターのPPD ファイルを選択し、[選択]をクリックします。

6 [USB プリンタの選択:] で、[変更] をクリックします。



7 [USB プリンタの選択:] で、接続したプリンターを選択し、[OK] をクリックします。

8 [作成] をクリックします。



メッセージが表示されます。

9 [保存する] をクリックします。

10 保存先と名称を指定し、[保存] をクリックします。

デスクトップにプリンターアイコンが表示されます。

11 [デスクトップ・プリンタ Utility] を終了します。

補足

- Mac OS では本体標準の USB ポートのみ対応しています。対応 OS について詳しくは、『プリンタ機能編』「プリンターの仕様」を参照してください。
- Macintosh と USB 接続で印刷する場合、エミュレーションが自動では切り替わりません。本機の操作部から、「エミュレーション検知」を「する」に設定するか、エミュレーションを「PS3」に切り替えてから印刷を行ってください。エミュレーションの切り替えについて詳しくは、『プリンタ機能編』「エミュレーションを切り替える」を参照してください。

参照

- 『プリンタ機能編』「プリンターの仕様」
- 『プリンタ機能編』「エミュレーションを切り替える」

Mac OS X

Mac OS X 10.3. 以降では、USB インターフェースを使って印刷することができます。ここでは設定方法を説明します。

- 1 [プリンタ設定ユーティリティ] を起動します。
- 2 [追加] をクリックします。
- 3 ポップアップメニューから [USB] を選択します。



4

接続しているプリンターが表示されます。

- 4 プリンターを選択し、[プリンタの機種] ポップアップメニューから [WIDECONTROLLER] を選択します。
機種名の一覧が表示されます。
- 5 機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名を選択し、[追加] をクリックします。
- 6 [プリンタリスト] を閉じ、プリンタ設定ユーティリティを終了します。

↓ 補足

- ・対応 OS について詳しくは、『プリンタ機能編』「プリンターの仕様」を参照してください。

目 参照

- ・『プリンタ機能編』「プリンターの仕様」

Rendezvous を使う

Mac OS X 10.2.3～Mac OS X 10.3.x では、Rendezvous を使って本機に印刷できます。イーサネット接続、および無線 LAN で接続できます。

- 1 プリンタ設定ユーティリティを起動します。
- 2 [追加] をクリックします。
- 3 ポップアップメニューから [Rendezvous] を選択します。

4



接続しているプリンターが表示されます。

- 4 プリンターを選択し、[プリンタの機種] ポップアップメニューから [WIDECONTROLLER] を選択します。
機種名の一覧が表示されます。
- 5 機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名を選択し、[追加] をクリックします。
- 6 プリンタリストを閉じ、プリンタ設定ユーティリティを終了します。

補足

- Macintosh と Rendezvous で接続する場合、エミュレーションが自動では切り替わりません。本機の操作部から、「エミュレーション検知」を「する」に設定するか、エミュレーションを「PS3」に切り替えてから印刷を行ってください。エミュレーションの切り替えについて詳しくは、『プリンタ機能編』「エミュレーションを切り替える」を参照してください。
- Rendezvous 上で IP アドレスの設定は必要ありません。

参照

- 『プリンタ機能編』「エミュレーションを切り替える」

Bonjour を使う

Mac OS X 10.4 以降では、Bonjour を使って本機に印刷できます。イーサネット接続、および無線 LAN で接続できます。

1 プリンタ設定ユーティリティを起動します。

2 [追加] をクリックします。



4

プリンタブラウザが起動し、接続しているプリンタが表示されます。

3 プリンターを選択し、[使用するドライバ] ポップアップメニューから [WIDECONTROLLER] を選択します。

機種名の一覧が表示されます。

4 機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名を選択し、[追加] をクリックします。

5 プリンタブラウザを閉じ、プリンタ設定ユーティリティを終了します。

補足

- Macintosh と Bonjour で接続する場合、エミュレーションが自動では切り替わりません。本機の操作部から、「エミュレーション検知」を「する」に設定するか、エミュレーションを「PS3」に切り替えてから印刷を行ってください。
- Bonjour 上で IP アドレスの設定は必要ありません。

参照

- 『プリンター機能設定』「エミュレーションを切り替える」

5. UNIX で使う

本機を UNIX 環境で使用する場合の設定方法です。

セットアップ (UNIX)

UNIX でネットワークプリンターとして使用する場合の、設定方法の説明です。

本機は LPD プロトコルをサポートしており、RFC1179 に準拠した LPD 搭載のホストから使用することができます。

設定方法は各 OS に搭載された LPD システムによって異なっています。

LPD の設定方法

5

BSD ベースのリモートプリンタの設定方法、および Solaris2.x におけるネットワークプリンタの設定方法を説明します。

BSD ベースの LPD システム

システム上でスーパーユーザ (root 権限) または、それに準ずるシステム管理者権限が必要です。

★ 重要

- ・適用する OS 上で LPD 印刷をサポートしている
- ・本機に IPv4 アドレスが設定されており、ネットワーク上で有効なことが確認できている
- ・本機の設定における TCP/IP プロトコルおよび LPD プロトコルがともに有効になっている

◆ /etc/printcap へのエントリ追加

lpr コマンドを使って LPD 印刷ができるように、/etc/printcap を修正します。

ここでは、プリンタ名、ホスト名、論理プリンタ名が以下のように設定されているものとします。

プリンタ名 : printer_prn

ホスト名 : printer_host

論理プリンタ名 : filetype=RPS

・エントリ追加例

printer_prn|Network Printer:¥

:lp=:¥

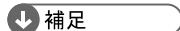
:rm=printer_host:¥

:rp=filetype=RPS:¥

:sd=/usr/spool/lpd/printer_prn:¥

:lf=/var/log/printer-lpd-errs:¥

:mx#0:

補足

- ・「printer_prn | Network Printer:¥」のフィールドは、プリンタの識別名（プリンタ名）となります。lpr コマンドから指定するプリンタ名は、ここで指定する識別名となります。
- ・「printer_prn | Network Printer:¥」のフィールドでは、「|」を使っていくつものプリンタ識別名を記載することが可能です。
- ・:lp=:¥ 以降のフィールドは、プリンタ属性に関する記載となります。ケーバビリティの名称で表されます。

• lp

本機を接続する際のデバイス名となります。本機をネットワークプリンタとして使用する場合には、通常このフィールドには何も指定しません。（なお、プリンタをワークステーション上に直接接続する際には、デバイスファイル名を記載します。）

• rm

本機のホスト名を指定します。必要に応じて /etc/hosts ファイルにホスト名を事前に記載する必要があります。

• rp

論理プリンタ名を指定します。本機では、印刷時のオプション指定文字列を指定します。特に必要がなければ、lp（デフォルト）を指定します。

• sd

印刷を行う際に一時的に使用するスプールディレクトリのパス名を指定します。スプールディレクトリはネットワークプリンタごとに必要になり、/etc/printcap に記載するエントリ毎に作成しなければなりません。

• lf

ログを格納するファイルのフルパス名を指定します。

• mx

スプールディレクトリにコピー可能なファイルの最大サイズを指定します。通常、何も指定しないか適当な値を設定します。0 を指定すると無制限、指定しないと 1024K バイトとなります。

◆ スプールディレクトリの作成

ターミナル上でスプールディレクトリを作成します。root 権限が必要です。

（例）

```
# mkdir /user/spool/lpd
# cd /user/spool/lpd
# mkdir printer-prn
# chown daemon printer-prn
# chgrp daemon printer-prn
# chmod 770 printer-prn
```

LPD システムを再起動します（LPD システムの再起動方法については、OS ごとに方法が異なります。詳細は OS に添付のドキュメントをご確認ください）。

（例）

```
# lpc restart printer_prn
```

◆ 印刷動作の確認

ここまでに作成したプリンターが正しく動作するかを確認します。

User: lpr-P プリンタ名 ファイル名 [ファイル名 ...]

(例)

% lpr-P printer-prn file1

 **補足**

- ・プリンタ名には、/etc/printcap にエントリを追加した際のプリンタ名を指定します。
- ・ファイル名には、「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- ・「print requests full」のメッセージが表示された場合は、印刷要求がフルで受け付けることが出来ない状態です。最大 10 セッションです。

Solaris の LP システム

システム上でスーパーユーザ (root 権限) または、それに準ずるシステム管理者権限が必要です。

 **重要**

- ・適用する OS 上で LPD 印刷をサポートしている
- ・本機に IPv4 アドレスが設定されており、ネットワーク上で有効なことが確認できている
- ・本機の設定における TCP/IP プロトコル及び LPD プロトコルがともに有効になっている

◆ プリンタの作成

Solaris では、ネットワークプリンタとリモートプリンタの 2 種類のプリンタを作成することができます。

ここでは、プリンタ名、ホスト名、論理プリンタ名が以下のように設定されているものとします。

プリンタ名 : printer_prn

ホスト名 : printer_host

論理プリンタ名 : filetype_RPS

・リモートプリンタの作成方法

/usr/sbin/lpadmin -p printer_prn -s printer_host!lp -T dumb -l any (非 PS プリンタ設定)

または

/usr/sbin/lpadmin -p printer_prn -s printer_host!filetype_RPS -T PS -l postscript (PS プリンタ設定)

・ネットワークプリンタの作成方法

lpadmin -p printer_prn -m netstandard -o protocol=bsd -o dest=printer_host:lp -v /dev/null -T unknown -l any (非 PS プリンタ)

または

lpadmin -p printer_prn -m netstandard -o protocol=bsd -o dest=printer_host:filetype_RPS -v /dev/null -T PS -l postscript (PS プリンタ)

 **補足**

- ・詳細は、Solaris に付属のドキュメントを参照して確認して下さい

◆ プリンタの有効化

作成したプリンタを有効化し、プリンタが動作できる状態にします。

```
# accept printer
destination printer "printer" now accepting requests
# enable printer
printer "printer" now enabled
```

◆ 印刷動作の確認

作成されたプリンタが正しく動作しているか、コマンドを入力して確認します。

```
Usage : lpr -d プリンタ名 ファイル名 [ ファイル名 ...]
% lp -d printer_prn file1
```

↓ 補足

- ・プリンタ名には、/etc/printers.conf にエントリを追加した際のプリンタ名を指定します。
- ・ファイル名には、「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- ・「print requests full」のメッセージが表示された場合は、印刷要求がフルで受け付けることが出来ない状態です。最大 10 セッションです。
- ・Postscript プリンタを作成した場合には、ファイル名で指定されるファイルは PostScript データでなければ、正しく出力されない場合があります。
- ・バナーページが出力される場合がありますので、不要な場合には、コマンドラインで「-o nobanner」指定により付加せずに出力できます。

オプション指定

オプションを使うことにより、本機固有のプリンター機能を使った印刷ができます。指定可能なオプションの種類と動作は、エミュレーションにより異なります。

◆ Solaris 2.6 以上でオプションを指定する場合

Solaris 2.6 以上で複数のオプションを指定するときは、セミコロン（;）で区切ります。また、オプションにイコール（=）やカンマ（,）を含めることはできません。filetype をオプションに指定するときは、イコールの代わりにアンダーライン（_）を使って、filetype_RPS 省略形は fil_RPS のように入力してください。

Solaris 2.6 以上でオプションを指定するときは、各コマンドで指定できるオプション数が異なります。

- rsh/rcp 1
- lpr/ftp 文字列制限の範囲内で複数指定可能

◆ オプションに入力できる文字列について

- 本機が認識できるオプション文字列は最大 512 バイトです。
- PostScript 3 をご使用の場合、本機が認識できるオプション文字列は最大 256 バイトです。
- OS によってはオプションとして入力できる文字数に制限があります。オプションの省略形を使っても文字数の制限を超えてしまう場合は、本機のプログラム登録を使ってください。

◆ オプションを指定するコマンドを入力する場合

- 複数のオプションを指定するときはカンマ（,）で区切って入力します。
- 印刷するファイルの中にオプション指定を制御するコマンドが含まれている場合は、その内容が優先します。
- イコール（=）を含まないオプションを単独で指定するときは、オプションの先頭にカンマ（,）を追加します。

▼ 補足

- RP-GL/2、または RTIFF エミュレーションから印刷オプションを指定できます。RP-GL/2 の印刷オプションについては、『RP-GL/2 編』、RTIFF の印刷オプションについては、『RTIFF 編』を、それぞれご確認ください。

▼ 参照

- 『RP-GL/2 編』「印刷オプション」
- 『RTIFF 編』「印刷オプション」

エミュレーションとプログラム

印刷時に使用するエミュレーションまたはプログラムを指定します。お使いの機種によっては、設定できるエミュレーションの指定値が異なります。

◆ filetype (または fil) = エミュレーションの指定値 (またはプログラム登録番号の指定値)

- ・エミュレーション : 指定値
 - RPCS : RCS
 - RP-GL/2 : RGL
 - PostScript3 : RPS
 - RTIFF : RTF
 - PDF : PDF
- ・プログラム登録番号 : 指定値
 - プログラム 1 : P01
 - プログラム 2 : P02
 - プログラム 3 : P03
 - プログラム 4 : P04
 - プログラム 5 : P05
 - プログラム 6 : P06
 - プログラム 7 : P07
 - プログラム 8 : P08
 - プログラム 9 : P09
 - プログラム 10 : P10
 - プログラム 11 : P11
 - プログラム 12 : P12
 - プログラム 13 : P13
 - プログラム 14 : P14
 - プログラム 15 : P15
 - プログラム 16 : P16

◆ PostScript 3 で印刷場合のコマンド例 (本機のホスト名 printer ファイル名 file1)

- ・ <rsh> % rsh printer print filetype=RPS < file1
- ・ <rcp> % rcp file1 printer:filetype=RPS
- ・ <ftp> ftp> put file1 filetype=RPS

◆ ftp の cd コマンドの利用

ftp で印刷する場合は、cd コマンドでオプションを指定しておけば、put または mput コマンド使用時にそのオプションが有効になります。

ftp> cd オプション
 ・搭載していないエミュレーションは指定しても無効です。

↓ 補足

- ・現在設定されているオプションを表示するには pwd コマンドを使います。
 ftp> pwd

給紙トレイ

給紙トレイを指定します。お使いの機種によっては、設定できる給紙トレイの指定値が異なります。

★ 重要

- ・エミュレーションがPostScript3、またはPDFのときに有効です。
- ・増設していないトレイを指定しても無効です。

◆ PostScript3

- ・tray= 紙トレイの指定値（紙トレイ：指定値）

紙トレイ1:tray1

紙トレイ2:tray2

紙トレイ3:tray3

手差しトレイ:bypass

自動トレイ選択:all

- ・トレイ2の用紙に印刷する場合のコマンド例（プリンターのホスト名 printer ファイル名 file1）

<rsh> % rsh printer print tray=tray2 < file1

<rcp> % rcp file1 printer:tray=tray2

<ftp> ftp> put file1 tray=tray2

用紙サイズ

用紙サイズを指定します。エミュレーションがPostScript3のときだけ有効です。

★ 重要

- ・存在しない用紙サイズは指定しても無効です。

◆ PostScript3

- ・paper= 用紙サイズの指定値

指定値: a0 (A0)、a1 (A1)、a2 (A2)、a3 (A3)、a4 (A4)、jisb1 (B1)、jisb2 (B2)、jisb3 (B3)、jisb4 (B4)、custom (不定形サイズ)

- ・A3の用紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 printer ファイル名 file1）

<rsh> % rsh printer print paper=a3 < file1

<rcp> % rcp file1 printer:paper=a3

<ftp> ftp> put file1 paper=a3

用紙種類

用紙の種類を指定します。

★ 重要

- ・エミュレーションが PostScript 3 または PDF のときに有効です。
- ・存在しない用紙種類は指定しても無効です。

◆ mediatype= 用紙種類の指定値

- ・指定値：plain（普通紙）、recycled（再生紙）、film（フィルム紙）、translucent（トレンシングペーパー）、plainorrecycled（普通紙 / 再生紙）、auto（自動選択）

◆ 再生紙の用紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 printer、ファイル名 file1）

```
<rsh> % rsh printer print mediatype=recycled < file1
<rcp> % rcp file1 printer:mediatype=recycled
<ftp> ftp> put file1 mediatype=recycled
```

5

排紙トレイ

排紙トレイを指定します。

★ 重要

- ・PostScript 3、PDF のときだけ有効です。
- ・存在しないトレイは指定しても無効です。

◆ PostScript 3、PDF、RPGL/2、RTIFF

- ・outbin= 排紙トレイの指定値
upper、lower、manual
- ・lower に排紙する場合のコマンド例（本機のホスト名 printer、ファイル名 file1）
<rsh> % rsh printer print outbin=lower < file1
<rcp> % rcp file1 printer:outbin=lower
<ftp> ftp> put file1 outbin=lower

印刷部数

印刷部数を指定します。

★ 重要

- ・エミュレーションが PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- ・漢字フィルターを指定すると、印刷部数の指定は無効になります。
- ・PostScript 3 の場合、「qty」と同時に指定しないでください。

◆ copies= 印刷部数（PostScript 3 : 1~9999）

10 印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 printer ファイル名 file1）

```
<rsh> % rsh printer print copies=10 < file1
<rcp> % rcp file1 printer:copies=10
<ftp> ftp> put file1 copies=10
```

ソート部数

ソートする印刷部数を指定します。

★ 重要

- ・エミュレーションがPostScript 3、またはPDFのときに有効です。
- ・「copies」と同時に指定しないでください。

◆ **qty= ソート部数 (PostScript 3 : 1~9999)**

10部ソートして印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 printer、ファイル名 file1）

```
<rsh> % rsh printer print qty=10 < file1
<rcp> % rcp file1 printer:qty=10
<ftp> ftp> put file1 qty=10
```

解像度

印刷する解像度を指定します。

5

★ 重要

- ・エミュレーションがPostScript 3 または PDF のときに有効です。

◆ **resolution= 解像度 (200,300,400,600)**

600dpiで印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 printer、ファイル名 file1）

```
<rsh> % rsh printer print resolution=600 < file1
<rcp> % rcp file1 printer:resolution=600
<ftp> ftp> put file1 resolution=600
```

↓ 補足

- ・300dpiの印刷は本機の操作部で設定することはできません。オプション指定をした場合に限り使用できます。

オプション指定の変更方法

lpr で印刷するときにはインストールシェル実行時に指定したオプションが使われます。一度設定したオプションを変更したい場合は、使用しているワークステーションに応じて次のように操作します。

◆ BSD 系 UNIX ワークステーション

/etc/printcap から変更するプリンターのエントリーを削除し、インストールシェルを使ってもう一度セットアップします。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。または、/etc/printcap から変更するプリンターのエントリーを探し、その rp ケーバリティを新しいオプション指定に変更します。

◆ Solaris、HP-UX

変更するプリンターのエントリーを削除し、インストールシェルを使ってもう一度セットアップします。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。プリンターのエントリーを削除するには、以下のように操作します。

1) スケジューラを停止します。

```
# /usr/sbin/lpshut
```

2) プリンターを削除します。

```
# /usr/sbin/lpadmin -x プリンターの名前
```

3) スケジューラを再起動します。

```
# /usr/lib/lp/lpsched
```

本機の状態表示

BSD 系 UNIX ワークステーションの場合、以下のコマンドを使ってプリンターの状態や情報を表示したりファイルにコピーすることができます。

表示する場合

本機の状態を表示するためのコマンドの説明です。

- `lpq` コマンドを使って本機の状態（ステータス）と印刷ジョブ情報を表示できます。
% `lpq -P` 本機の名前
- `rsh`、`ftp` コマンドまたは `sftp` を使って、指定したパラメーターに応じた内容を表示できます。
% `rsh` 本機のホスト名 パラメーター
% `ftp` 本機のホスト名
User: ユーザー名
password: パスワード
`ftp>get` パラメーター
- `rsh`、`rcp`、`ftp`、`sftp` で指定できるパラメーターには次の種類があります。
stat: 機器の状態（ステータス）
stat: 印刷ジョブの情報（印刷ジョブ情報）
info: 紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション（機器情報）
prnlog: これまでに印刷した記録（プリントログ情報）
syslog: ネットワークインターフェースボードに関して発生したメッセージの記録（システムログ情報）

5

ファイルにコピーする場合

`rcp`、`ftp` コマンドまたは `sftp` を使って、指定したパラメータに応じた内容をファイルにコピーできます。

% `rcp` プリンターのホスト名 : パラメータ ファイル名
% `ftp` プリンターのホスト名
User: ユーザー名
password:
`ftp> get` パラメータ ファイル名

補足

- パラメータの種類は、表示する場合と同じです。

6. 付録

Windows ターミナルサービス / MetaFrame、DHCP の接続方法の説明や、ネットワークインターフェースボード、ダイヤルアップ機器や Netware 環境を使用する場合の注意、およびプリンターやオプションの仕様一覧を示します。

Windows ターミナルサービス / MetaFrame を使用する場合

Windows ターミナルサービス /MetaFrame を使用する方法の説明です。

動作環境

使用可能な OS と MetaFrame との組み合わせは次のとおりです。

◆ Windows NT Server 4.0 Terminal Server Edition

- MetaFrame 1.8 (SP3/FR1+SP3/SP4/FR1+SP4)
- MetaFrame XP (SP1/FR1)

◆ Windows 2000 Server

- MetaFrame 1.8 (SP3/FR1+SP3/SP4/FR1+SP4)
- MetaFrame XP (SP1/SP2/FR1/FR1+SP2/FR2/SP3/FR1+SP2/FR2+SP3/FR3)
- MetaFrame Presentation Server 3.0

◆ Windows Server 2003

- MetaFrame XP (FR3)
- MetaFrame Presentation Server 3.0

制限

動作が制限される環境についての説明です。

◆「Windows ターミナルサービス」動作時

Windows NT Server 4.0 Terminal Server EditionまたはWindows 2000 Serverファミリでターミナルサービスを実行している環境でNetwork Monitor for Clientをインストールする場合は、必ずインストールモードでインストールを行ってください。インストールモードでインストールを行うには、次の2通りの方法があります。

- 1) [コントロールパネル] の [アプリケーションの追加と削除] を使用して Network Monitor for Client をインストールします。
- 2) MS-DOS コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

CHANGE USER /INSTALL

インストールモードを終了するには、MS-DOS コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

CHANGE USER /EXECUTE

詳しくは Windows のヘルプを参照してください。

◆印刷時

6

サイズの大きな画像や、フォントが大量に含まれたデータを印刷すると、画像や文字抜けが発生する場合があります。事前検証のうえ、運用してください。

◆「クライアントプリンタの自動作成機能」使用時

「クライアントプリンタの自動作成機能」とは、MetaFrame サーバーにログオンする時に、クライアント側で使用しているローカルプリンタの情報を基にして、MetaFrame サーバー側にて、そのクライアント専用の論理プリンタが自動的に作成される機能です。事前検証のうえ、運用してください。

- ・大容量の画像データを印刷したり、ISDN などの電話回線を利用した WAN 環境でお使いになる場合、事前検証のうえ、運用してください。
- ・MetaFrame XP 1.0 以降をご使用の場合は、「Citrix 管理コンソール」より、「クライアントプリンターで使用可能な帯域幅」をお使いの環境に合わせて設定して、使用してください。

サーバー側で印刷エラーが発生し、印刷ジョブや「クライアントプリンタの自動作成機能」で作成されたプリンターが削除されない場合、次の対処方法を行ってください。

- ・MetaFrame 1.8 SP3/FR1+SP3/SP4、MetaFrame XP1.0 SP1/SP2/SP3/FR1
レジストリにて「完了していない印刷ジョブを削除する」設定を実施します（詳細については MetaFrame の Readme を参照してください）。

- ・MetaFrame XP1.0 FR2/FR3
- ・MetaFrame Presentation Server 3.0

Citrix 管理コンソールの「プリンタの管理」のプロパティにて「ログオフ時に保留中の印刷ジョブを削除する」設定を実施します。

◆「プリンタードライバーの複製機能」使用時

事前検証のうえ、運用してください。

正しく複製がされない場合は、各サーバーにプリンタードライバーをインストールして、運用してください。

補足

- ・制限事項の詳細については、販売店にご確認ください。

DHCP を使用する

本機を DHCP 環境で使用することができます。WINS サーバーが稼働している環境では、同時にプリンター名を WINS サーバーに登録することができます。

動作対象の DHCP サーバーは、Windows 2000 Server 日本語版、Windows NT 4.0 Server 日本語版、NetWare、および UNIX に標準添付されている DHCP サーバーです。

WINS サーバーを使用する場合は、本機の設定項目で [WINS 設定] を [使用する] に設定してください。

WINS サーバーを使用することで、リモートネットワークのプリンターポートでホスト名を使用できます。

WINS サーバーを使用しない場合は、毎回同じ IPv4 アドレスが割り当てられるように、本機に割り当てる IPv4 アドレスを DHCP サーバーで予約してください。

複数の DHCP サーバーが存在する場合は、すべての DHCP サーバーに同じ予約をしてください。本機は最初に応答した DHCP サーバーからの情報で動作します。

ネットワークに ISDN 回線を接続している環境で DHCP リレーエージェントを使用した場合、本機からパケットが送出されるたびに ISDN 回線が接続され、多大な通信料がかかることがあります。

補足

- ・本機が DHCP から取得した IPv4 アドレスは、システム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、『初期設定編』「テスト印刷する」を参照してください。

参照

- ・『初期設定編』「テスト印刷する」

AutoNet 機能を使用する

DHCP サーバーから IPv4 アドレスが割り当てられなかった場合、本機は、臨時に 169.254.xxx.xxx ではじまるネットワーク上で使用されていない IPv4 アドレスを自動選択して使用できます。

補足

- ・AutoNet 機能で自動選択された IPv4 アドレスは、DHCP サーバーが IPv4 アドレスの割り当てを再開すると、DHCP サーバーから割り当てられた IPv4 アドレスを優先的に使用します。このとき、本機が再起動するため、一時的に印刷ができなくなります。
- ・本機が使用している IPv4 アドレスはシステム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、『初期設定編』「テスト印刷する」を参照してください。
- ・AutoNet モードで動作中の場合、WINS サーバーへのプリンター名の登録は行われません。
- ・AutoNet 機能で起動している機器以外とは通信できません。ただし、Mac OS X 10.2.3 以降が稼働している Macintosh とは通信できます。

参照

- ・『初期設定編』「テスト印刷する」

WINS サーバーを使用する場合

プリンターの起動時に、プリンターのプリンター名を WINS (Windows Internet Name Service) サーバーに登録することができます。WINS サーバーにプリンター名を登録すると、DHCP 環境で使用している場合、Network Monitor for Client のポート名にプリンターのプリンター名を使用して印刷できます。

ここでは、プリンターが WINS サーバーを使用できるようにする設定について説明します。サポートする WINS サーバーは、Windows NT 4.0 Server Service Pack 4 以降または Windows 2000 Server の WINS マネージャーです。

WINS サーバーの設定については、Windows のヘルプを参照してください。

WINS サーバーが応答しない場合、ブロードキャストによるプリンター名の登録が行われます。

登録できるプリンター名は、半角英数字で 15 バイト以内です。

Web ブラウザを使用する方法

6

- 1** Web ブラウザを起動します。
- 2** Web ブラウザのアドレスバーに「`http:// (本機のアドレス) /`」と入力し、**本機にアクセスします。**
Web Image Monitor のトップページが表示されます。
- 3** **[ログイン] をクリックします。**
ログインユーザー名とログインパスワードを入力するダイアログが表示されます。
- 4** ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、**[ログイン] をクリックします。**
ログインユーザー名とログインパスワードについては管理者にお尋ねください。
- 5** メニューエリアの **[設定]** をクリックし、**[ネットワーク]** エリアの **[IPv4]** をクリックします。

- 6 [Ethernet+IEEE802.11b] 欄の [WINS] が「有効」になっていることを確認し、[プライマリ WINS サーバー] と [セカンダリ WINS サーバー] にそれぞれ WINS サーバーの IP アドレスを入力します。



- 7 [OK] をクリックします。

- 8 Web ブラウザを終了します。

補足

- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊の『管理者の方へ』をご確認ください。

6

telnet を使用する方法

参考

- ・P.83 「telnet を使う」

ダイナミック DNS 機能を使用する

ダイナミック DNS とは、DNS サーバが管理しているレコード（A レコードおよび PTR レコード）を動的に更新（登録・削除）する機能です。本機が接続されているネットワーク環境に DNS サーバがあり、本機が DNS クライアントである場合、ダイナミック DNS 機能によって動的にレコードを更新することができます。

更新処理について

本機の IP アドレスが静的か DHCP から取得しているかによって、更新処理の動作が異なります。

ダイナミック DNS 機能を使用しない場合、本機の IP アドレスが変更されると、DNS サーバで管理しているレコードを手動で更新する必要があります。

本機でレコードの更新を実行する場合、DNS サーバの設定が次のどちらかになっている必要があります。

- ・セキュリティ設定がされていない
- ・セキュリティ設定で、更新を許可するクライアント（本機）を IP で指定している

6

◆ 静的 IP 設定の場合

IP アドレス、ホスト名が変更された場合、本機が A レコード、および PTR レコードを更新します。

また、A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- ・イーサネット、IEEE802.11b の場合

RNPPRNXX (PRNXX は MAC アドレスの下位 3 バイトの 16 進数)

◆ DHCP 設定の場合

DHCP サーバーが本機の代理でレコードを更新します。次のどちらかになります。

- ・本機が DHCP サーバーから IP アドレスを取得する際、DHCP サーバーが A レコードと PTR レコードを更新

- ・本機が DHCP サーバーから IP アドレスを取得する際、本機が A レコードを更新し、DHCP サーバーが PTR レコードを更新

A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- ・イーサネット、IEEE802.11b の場合

RNPPRNXX (PRNXX は MAC アドレスの下位 3 バイトの 16 進数)

補足

- ・メッセージ認証を用いた動的更新 (TSIG、SIG(0)) はサポートしていません。

動作対象の DNS サーバー

◆ 静的 IP 設定の場合

- Windows 2000 Server に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

◆ DHCP 設定の場合で本機が A レコードを更新する場合

- Windows 2000 Server に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

◆ DHCP 設定の場合で、DHCP サーバーがレコードを更新する場合

- Windows 2000 Server に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降
- NetWare 5J 以降に標準添付の DNS サーバー

◆ IPv6 設定の場合

- Windows Server 2003/2003 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND9.2.3 以降

動作対象の DHCP サーバー

本機の代理で A レコード、および PTR レコードを更新することができる DHCP サーバーは次のとおりです。

- Windows 2000 Server (Service Pack 3 以降) に標準添付の Microsoft DHCP サーバー
- ISC DHCP 3.0 以降
- NetWare 5J 以降に標準添付の DHCP サーバー

ダイナミック DNS 機能の設定方法

telnet で dns コマンドを使用して設定します。

目 **参照**

- P.90 「dns」

使用上の注意

ネットワークインターフェースボードを使用する場合は、次の事項に注意してください。設定が必要な場合は、正しく設定してからお使いください。

ネットワークに ISDN 回線を接続している場合

ネットワークユーティリティには周期的に装置と通信を行うものがあり、設定したアドレスの値によっては ISDN 回線が接続されたままの状態になり、多大な通信料がかかることがあります。装置のネットワークアドレスを設定するとき、及びネットワークユーティリティの通信先のアドレスを指定するときは、回線の接続が発生しない値に設定してください。

リモート側のネットワーク上に NetWare のファイルサーバが存在している場合、本機から送出されるパケットにより ISDN 回線が接続されたままの状態になり、多大な通信料がかかることがあります。これは NetWare の仕様によるものなので、この問題を回避するには次に示すネットワーク管理上での対応が必要です。ネットワーク管理上対応できない場合は、本機の設定で対応してください。

6

ネットワーク管理上の対応方法

ISDN ルーターで本機のパケットをフィルタリングし、本機のパケットが ISDN 回線に流れないように設定してください。

フィルタリングする本機の MAC アドレス（物理アドレス）は、本機から印刷するシステム設定リストの「イーサネットアドレス」に記載されています。システム設定リストについて詳しくは、『初期設定編』を参照してください。

ルーターの設定を変更できない場合は、次の手順で対応してください。

■ プリンターの設定による対応方法（NetWare を使用する場合）

1 本書のセットアップ方法にしたがい、必ずファイルサーバを指定します。

Network Monitor for Admin では、イーサネットボード設定ツールのプロパティシートを開き、[NetWare] タブの [ファイルサーバ名] ボックスに、ファイルサーバ名を入力します。

2 NetWare の使用環境に合わせてフレームタイプを固定します。

■ プリンターの設定による対応方法（NetWare を使用しない場合）

1 ネットワークインターフェースボードは印刷していない間もネットワーク上にパケットを発行します。プロトコルの選択で NetWare を無効にします。

NetWare 環境で印刷する場合

フォームフィードの設定

NetWare 上で用紙送り（フォームフィード）の設定をしないでください。Windows のプリンタードライバーで改ページの制御を行っているため、NetWare 上で設定する必要はありません。設定していると正しく印刷できない場合があります。

用紙送りしないようにするには、使用している OS に応じて次のように設定します。

- Windows 95/98/Me の場合はプリンターのプロパティの [プリンタ設定] タブで、[フォームフィード] のチェックを外します。

バナーページの設定

NetWare 上でバナーページの設定をしないでください。Windows のプリンタードライバーで改ページの制御を行っているため、NetWare 上で設定する必要はありません。

バナーページを付けないようにするには、使用している OS に応じて次のように設定します。

- Windows 95/98/Me の場合はプリンターのプロパティの [プリンタ設定] タブで、[バナーの使用] のチェックを外します。

本機のリセット後に印刷するとき

リモートプリンタとして使用している本機をリセットすると、プリンターは 30~40 秒後にいったんプリントサーバから切断され、その後再び接続されます。リセット後、切断されるまでの間も印刷ジョブは受け付けられますが、印刷を開始するのに時間がかかる場合があります。

拡張無線 LAN ボード（オプション）を取り付けているとき

拡張無線 LAN インターフェースを使ってネットワークに接続しているときは、次のことに注意してください。

◆ 本機を移動するとき

本機を短い距離で移動するときは、拡張無線 LAN ボードに取り付けているアンテナを外してください。移動後にアンテナを取り付けるときは、次のことに注意してください。

- ・アンテナはなるべく見通しのよい位置に取り付ける。
- ・アンテナとアンテナは 4cm～6cm 間をあけ、接触しないようにする。
- ・原稿カバーや原稿自動送り装置（ADF）がぶつからない位置に取り付ける。

◆ ネットワークの電波状態が悪いとき

電波状態が悪いと、接続が途切れたり、接続できなくなったりします。本機の「電波状態」とアクセスポイントの電波状態を確認し、電波状態が悪いときは、次の点に注意して対処してください。

- ・本機とアクセスポイントを近づける。
- ・アクセスポイントと本機の間の見通しをよくする。
- ・アクセスポイントや本機の近くから電子レンジなど電波の発する機器を遠ざける。

6

◆ TCP/IP プロトコル（IPv4/IPv6 について）

IP アドレスとは TCP/IP ネットワーク上で機器を判別するための、重複しない特定の番号（アドレス）です。

その中で IPv4 というプロトコルに基づく 32 ビットのアドレス空間を「IPv4」（xxx.xxx.xxx.xxx の形で表される）、IPv6 というプロトコルに基づくアドレス空間を「IPv6」（xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形で表される）といいます。

本機では「IPv6」の工場出荷値は「off」になっておりますので、IPv6 環境でご使用になる場合は、本体パネルにて「IPv6」の設定を「on」にしてください。その場合でも IPv4 は使用可能です。

IPv6 環境では、本体の電源を入れたときにネットワークケーブルが本体に接続されいれば、自動で本体にローカルのアドレスが設定されます。これを「リンクローカルアドレス」と呼び、IPv4 環境での Autonet に相当します。

補足

- ・アクセスポイントの電波状態は、使用しているアクセスポイントの使用説明書を参照して確認してください。

7. 仕様

ネットワーク仕様

対応インターフェース／フォーマット／プロトコル

インターフェース	1000BASE-T、100BASE-TX、10BASE-T、 IEEE 802.11b
フレームタイプ	EthernetII、IEEE802.2、IEEE802.3、SNAP
プロトコル：プリンター機能	IPv4、IPv6（プリンターのみ）、LPR、RSH、RCP、 DIPRINT、FTP、IPP、AppleTalk、 IPX/SPX（NetWare）、SMB
プロトコル：スキャナー機能	IPv4、RSH、FTP、SMTP、SMB、POP3、NCP
プロトコル：ドキュメントポックス機能	IPv4、FTP、HTTP
プロトコル：機器管理機能	IPv4、RSH、RCP、FTP、SNMP、HTTP、 TELNET（mshell）、NBT、DHCP、DNS、LDAP
SNMP v1/v2	MIB-II、PrinterMIB、HostResourceMIB、PrivateMIB
SNMP v3	MIB-II、PrinterMIB、HostResourceMIB、PrivateMIB、 SNMP-FRAMEWORK-MIB、SNMP-TARGET-MIB、 SNMP-NOTIFICATION-MIB、SNMP-USER-BASED-SM-MIB、SNMP-VIEW-BASED-ACM-MIB

IPP と SMB は、Network Monitor for Client で使用します。

IPP は、Windows XP、Windows Server 2003 で IPP ポートを使用する場合、OS の標準 IPP ポートを使用できます（Windows 98、Windows NT、Windows 2000 は、Network Monitor for Client をご使用ください）。

AppleTalk は、PostScript 3 を含むカードを装着した場合に使用できます。

搭載アプリケーション

本機で使用できるアプリケーションは以下の通りです。

- ・コピー
- ・プリンター
- ・スキャナー
- ・ドキュメントボックス

 **補足**

- ・プリンター、スキャナー機能を使用するためには、プリンター／スキャナーユニットが必要です。

索引

アルファベット索引

AppleTalk	143, 146
AutoNet	169
DHCP	138, 169
DHCP サーバー	173
DNS	138
DNS サーバー	173
EtherTalk への切り替え	143
EtherTalk への切り替え (Mac OS)	143
EtherTalk への切り替え (Mac OS X)	145
IPP 使用時の注意事項	75
ISDN	174
LPD の設定方法	155
MetaFrame	167, 168
NetWare	22, 175
Network Monitor for Admin	54
Network Monitor for Client	73
PostScript 3 編	1
Bonjour	153
Rendezvous	152
RP-GL/2 編	1
RTIFF 編	1
telnet	83
UNIX	155
USB	149
USB インターフェース (Mac OS)	149
USB インターフェース (Mac OS X)	151
Web Image Monitor	41, 48, 170
Web ブラウザ	41
Windows ターミナルサービス	167, 168
WINS サーバー	170

あ行

アドレス情報の管理	72
印刷通知	20
印刷部数	162
印刷方法 (ftp)	142
印刷方法 (lpr)	141
印刷方法 (rcp)	141

印刷枚数の情報の保存	61
印刷枚数の情報のリセット	62
印刷枚数の表示	61
インストール (Network Monitor for Admin)	55
エミュレーション	160
オプション指定	159
オプション指定の変更	164
おもなオプションと略称	8

か行

解像度	163
拡張無線 LAN ボードを 取り付けているとき	176
管理者モード	47
機器監視設定	73
機器情報	120
機器の監視	76
機器の状態	115
機器の状態表示	69, 74
給紙トレイ	161
クイックガイド	1
この本の読み方	7
コピー機能/ ドキュメントボックス機能編	1
コメントの変更	70
こんなときには	1

さ行

システムログ情報	129
自動メール通知	78
取得情報	121
仕様	177
省エネモードの設定	67
使用上の注意	174, 175, 176
使用説明書	1
使用できるアプリケーション	178
初期設定項目一覧	12
初期設定項目概要	9
初期設定編	1
スキャナー機能編	1

スプール印刷ジョブ一覧の確認	71
制限	168
セキュリティ編	1
設定項目一覧 (Web ブラウザ)	48
セットアップ	137
ソート部数	163
ゾーンの変更	148

た行

ダイナミック DNS 機能	172
動作環境	167

な行

ネットワークインターフェースボード	56
-------------------	----

ネットワークインターフェースボードの情報	123
ネットワークガイド	1
ネットワークプリンター	22
ネットワークプリンターの設定	19

は行

排紙トレイ	162
パスワードの設定	68
バナーページ	175
ファイル直接印刷	137
ファイルにコピーする	165
フォームフィード	175
プリンター機能編	1
プリンターナの変更	147
プリントサーバを使用する (NetWare 3.xJ)	23
プリントサーバを使用する (NetWare 4.xJ、 NetWare 5/5.1J、NetWare 6)	25
プリントサーバを使用する (NetWare 5/ 5.1J のピュア IP 環境)	26
プリントサーバを使用する (NetWare 6 のピュア IP 環境)	29
プリントジョブ情報	121
プリントログ情報	122
プログラム	160
ヘルプ (Web Image Monitor)	51
ヘルプへのアドレス (URL) リンク (Web Image Monitor ヘルプ)	53
ダウンロード (Web Image Monitor)	52

ホスト名の使用	138
本機のご利用にあたって	1
本機の状態表示	165
本体名の変更	70

ま行

マークについて	7
マニュアル一覧	2
メール通知機能	76, 80, 81
メールの認証	80
メッセージ一覧	129
メニュー構成	45
メニューロック	57
モード	45

や行

ユーザー情報管理ツールの起動	60
ユーザー情報の管理	60
ユーザー認証	44
要求時メール通知	79
要求時メールの送信	81
用紙サイズ	161
用紙種類	162
用紙種類設定	59

ら行

リセット後印刷	175
リモートプリンタとして使用する (NetWare 3.xJ)	32
リモートプリンタとして使用する (NetWare 4.xJ、5/5.1J)	35
リモートプリンタとして使用する (NetWare 6)	38
利用制限の設定	64, 65
ログアウト	44
ログイン	44



商標

- ドキュメントボックス、RPCS、RP-GL/2、RTIFF は株式会社リコーの商標または登録商標です。
 - Microsoft®、Windows®、Windows NT®、Windows Server®、Windows Vista™ は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。
 - Adobe®、Acrobat®、PostScript®、Reader® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の各国での登録商標です。
 - NetWare は、米国 Novell, Inc. の登録商標です。
 - Adobe、PostScript、Acrobat、PageMaker、Adobe Type Manager は、AdobeSystems,Incorporated (アドビシステムズ社) の各国での登録商標または商標です。
 - UNIX は、X/Open カンパニーリミテッドがライセンスしている米国ならびに他の国々における登録商標です。
 - Citrix、MetaFrame は、Citrix Systems, Inc. の登録商標です。
 - UPnP™ is a trademark of the UPnP™ Implementers Corporation.
 - その他の製品名、名称は各社の商標または登録商標です。
- * MS-DOS® の製品名は、Microsoft® MS-DOS® です。
- * Windows® 95 の製品名は、Microsoft® Windows® 95 です。
- * Windows® 98 の製品名は、Microsoft® Windows® 98 です。
- * Windows® Me の製品名は、Microsoft® Windows® Millennium Edition(Windows Me) です。
- * Windows® 2000 の製品名は以下のとおりです。
Microsoft® Windows® 2000 Professional
Microsoft® Windows® 2000 Server
Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server
- * Windows XP の製品名は以下のとおりです。
Microsoft® Windows® XP Home Edition
Microsoft® Windows® XP Professional
- * Windows® Vista の製品名は以下のとおりです。
Microsoft® Windows® Vista™ Ultimate
Microsoft® Windows® Vista™ Enterprise
Microsoft® Windows® Vista™ Business
Microsoft® Windows® Vista™ Home Premium
Microsoft® Windows® Vista™ Home Basic
- * Windows Server® 2003 の製品名は以下のとおりです。
Microsoft® Windows Server® 2003 Standard Edition
Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise Edition
Microsoft® Windows Server® 2003 Web Edition
- * Windows Server® 2003 R2 の製品名は以下のとおりです。
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Web Edition
- * Windows NT® 4.0 の製品名は以下のとおりです。
Microsoft® Windows NT® Server 4.0
Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0

平成書体は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。他のフォントと同様、フォントとして無断複製することは禁止されています。

★ 重要

- 本機に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作をミスしたり本機に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。
- 本機の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本機の使用により生じた損害について、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

おことわり

- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 本製品(ハードウェア、ソフトウェア)および使用説明書(本書・付属説明書)を運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。

使用説明書〈ネットワークガイド〉

